

はつ か の
白ヶ野第2・第3遺跡

(第2分冊 繩文前期～中・近世編)

うえ はる
上の原第1遺跡 (B地区)

東九州自動車道（西都～清武間）建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XⅣ

2002年

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第62集

白ヶ野第2・第3遺跡（第2分冊）正誤表

訂正箇所	原文	訂正文
P14 L27	手堀り	手掘り
P14 L32	陥し穴状遺跡	陥し穴状遺構
P14 L35	北半部び	北半部及び
P15	遺構分布模式図図	遺構分布模式図
P16 L12	南東約40離れた	南東約40m離れた
P16 L17	3.21cm	3.21m
P16 L19	5程cm	5cm程
P16 L20	竹管様（工具）	竹管様（工具）
P24 L15	竹管様（工具）	竹管様（工具）
P24 L26	4周	四周
P24 L34	4周	四周
P26 L2	SC1 1 1	SC3
P26 L4	4周	四周
P26 L11	(第9-10図)	(第9-10-11-24図)
P27 L3	I基	1基
P27 L18	竹管様（工具）	竹管様（工具）
P28 L13	竹管様（工具）	竹管様（工具）
P30 L12	撫で	ナデ
P99 L32	須恵器甕形土器	須恵器甕
P100 L1	5基検出されて	5基が検出されて
P100 L6	AS3	SA3
P100 L11	AS3	SA3
P100 L16	主軸が	長軸が
P100 L18	堆積しいる	堆積する
P100 L31	堀立柱建物	据立柱建物

上の原第1遺跡（B地区）正誤表

訂正箇所	原文	訂正文
P130 L 2	土器片(1)	土器片(24)
P132 第11図 SC3断面図	E - E'	E' - E
P159 図版 右側中央写真キャプション	S I 3小穴(東より)	SC3小穴(東より)

はつ か の
白ヶ野第2・第3遺跡

(第2分冊 繩文前期～中・近世編)

うえ はる
上の原第1遺跡 (B地区)

東九州自動車道（西都～清武間）建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書X

2002年

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道建設に伴う発掘調査を日本道路公团より委託を受け、平成7年度から実施しております。本書は、平成7年度から8年度にかけて実施した西都～清武間予定地内に所在した白ヶ野第2・第3遺跡（縄文前期～中・近世編）及び上の原第1遺跡B地区の発掘調査報告書です。

白ヶ野第2・第3遺跡は、縄文時代草創期から中・近世にかけての遺構・遺物が検出され、当地が先人の生活の場であったことが判明しました。中でも遺物の出土量が最も多く、また多数の遺構が確認されたのは縄文時代早期後半でありますが、この時期については第1分冊で報告しております。縄文時代前期以降については、縄文時代後期前半の竪穴住居跡、後期～晚期の陥し穴や中・近世の掘立柱建物跡などの遺構が検出されています。上の原第1遺跡（B地区）においては後期旧石器時代の礫群や縄文時代早期の陥し穴状遺構が検出されております。

白ヶ野第2・3遺跡、上の原第2遺跡では陥し穴状遺構が発見されておりましたが、近年、県内の調査でも発見されつつあり、縄文時代の狩猟の形態などを知る上で好資料であります。ここに報告する内容が、学術資料としてだけではなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査にあたりましては、多大なご協力をいただいた地元の方々をはじめ、関係各位に対し心から感謝申し上げます。

平成14年3月29日

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 矢野剛

例　　言

- 1 本書は、東九州自動車道(清武～西都間)建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した白ヶ野第2・第3遺跡(第2分冊)、上の原第1遺跡(B地区)の発掘調査報告書である。白ヶ野第2・第3遺跡については縄文時代前期以降についての報告であり、縄文時代草創期、早期の遺構・遺物については宮崎県埋蔵文化財センター調査報告書第52集「白ヶ野第2・第3遺跡(第1分冊)」に掲載している。なお、神子柴型石斧については、第1分冊で報告しているが、その後、刃部において剥片の接合が確認されたのでその状況を本書で報告している。
- 2 白ヶ野第2・第3遺跡は、発掘調査・整理作業中は「白ヶ野遺跡」と称していたが、清武町教育委員会発行の遺跡詳細分布調査報告書の遺跡名に合わせ、遺跡名を標記のとおり変更する。ただし、現地での記録や遺物注記などの記録類については変更を加えていない。
- 3 南九州では、通常、アカホヤ火山灰をもって縄文早期と前期を区分し、轟A式は早期、轟B式からを前期しているが、本書では北部九州の土器編年について、轟A式からを前期として報告している。
- 4 上の原第1遺跡(B地区)におけるテフラ、植物珪酸体分析については、(株)古環境研究所に委託した。
- 5 現地での平面図作成・写真撮影は、各調査員が行った。
- 6 整理作業は、宮崎県埋蔵文化財センターで行い、遺物の実測、製図は整理作業員の協力のもと各調査員が行った。
- 7 白ヶ野第2・第3遺跡については、青山尚友、竹井真知子、面高哲郎、谷口武範、藤木聰が協同して執筆し、上の原第1遺跡については日高広人が執筆した。
- 8 本書の編集は、面高、日高が行った。
- 9 本書で示す北は、基本的に磁北(M. N.)である。座標北(国土座標第II系)を示す場合は「G. N.」と標記している。
- 10 土壠断面図および土器の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」による。
- 11 本書で示した遺構の略号は、以下のとおりである。
SA: 積穴遺構、積穴住居跡　SB: 挖立柱建物　SC: 土坑、陥し穴状遺構
SE: 谷状遺構　SI: 碑群、集石遺構
- 12 出土遺物および記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

図面・観察表について

土器実測図

- 1 土器実測図の縮小率は、1/3を基本にしている。これは実物大で作成した原図を33.3%縮小したものである。完形品については1/4としている。
- 2 土器実測図の径の推定は、原則として1/6以上残存している場合に行った。ただし、縄文土器に関しては歪みの大きい個体もあり、状況に応じて判断している。
- 3 径の復原に至らなかった土器個体については、基本的に左から外面、内面の順に拓影によって文様・調整を表現している。
- 4 土器の傾きの確定しないもの、疑問が残る場合については口縁部線を破線で表現した。ただし、その他の個体でも、特に小破片、胴部のみの破片に関しては、必ずしも確定した傾きでないことを明記しておきたい。

5 波状口縁を呈する土器の中で、径の復原に至らなかったものについては、下図のような「記号」で示している。

6 土器の調整の表現に関して、ケズリとの境には、▲印を付している。

土器観察表

1 胎土については、混入物の中で特徴的な物質の色調、大きさを記している。鉱物名は、肉眼で明確に判断できる場合のみ記入した。

2 調整・文様の中で、「丁寧なナデ」は器面に掠過痕の残らないような場合、「ケズリ状ナデ」「工具ナデ」は、器面にヘラ状工具による粗い掠過痕の残る場合で、特に前者については、他の調整部位との間に稜線を形成する。

石器実測図

1 石器実測図の縮小率は、細石刃・細石刃核が1/1、敲石類・礫器が1/3、石皿類が1/4であり、それ以外はすべて2/3に統一している。

2 欠損部をもつ石器実測図は、表面・側面にのみ復元線を入れた。裏面に入れていないのは、欠損後の石器の形をよく理解するためである。

3 刺離のうち、調査中に欠損するなど、明らかに新しい刺離（欠損）に関しては、稜のみ凶化し、リングを抜いている。

4 人為的と考えられる微細刺離・磨面・ナレ面・凹面を持つ石器実測図中には、その範囲を「←→」で表現した。なお、微細刺離・磨面・ナレ面・凹面が明確でない場合は、「←···」で表した。

5 4と関係し、磨石の磨面の範囲はうすいトーンで示した。石皿類のナレ面・凹面についても同様である。

6 今回の遺物整理の中で、石器全体の接合作業は行えていない。ただし、一部の石器について接合できたものは、図と図の間に「1→→」を示し、接合関係を表した。

石器観察表

1 表の内容は、左からレイアウト番号である図No.、出土位置である層・グリッド・番号、器種、石器の計測値である長・幅・厚・重量、石材、備考の順になっている。

2 報告中では、石器個々の細かな出土位置については触れておらず、大まかな出土傾向の提示までとなっている。したがって個々の石器の細かな出土位置については表中の層・グリッド・番号を参照されたい。

3 器種名は一般的に用いられているものをそのまま使用した。器種分類が明確でない場合も多く、その点については、備考中で触れている。

4 計測値は、現存部位での長・幅・厚・重量の最大値である。値の単位は、長・幅・厚は「cm」、重量は「g」である。重量の計測は、石皿類は体重計を使用したほかは、0.1gまで計測可能な電子秤を使用した。

5 石材名は、青山尚友氏（現在宮崎県総合博物館）の肉眼観察による分類をもとに、藤木が付与した。石材名は、6の略号を用いた。なお、自然科学的分析は一切行っていない。

6 石材名の略号

O b = 黒色黒曜石（南九州系・西北九州系も含むか） O b I = 白色黒曜石（大分県姫島産）

O b 2 = 青灰色黒曜石（西北九州系） A n = 安山岩（大分県姫島産、香川県五色台ほか産、

南九州系） R h = 流紋岩 C h = チャート K = 硅岩 S h = 真岩 K S h = 硅

質質岩 S I = シルト岩 K S I = 硅質シルト岩 S = 砂岩 O s = 尾鈴山酸性岩

Q = 水晶 H I = ホルンフェルス

7 備考には、石器の加工、欠損状況、推定石材产地などの特記事項を記した。したがって、本文中では石器個々については詳述することはせず、全体の傾向を示すにとどめた。

本文目次

第一編 はじめに	
第Ⅰ章 はじめに	3
第1節 調査に至る経緯と経過	3
第2節 調査組織	3
第3節 遺跡周辺の地形	5
第4節 周辺遺跡	6
第二編 白ヶ野第2・第3遺跡	
第Ⅰ章 遺跡の概要	13
第1節 遺跡の基本層序	13
第2節 調査の概要	14
第Ⅱ章 調査の成果	16
第1節 縄文時代前期以降の遺構と遺物	16
1 遺構と遺物	16
2 包含層出土の土器	27
3 包含層出土の石器	52
第2節 弥生時代以降の遺構と遺物	91
1 遺構	91
2 遺物	94
第3節 神子柴型石斧	98
第Ⅲ章 まとめ	99
第三編 上の原第1遺跡（B地区）	
第Ⅰ章 調査の経緯と概要	119
第1節 遺跡周辺地形と調査区の設定	119
第2節 遺跡の基本層序	121
第3節 調査の概要と経過	122
第Ⅱ章 調査の成果	123
第1節 旧石器時代の遺構と遺物	123
1 遺構	123
2 遺物	125
第2節 細石刃石器群の遺物	126
第3節 縄文時代草創期の遺物	130
第4節 縄文時代早期の遺構と遺物	131
1 遺構	131
2 遺物	132
(1) 土器	132
(2) 石器	136
第5節 縄文時代晚期の遺物	141
第6節 弥生時代以降の遺物	143
1 土器	143
2 石器	145
第Ⅲ章 自然科学分析	146
第1節 上の原第1遺跡（B地区）のテフラ分析	146
第2節 上の原第1遺跡（B地区）の植物珪酸体分析	150
第Ⅳ章 まとめ	154

挿図目次

第一編 はじめに	
第1図 発掘調査対象区域	4
第2図 遺跡の位置及び周辺遺跡分布図	7

第二編 白ヶ野第2・第3遺跡

第1図	B区(N-6) 東壁土層図	13
第2図	遺構分布模式図	15
第3図	S A 1・S A 2遺構及び出土遺物実測図	17
第4図	S A 2出土遺物実測図	18
第5図	S A 3遺構及び出土遺物実測図	19
第6図	S A 4遺構及び出土遺物実測図	21
第7図	S A 4出土遺物実測図	22
第8図	S A 5遺構及び出土遺物実測図	23
第9図	S C 1・S C 2・S C 3・S C 4・S C 5遺構実測図	25
第10図	S C 3・S C 4出土遺物実測図	26
第11図	S C 4、包含層出土土器実測図(1)	31
第12図	包含層出土土器実測図(2)	32
第13図	包含層出土土器実測図(3)	33
第14図	包含層出土土器実測図(4)	34
第15図	包含層出土土器実測図(5)	35
第16図	包含層出土土器実測図(6)	36
第17図	包含層出土土器実測図(7)	37
第18図	包含層出土土器実測図(8)	38
第19図	包含層出土土器実測図(9)	39
第20図	包含層出土土器実測図(10)	40
第21図	包含層出土土器実測図(11)	41
第22図	包含層出土土器実測図(12)	42
第23図	包含層出土土器実測図(13)	43
第24図	S C 4、包含層出土土器実測図(14)	44
第25図	包含層出土石器実測図(1)	54
第26図	包含層出土石器実測図(2)	55
第27図	包含層出土石器実測図(3)	56
第28図	包含層出土石器実測図(4)	57
第29図	包含層出土石器実測図(5)	58
第30図	包含層出土石器実測図(6)	59
第31図	包含層出土石器実測図(7)	60
第32図	包含層出土石器実測図(8)	61
第33図	包含層出土石器実測図(9)	62
第34図	包含層出土石器実測図(10)	63
第35図	包含層出土石器実測図(11)	64
第36図	包含層出土石器実測図(12)	65
第37図	包含層出土石器実測図(13)	66
第38図	包含層出土石器実測図(14)	67
第39図	包含層出土石器実測図(15)	68
第40図	包含層出土石器実測図(16)	69
第41図	包含層出土石器実測図(17)	70
第42図	包含層出土石器実測図(18)	71
第43図	包含層出土石器実測図(19)	72
第44図	包含層出土石器実測図(20)	73
第45図	包含層出土石器実測図(21)	74
第46図	包含層出土石器実測図(22)	75
第47図	包含層出土石器実測図(23)	76
第48図	包含層出土石器実測図(24)	77
第49図	包含層出土石器実測図(25)	78
第50図	包含層出土石器実測図(26)	79
第51図	包含層出土石器実測図(27)	80

第52図	包含層出土石器実測図(28)	81
第53図	包含層出土石器実測図(29)	82
第54図	掘立柱建物跡実測図(1)	92
第55図	掘立柱建物跡実測図(2)	93
第56図	包含層出土土器、須恵器実測図	95
第57図	包含層出土土器、陶磁器実測図	96
第58図	神子柴型石斧実測図	98
第三編	上の原第1遺跡(B地区)	
第1図	上の原第1遺跡周辺地形と調査区	120
第2図	上の原第1遺跡基本層序	121
第3図	旧石器時代の遺構及び遺物分布図	123
第4図	縄群(S I)実測図(1)	124
第5図	縄群(S I)実測図(2)	125
第6図	旧石器時代遺物実測図(1)	127
第7図	旧石器時代遺物実測図(2)	128
第8図	細石刃石器群遺物分布図	129
第9図	細石器実測図	129
第10図	縄文時代早期遺構分布図	131
第11図	土坑・陥し穴状遺構(SC)実測図及び出土遺物実測図	132
第12図	縄文時代草創期～早期遺物分布図	133
第13図	縄文時代早期遺物分布図(2)	134
第14図	縄文時代草創期～早期土器実測図	135
第15図	縄文時代早期石器実測図(1)	138
第16図	縄文時代早期石器実測図(2)	139
第17図	縄文時代早期石器実測図(3)	140
第18図	縄文時代晩期土器実測図	141
第19図	弥生時代終末～古墳時代土器実測図	144
第20図	弥生時代石器実測図	145
第21図	C 1 1 グリッド土層柱状図	149
第22図	第3トレンチ(T 3) 土層柱状図	149
第23図	C 1 1 グリッド植物珪酸体分析結果	153
第24図	第3トレンチ(T 3) 植物珪酸体分析結果	153

表 目 次

第一編	白ヶ野第2・第3遺跡	
第1表	周辺の主な既調査遺跡	8
第二編	白ヶ野第2・第3遺跡	
第1表	石器観察表(1)	22
第2表	土器観察表	45
第3表	石器観察表(2)	83
表4表	土器、須恵器、陶磁器観察表	97
第三編	上の原第1遺跡	
第1表	上の原第1遺跡(B地区) 石器計測表(1)	130
第2表	上の原第1遺跡(B地区) 縄文土器観察表	141
第3表	上の原第1遺跡(B地区) 石器計測表(2)	142
第4表	上の原第1遺跡(B地区) のチフラ検出分析結果	148
第5表	上の原第1遺跡(B地区) の屈折率測定結果	148
第6表	植物珪酸体分析結果	153

第一編 はじめに

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と経過

東九州自動車道の延岡～清武間は、平成元年2月に基本計画がなされ、平成3年11月には西都～清武間が整備計画路線となっている。西都～清武間は平成5年11月に建設大臣から日本道路公団に施行命令が出され、道路公団は平成6年から事業に着手している。

その間、宮崎県教育委員会文化課では、平成3年度に西都～清武間及びその周辺の遺跡詳細分布調査を行っている。西都～清武間の路線内にかかる遺跡は33遺跡である。この遺跡の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響を受ける部分については工事着手前に発掘調査を実施することとなった。

宮崎市古城町・清武町大字船引地内においては、台地上に立地する白ヶ野第2・第3遺跡、上の原第1遺跡が路線にかかり、平成7年度から発掘調査を実施することになった。白ヶ野第2・第3遺跡は、平成7年6月7日から平成8年9月30日まで、上の原第1遺跡は平成7年7月21日から平成7年11月1日までの間実施した。上の原第1遺跡は、県営特殊農地保全整備事業実施に伴い今回の調査地の西を発掘調査していたので東九州自動車道部分については「B地区」と呼称することにした。白ヶ野第2・第3遺跡は、前述の詳細分布調査の報告書では、「上の原・白ヶ野遺跡」とされ、縄文時代から中世に至る時代・時期の散布地とされた¹⁾。このため、当初より「白ヶ野遺跡」という遺跡名で事業が進められたが、一方、例言でも触れられているとおり、清武町教育委員会による詳細分布調査の報告書では、当該地の北側（宮崎市側）が白ヶ野第3遺跡、南側が白ヶ野第2遺跡となっている²⁾。既刊行の近隣遺跡の報告書では、この辺りの遺跡名に混乱が見られる³⁾。それは、小さな谷地形で区切られる部分があるとはいえ、実態としては台地上の連続する遺跡群であり、「線引き」が難しいことによるものと考えられる。ここでは、命名当初の遺跡名に立ち返り、白ヶ野第2・第3遺跡と称することにした。

(注)

- 1) 宮崎県教育委員会「東九州自動車道開通遺跡詳細分布調査報告書（西都～清武間）」1992
- 2) 清武町教育委員会「清武町遺跡詳細分布調査報告書 清武町埋蔵文化財調査報告書4」1990
- 3) 宮崎県教育委員会「上の原第3遺跡 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書13」1999
など。

第2節 調査組織

調査組織は以下のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

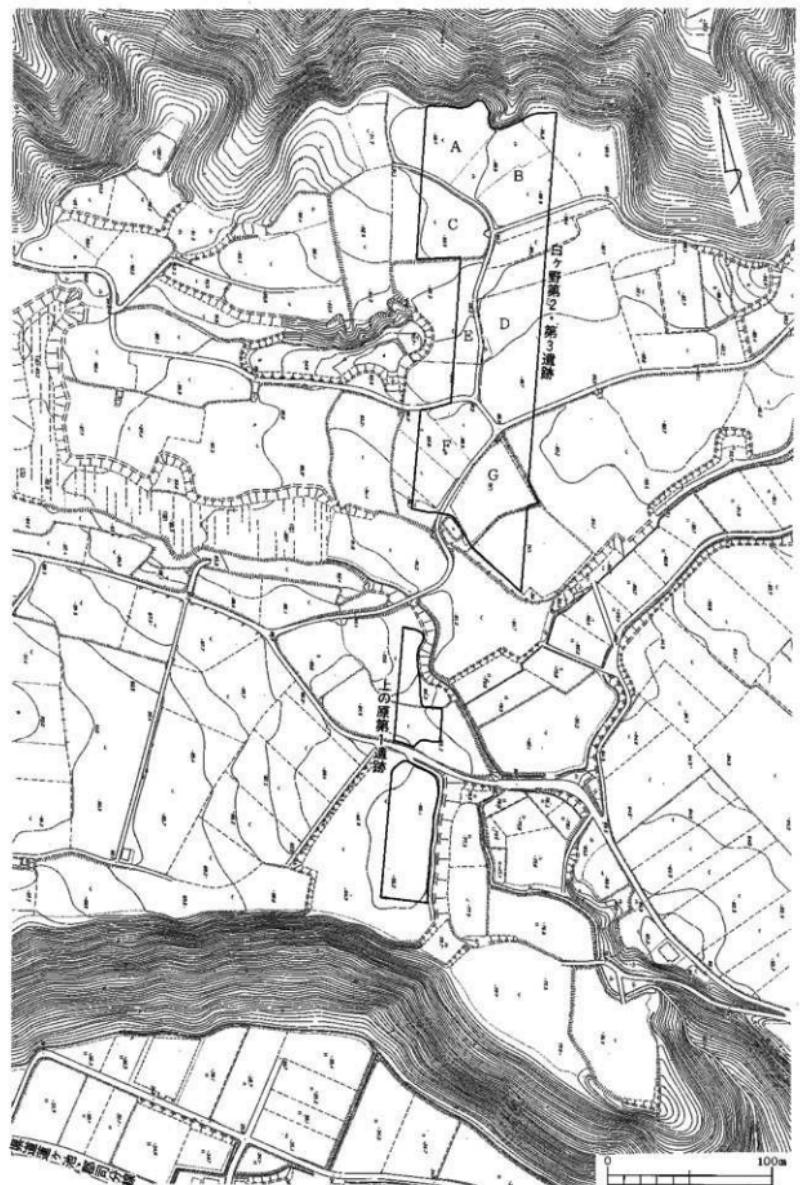
教育長 田原 直廣

教育次長 八木 洋・中田 忠（平成7年度）

川崎 浩康・河野 聚（平成8年度）

文化課長 江崎 富治

課長補佐 田中 雅文（平成7年度）・稻田 憲男（平成8年度）



第1図 発掘調査対象区域

(平成7年度) 文化課が調査を実施

主幹兼埋蔵文化財第二係長 岩永 哲夫

埋蔵文化財第二係主査 園田 和宏(調査担当) 同主事 戸高 真知子(調査担当)

調査員 白岩 修

(平成8年度) 埋蔵文化財センターが調査を実施

所 長 藤本 健一

副所長兼調査第一係長 岩永 哲夫

調査第一係主査 青山 尚友(調査担当) 同主査 日浅 雅道(調査担当)

調査員 井田 篤

遺物整理は、宮崎県埋蔵文化財センターで実施した。

(平成13年度)

所 長 矢野 剛

副所長兼総務課長 菊地 茂仁

副所長兼調査第二課長 岩永 哲夫

調査第一課長 西高 哲郎

総務課総務係長 亀井 雅子

調査第一課調査第一係長 谷口 武憲

総務課総務係主任主事 上野 広宣

第3節 遺跡周辺の地形(第1図)

高岡町西方の山地は、標高200~400mの丘陵状地形を呈し、急傾斜の谷が多く刻まれている。地質は四万十累層群とよばれる砂岩、頁岩、珪質頁岩、チャート、塩基性岩などから成る。出野盆地は清武川の上流に位置し、北の高岡山地と南の鶴塚山地に挟まれた凹地に周囲から砂礫が流れ込み、その上をシラスや火山灰層が覆って平坦な地形を形成している。宮崎市から清武町にかけて分布する丘陵および台地状の地形のうち大淀川より南の清武町から高岡町にかけての丘陵は大淀川南岸丘陵とよばれる。丘陵の高さは西方の高岡山地から東に向かってしだいに低くなり標高約100mの平坦な台地状地形に変わる。本遺跡はこの台地状地形の上に立地する。清武川より南の丘陵は清武川南岸丘陵とよばれ、清武町から田野盆地にかけて広がっている。

河川は大淀川と清武川が日向灘へ注いでいる。大淀川は都城盆地から宮崎平野へ東流する宮崎県内最大の一級河川である。途中で岩瀬川と本庄川の流れを加えて水量を増し、宮崎市に入ると蛇行をくり返しながら氾濫原を広げ、沖積平野を形成している。清武川は田野盆地から宮崎平野に流れれる二級河川である。田野盆地から清武町にかけて川の両岸には段丘地形が顕著に発達している。この段丘地形は宮崎平野が第四紀洪積世に数次の隆起をくり返した結果形成されたものである。また清武川両岸の段丘崖には、礫が露出している。これは平衡状態にあった河川が地盤の隆起によって再び下刻浸食が活発となり河床面が下がった結果、旧河床や氾濫原に堆積した砂礫が崖にあらわれたものである。

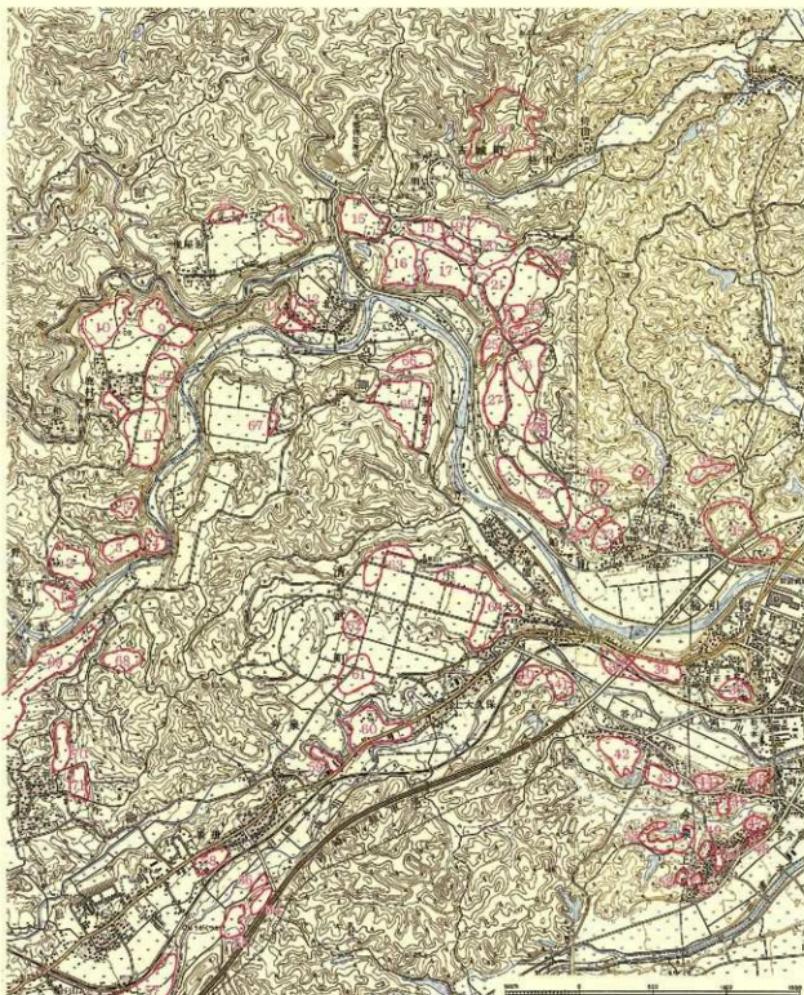
第4節 周辺遺跡

白ヶ野第2・第3遺跡、上の原第1遺跡は、東西に延びる標高約90mの台地上に立地する。遺跡の北では谷を挟んで丘陵地が発達している。南では眼下に清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられ、その上位には台地が発達している。白ヶ野第2・第3遺跡周辺では多数の遺跡が確認されているが、その立地場所は河岸段丘や台地上である。昭和60年代以降、台地上では特殊農地保全整備業などの開発事業が実施されており、それに伴い各遺跡で発掘調査が実施されている。その調査結果の概要は、第1表のとおりである。表に掲載している25遺跡では、各時代・時期の遺構・遺物が検出されており、旧石器時代の遺構・遺物は10遺跡で、縄文時代の遺構・遺物は25遺跡全ての遺跡で、弥生時代の遺構・遺物は6遺跡で、古墳時代の遺構・遺物は4遺跡で、古代の遺構・遺物は6遺跡で、中～近世の遺構・遺物は5遺跡で検出されている。全ての遺跡で縄文時代の遺構・遺物が検出されているのは、調査例が台地上中心ということからきていると考えられる。

旧石器時代の遺物は、AT上位でナイフ形石器などが出土し、遺構は滑川第2遺跡、下星野遺跡C区の2遺跡で集石遺構（礫群）が検出されている。小林軽石層（Kr-Kb）上位で細石刃などが出土しているが、土器と併存するのか否かが課題となっている。

縄文時代の遺構・遺物は25遺跡全ての遺跡で検出されている。時期別に見てみると草創期が5遺跡、早期が23遺跡、前期が9遺跡、中期が5遺跡、後期が11遺跡、晚期が6遺跡となっている。草創期の遺跡については5遺跡あり、この時期としては高い密度であり、さらに椎屋形第1遺跡では多くの隆起文土器やのみ形石器など注目される遺物が出土している。早期は23遺跡あり、極めて高い密度で分布しており、大半の遺跡で集石遺構が検出されている。その基數も数十基と大規模な遺跡になる場合が多い。また、椎屋形第2遺跡では早期前半の連結土坑が検出されているが、最近、県内で検出例が増加している遺構である。前期については9遺跡、中期については5遺跡と少くなり、また、遺跡の規模も小さくなり、遺物の出土量も少なくなる。後期になると11遺跡と数は若干増加しているのみの感があるが、上の原第3遺跡では後期前半～中頃の竪穴住居跡が47軒、竹之内遺跡でもほぼ同時期の竪穴住居跡が51軒検出されて、また、後者の遺跡では岩偶、土偶も出土しており、前時期とは様相が一変している。晚期については、また、6遺跡と少くなり、遺跡の規模も小さくなり、遺物は、前半の孔列文土器などが出土している。清武川流域におけるこのような縄文時代の遺跡のあり方は特筆されるところである。

縄文時代以降については、弥生時代が6遺跡、古墳時代が6遺跡と少なくなるが、これは調査例などが台地上に多いためであり、この時代以降の遺跡の立地条件が縄文時代とは異なっているためである。今後、低地の調査が進むことによって遺跡数は増加すると推定している。この中にあって古代、特に平安時代と推定される遺跡が規模は小さいながらも6遺跡が点在しているが、今後、当時代を考える際には注意する必要があると思われる。



第2図 遺跡の位置及び周辺遺跡分布図

- 1 堀ノ下第2遺跡 2 堀ノ下第1遺跡 3 突星ヶ野第3遺跡 4 突星ヶ野第2遺跡 5 美星ヶ野第1遺跡 6 前ノ原第2遺跡
- 7 古木場遺跡 8 前ノ原第1遺跡 9 ズクノ山第2遺跡 10 ズクノ山第1遺跡 11 黒北南第2遺跡 12 黒北南第1遺跡
- 13 椎屋形第2遺跡 14 椎屋形第1遺跡 15 上の原遺跡 16 上の原第2遺跡 17 上の原第1遺跡 18 上の原第3遺跡
- 19 上の原第4遺跡 20 白ヶ野第2・第3遺跡 21 白ヶ野第1遺跡 22 白ヶ野第4遺跡 23 清川第3遺跡 24 清川第2遺跡
- 25 清川第1遺跡 26 山田遺跡 27 坂元第2遺跡 28 坂元第1遺跡 29 上原ノ原遺跡 30 札立第2遺跡 31 札立第1遺跡
- 32 下原ノ原遺跡 33 四田遺跡 34 不動追跡 35 清水城跡 36 本城跡 37 井手ノ城跡 38 下ノ原遺跡 39 小原遺跡
- 40 通山第1遺跡 41 通山第2遺跡 42 谷ノ口遺跡 43 四間第1遺跡 44 四間第2遺跡 45 四間第4遺跡 46 四間第3遺跡
- 47 中泉遺跡第1地区 48 中泉遺跡第2地区 49 中泉遺跡第3地区 50 中泉遺跡第3地区 51 中泉遺跡第5地区
- 52 中泉遺跡第6地区 53 竹ノ山遺跡 54 小原遺跡 55 小原第2遺跡 56 小原第3遺跡 57 元木遺跡 58 上ノ原遺跡
- 59 下ノ原遺跡 60 永ノ原遺跡 61 下星野遺跡C区 62 下星野遺跡A区 63 杉木原遺跡 64 竹之内遺跡 65 横原第1遺跡
- 66 横原第2遺跡 67 牧原遺跡 68 穴ノ口遺跡 69 横原遺跡 70 山田第1遺跡 71 山田第2遺跡

第1表 周辺の主な既調査遺跡

番号	遺跡名	時代・時期	主な遺構	主な遺物	主な文献
9	ズクノ山第2	縄文早期 縄文前期 縄文中期 縄文後期	集石遺構65、配石遺構6	中原1式併行、知覧式、桑ノ丸式、手向山式、押型文土器、石鏡、石槍、石船、磨石、局部磨製石斧 骨烟灰 春日式（船元式） 沈殿土器、磨滑陶文土器（中洋式）	田野町文化財調査報告書第30集 前ノ原第2遺跡 ズクノ山第2遺跡
6	前ノ原第2	縄文早期 縄文後期 古代	集石遺構27	岩本式？、前平式、中原1式併行、押型文、手向山式、手括式？、石鏡、石斧、研斧（or鑿） 土器 布紋土器	上に同じ
14	椎屋形塚1	縄文草創期 縄文早期 弥生・中～後期	集石遺構2 堅穴住居跡（花井状） 掘立柱建物跡（練持柱）	隆帯文土器、爪形文土器、のみ形石器、敲石、局部磨製石斧、台石、磨石 中原1式併行、石鏡、石匙、石鍬 中洋式（船元式）、磨製石鏡、磨石、石皿、台石、石瓶丁、铁錠、鍛鉈？、石製装身具	宮崎市文化財調査報告書第32集 椎屋形遺跡
13	椎屋形第2	縄文草創期 縄文早期	坐石遺構69、連続土坑24、 土坑21	隆帯文土器、爪形文土器 前平式？、知覧式、吉田式1、中原1式併行、押型文1、 石鏡、尖頭器、磨石、敲石、局部磨製石斧、楔形石器	14同じ
16	上の原第2	後期旧石器 縄文早期 縄文中末～後半 近世	集石遺構45、礫群1 堅穴（住居跡）47、土坑68 配石上坑、道路状遺構、 掘立柱建物跡8、土塹144	ナイフ形石器 中原1式併行、如蟹式、手向山式、手括式、石鏡石斧、凹回形石器、松木式、市来式、丸尾式、納曾式、辛川II式 石製装身具、磨石、石盤、石鏡、石斧、石鏡	17と同じ
17	上の原第1	縄文草創期 縄文早期 縄文前期 縄文中期 縄文後期 弥生後期 古墳前期 古墳中期 中・近世	堅穴（住居跡）、土坑、石 組炉 土坑 堅穴（住居跡）6 土器焼納土坑 溝状遺構4、道路状遺構1	隆帯文土器？ 前平式、押型文土器、手括式 骨烟灰 春日式（森木ヶ越段階）、大平式 石鏡、石皿、石匙 夜臼式、磨石土器 盆、甕、石臼、砾石、石皿 盆、第1点は擦入布留式甕、高环形土器、手握ね土器	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第25集（第1分冊） 上の原第2遺跡 上の原第1遺跡 上の原第4遺跡 白ヶ野第3遺跡A地区
18	上の原第3	後期旧石器 縄文早期 縄文後期 古墳中～後期 古代	礫群2、集石遺構9 堅穴住居跡10	礫石刃 知覧式、押型文土器、手括式、 丸尾式。 須恵器、土器皿、磨石、砥石、打製石斧、铁錠 土器焼納	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第13集 上の原第3遺跡
19	上の原4	後期旧石器（K-II～K-I下） 縄文草創期 縄文早期	集石遺構3	ナイフ形石器、三棱尖頭器、石核 隆帯文土器？、爪形文土器、岩本式？ 前平式、桑ノ丸式、手括式、窓ノ神式、石鏡、尖頭器、 凹石、磨石、石皿、台石	17と同じ
20	白ヶ野第2	縄文早期 溝遺跡を第3から第2に修正	集石遺構11 堅穴住居跡（鬼付付）	手向山式 丸尾式、孔洞文土器、夜臼式、磨研土器 磨石土器、布痕土器、内黒土器、土器焼納、原股鉢	宮崎県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第5集 白ヶ野第3遺跡B地区
20	白ヶ野第3	縄文早期	集石遺構 9	下剥峰式、押型文土器、手向山式、捺糸文土器、天道ヶ浦式、手括式、窓ノ神式（捺糸文）、石鏡、石匙、夷形石器、磨石	宮崎県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第5集 白ヶ野第3遺跡B地区
21	白ヶ野第1	後期旧石器 縄文早期 縄文青期 縄文初期 時期不詳（付上）	集石遺構13 土坑 107	スクレイパー 押型文土器、手向山式 骨烟灰 孔列文土器	清武町埋蔵文化財調査報告書第5集 白ヶ野第1遺跡・白ヶ野第4遺跡
22	白ヶ野第4	縄文早期	集石遺構 7、土坑 2	下剥峰式、押型文土器、手括式、石鏡、石製装身具、石匙	21と同じ
23	清川第3	後期旧石器（AT直上） 縄文早期 縄文初期	集石遺構36、堅穴2、土坑8	ナイフ形石器、石核 桑ノ丸式、手括式、 骨烟灰	清武町文化財調査報告書第6集 清川第1・第2遺跡 —1 清川第3遺跡
24	清川第2	後期旧石器（AT直上） 後期旧石器（K-II～K-I下） 後期旧石器（K-I～K-II中） 縄文早期 縄文前期 時期不詳（付上）	集石遺構（礫群）3 集石遺構（礫群） 集石遺構43、土坑16 堅穴住居跡 1	ナイフ形石器、ナイフ状剥片、チップ（墨暎石）、 剥片（真岩） 剥片（真岩） 下剥峰式、押型文土器、手向山式、手括式（削ノ原式）、 窓ノ神式、窓ノ丸式、石鏡、石皿、磨石 甕口・阿多タイプ	25同じ 清武町文化財調査報告書第7集 清川第1遺跡—2 — 清川第2遺跡—2 —

第1表 周辺の主な既調査遺跡

番号	遺跡名	時代・時期	主な遺構	主な遺物	主な文献
25	清川第1	縄文早期 縄文前期 縄文中期 縄文後期 時代不詳(Ah上)	集石遺構34 土坑 土坑176、堅穴住居跡2 土坑16(高原スコを含む)	下剥跡式、押型文土器、手向式土器、塞ノ神式、局部磨製石斧、石器、石核 轟B式、野口・阿多タイプ、普墳式、石核(黒曜石) 里木式 続式、北久根山式	清武町文化財調査報告書第6集 清川第1-2遺跡—1—清川第3遺跡 清武町文化財調査報告書第7集 清川第1遺跡—2—清川第2遺跡—2—
29	小原遺跡	縄文前期 縄文後期 古代		曾澤式、轟D式 黑色磨研土器、条纹土器、波口式、打製石斧 布痕土器、土器環	九州經濟自動車道埋蔵文化財免掘調査報告書(3)
35	清武城跡	縄文後～晚期 弥生中期 古代 中世		鉢形土器、条紋土器 下城式系、巣形土器(逆L字口縁)、 内里土器部 青磁、白磁、集土、土器皿・环、擂鉢	29と同じ 城内遺跡として報告あり
60	水ノ原	後期旧石器 縄文早期 縄文前期 縄文後期 弥生中期～後 時代不詳	集石遺構14 堅穴住居跡1 堅穴住居跡2、獨立柱建 物跡8	細石刃、細石核 前口式、下剥跡式、塞ノ神式、石器、凹石、砥石、石核 轟B式 沈痕土器、条纹土器、 肥後系甕、ほか	宮崎県埋蔵文化財センター免掘調査報告書第33集、椎原第1遺跡水ノ原遺跡 水ノ原遺跡
61	下星野C区	後期旧石器 縄文早期	集石遺構3、土坑3 朱石鹿跡10、土坑3	細石核、細石刃 岩本式?、前口式、平括式、塞ノ神式、石器	62と同じ
62	下星野A区	縄文早期 縄文後期 縄文晚期 弥生中・古墳後 中・近世	集石遺構4、 土坑1 堅穴住居跡3 茅状土器	前口式、桑ノ丸式、塞ノ神式、石器、スクレイパー 市来式、丸尾式、磨削陶土器。 黑色磨研土器、条纹土器 中通式、二重口縁釜、高环形土器	宮崎県埋蔵文化財センター免掘調査報告書第47集、椎原第1遺跡下星野遺跡
63	杉木原	後期旧石器(II-IV中) 縄文草創期 縄文早期	集石遺構42、窪穴1 土坑3	ナイフ形石器、スクレイパー、繩石刃、細石核、 陶器土器2、瓜形土器1 岩本式、中通I式併行、知覧式、下剥跡式、桑ノ丸式、 押型式、舟原式、石器、磨石、四石、石器、敲石	宮崎県埋蔵文化財センター免掘調査報告書第33集、椎原第2遺跡、杉木原 遺跡 水ノ原遺跡
64	竹之内遺跡	後期旧石器 縄文早期 縄文後期 弥生後期 古墳後期 古代 中世	集石遺構37 堅穴住居跡5、土坑106 堅穴住居跡1 独立柱建物跡3、溝状遺構5	ナイフ形石器、楔形石器、台形石器、細石核 中通I式併行、桑ノ丸式、下剥跡式、平括式、塞ノ神式、 石器、トロトロ石器、石器 指標式、市来式、草原式、鱗ヶ崎式、納骨式、石器、袋身具 岩偶、土偶、打製石斧、磨製石斧、石器、石器、磨石、石皿 二重口縁釜、變形土器、筋輪車 高环形土器 布痕土器、瓶、變形土器、堆塙 土器環・皿、青磁、白磁、擂鉢、石器、土製羽釜	宮崎県埋蔵文化財センター免掘調査報告書第27集 竹之内遺跡
65	椎原第1	縄文早期 縄文前期 弥生中期～後初 古墳中期	集石遺構8 堅穴住居跡2 堅穴住居跡1	中通I式併行、知覧式、押型文、石器、石斧、石器、塞 石、凹石、敲石 轟B式、雷鳴式 變形土器(亀ノ甲タイプ、くの字口縁)、壺形土器 變形土器、壺形土器、高环形土器、小型丸底釜	宮崎県埋蔵文化財センター免掘調査報告書第47集、椎原第1遺跡下星野遺跡
66	椎原第2	縄文早期	集石遺構8	中通I式併行、知覧式、押型文、石器、塞ノ神式、轟A式、 石器、敲石	宮崎県埋蔵文化財センター免掘調査報告書第30集、椎原第2遺跡 他
69	橋原	縄文早期 縄文後期 古代～中世	集石遺構5 堅穴住居跡1	手向式土器、塞ノ神式、石器 市来式系 土器環・皿、青磁、白磁、擂鉢、石器、土製羽釜	宮崎県埋蔵文化財センター免掘調査報告書第8集 橋原遺跡 他

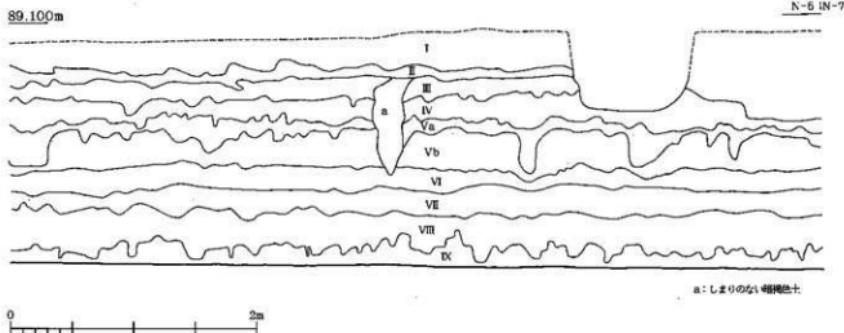
第二編 白ヶ野第2・第3遺跡

第Ⅰ章 遺跡の概要

第1節 遺跡の基本層序（第1図）

白ヶ野第2・第3遺跡の基本層序については第1分冊で詳細に説明しているので、ここでは縄文前期以降の遺物を包含している層を中心としてその概要を説明する。

- I層：耕作土で褐色を呈する。
- II層：径2～3 mmのスコリアを含み、ざらざらしている褐色土。
- III層：細粒でしまりの弱い暗褐色土。炭化物粒を含む。
- IV層：細粒でしまりの弱い黒褐色。
- Va層：しまりがなくさらさらしており、2次アカホヤと通称しているにぶい黄褐色土。
- Vb層：黄橙色火山灰で、約6,300年前鬼界カルデラから噴出した「アカホヤ火山灰」の一次堆積層である。Vb層の直下にはブロック状又は薄い層状に堆積している緑黒色土があり、これは霧島山の古高千穂峰を噴出源とする「牛の脛火山灰」に相当すると考えられる。
- VI層：白色長石を斑点状に含み、硬く結まり、乾燥すると細かな方形のクラックが発達する黒色土。炭化物粒を多く含む。
- VII層：白色の長石を斑点状に含み、硬く結まり、層全体に明暗のまだら模様を呈する黒褐色土。炭化物粒を含む。VI層とVII層の間には「桜島末吉」(p11、桜島線板)と考えられるテフラがレンズ状に堆積している。
- VIII層：円又は梢円形をした明黄褐色土をまだら状に含み、やや硬く結まる黄褐色土。VIII層の中程には「桜島薩摩」(p14)と考えられるテフラが親指大塊状に点在している。
- IX層：橙色輕石（霧島小林輕石）、青色岩片等の混じった塊状ブロックを含み、硬く結まる暗褐色土。
- この層序の中で、通常、県内ではVI層上層で縄文前期の轟A式が、Va層から上位の層では轟B式以降の時期の遺物が包含されている。



第1図 B区(N-6) 東壁土層図

第2節 調査の概要（第2図）

調査地は東西方向に展開する標高約90mの台地にあり、その南北両縁は急崖となっている。台地と眼下の沖積地との比高差は約55mである。台地の中央部には西から或いは北東からのびてくる小谷があり、その小谷は合流して南へ延びている。小谷には小川が流れしており、現在、西の小谷は湿地であり、東の小谷は水田として利用されている。また、合流点付近には湧水点が見られる。

道路予定地は、この合流点の東側近くを南北に横断する形になっており、南北約300m、東西50~80mが調査対象地となっている。調査地は広範囲に渡り、また、農道による分断や作物等による引き渡しの関係から調査着手時期が異なったため、着手時期や地形などを考慮して調査地をA~G区に区分して調査を実施している。さらに調査地全体には、国土座標を基に10mグリッドを設定している。A~G区は地形からの区分であるので、国土座標上のグリッドとは次のように整理している。A区(F~K-1~3区、F~J-4・5区)、B区(M~O-3区、K~O-4~10区)、C区(E~J-6~10区)、D区(I~M-11~16区、H~K-17~20区)、E区(F~H-11~16区、F・G-17・18区)、F区(D・E-18区、B~G-19~25区)、G区(D~H-26~30区)。

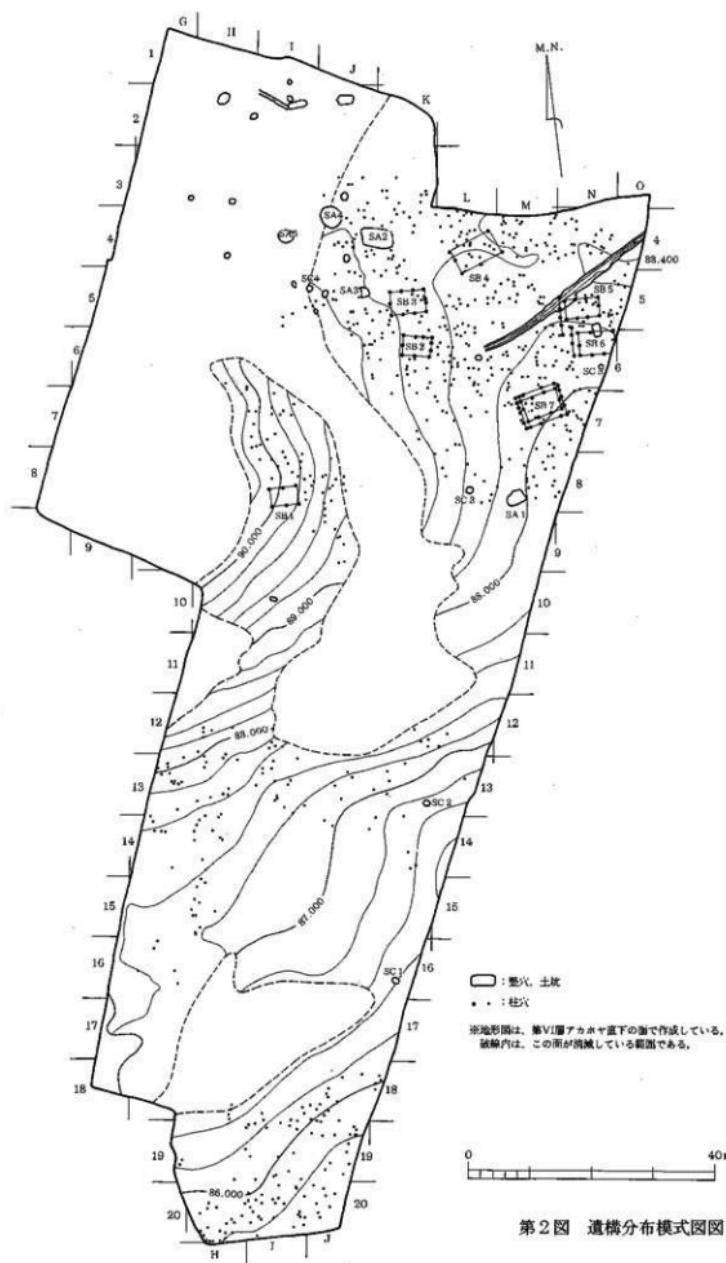
調査地は、調査区中央西のC区を最高位にしてA・B・D・E区に向かって傾斜しており、調査区全体としては、南北約300mに対して6mほどの比高差がある。基本層序は、第1節で説明したとおりであるが、当地は畑として整地されていたため、第I層表土を除去した下位の層は各区によって異なる。その各区の状況は、A・B区については、A区西半部では第I層下の層がⅦ層で東に行くほど層の残存度は良く、東端部では基本層序が認められる。B区の北半部のL-5区からN-7区方向には南東方向に傾斜する浅い谷がある。当区は本来東面する緩斜面であることがわかる。A区の南にあたるC区についても同様であり、西端ではXII層のシラス、東端ではVa層アカホヤ下層となっている。調査区の境界とした農道部分では、その工事等により、第V層ないしその下位まで消滅している。

調査区の南半部にあたるD区では表土下は第IV層黒褐色土、E区ではVa層二次アカホヤ、F・G区ではVb層アカホヤとなっている。アカホヤの傾斜から南に向かって傾斜していることを知ることができる。

調査は、第I層を重機で除去し、第II層から第Va層については手掘りによる掘り下げを行っている。遺構については第IV層まではその確認が困難であったので、A区北半分を除き、第Va・Vb層面で検出している。遺構は、調査区北半部のA・B区中心に縄文時代の堅穴住居跡、堅穴遺構、陥し穴状遺構、古代から中・近世の掘立柱建物跡、溝状遺構などが検出されている。

縄文時代の遺構についてはA区とB区の境界付近を中心に検出されており、中期末から後期前半の堅穴遺構がI~K-4区周辺及びM-8区、晚期前半以降と推定される陥し穴状遺跡がI-5区、N-6区、L-8区、K-13区、K-16区に位置する。この時期の遺物は大半がA区で出土している。

古代から中世の遺構は、B区北半部及びC区で検出され、この時期の遺物は検出遺構周辺で出土している。この他、調査区全域で調査対象外の近・現代の芋などの貯蔵穴である円形や長方形プラン



第2図 遺構分布模式図

の上坑が列状に検出され、また、風倒木によると考えられる層の横転部も多く確認されている。

B区北東部（K・L-4区、J-6区）では、空中写真で褐色を帯びる黒色土が埋土である10～20列の小穴群が認められるが、調査中はその性格は不明で、煙の開墾などによる比較的新しい擾乱の可能性が高いととらえ簡単に記録したのみであった。この遺構は、平成9年度に検出された沖縄県名護市宇茂佐古島遺跡の14～15世紀の烟跡と考えられている小穴列に類似しているので、白ヶ野第2・第3遺跡で検出された小穴群も烟跡であった可能性がある。

第Ⅱ章 調査の成果

第1節 繩文時代前期以降の遺構と遺物

1、 遺構と遺物

繩文前期以降の遺構は、堅穴遺構ないし堅穴住居跡（SA）が5基、陥し穴状遺構（SC）が5基検出されている。堅穴遺構はJ・K-4・5区周辺で4基、その南東約40離れたM-8区に1基があり、堅穴4基については5m～7mの間隔をもって半円状に分布している。陥し穴状遺構5基の分布状況には纏まりは認められず、数10mの距離をもって分散している。

SA1（第3図）

SA1は、M-8区に位置する。平面形は隅丸梯形を呈する堅穴である。長軸は東西方向で3.21cm、短軸は東辺で約2.00m、西辺で1.60m、最大幅2.40mを測る。壁高は20cmが計測される。柱穴は堅穴中央部の短軸方向に2個に配置されている。深さは40cm程が計測される。床面は、中央の柱穴附近より東半部が5cm低くなっている。

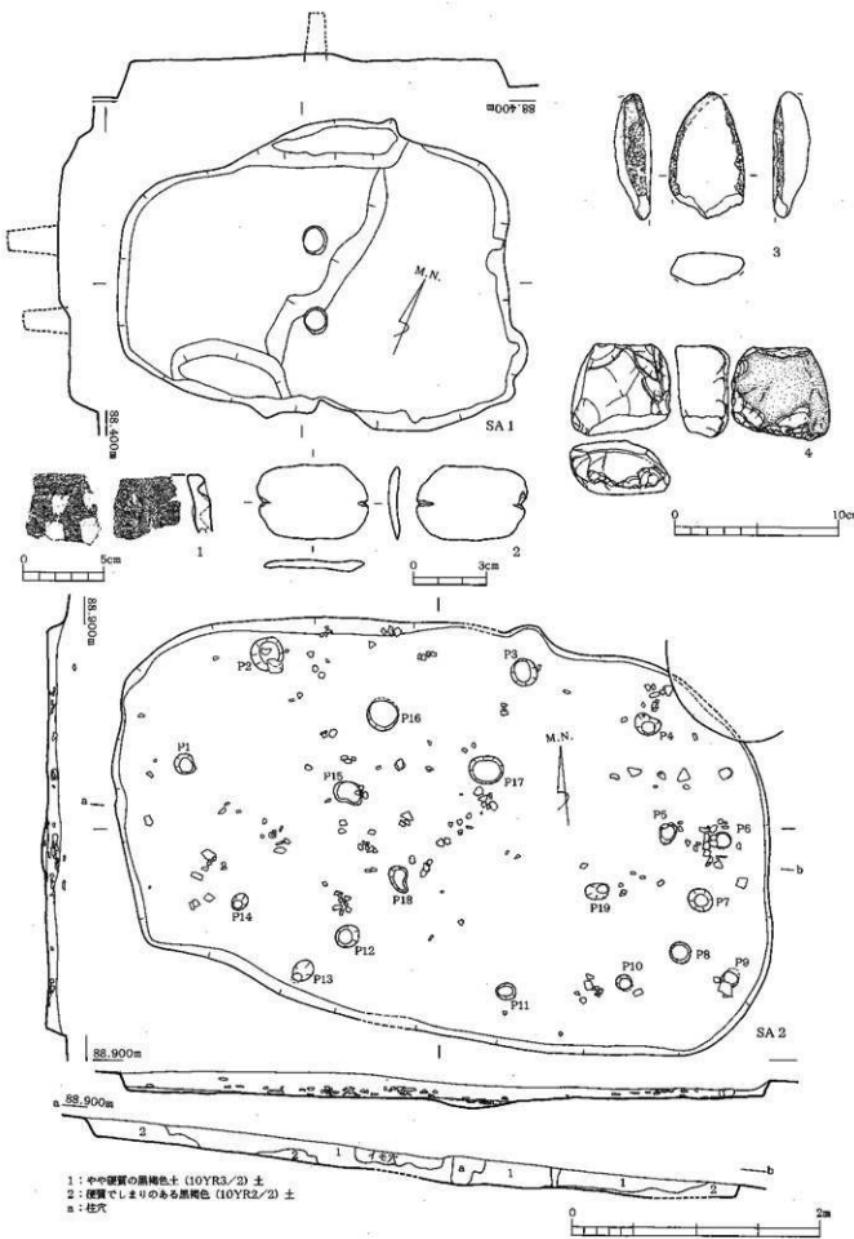
遺物は、床面近くで数点出土しているのみである。1は竹管様工具による凹点文が2列認められる口縁部である。2は切口石錐である。素材は、厚さ4mm程度の小判状に薄い堆積岩系石材（砂岩か）である。疊の長軸両端に浅い切り込みをいれる。重量は8.7gと非常に軽い。

SA2（第3・4図）

SA2は、J・K-4区に位置する。平面形はいびつな隅丸長方形を呈する堅穴である。長軸は東西方向で5.41m、短軸は東辺で2.26m、西辺で3.22mを測る。壁高は削平を受けているため、遺存状況は悪く、10～15cmが計測されるのみである。堅穴内ではピットが20個検出されているが、堅穴住居跡に伴うと考えられる柱穴はP1～P19で、住居内の外周に沿ってP1～P14が、P15～P18はほぼ中央に位置している。

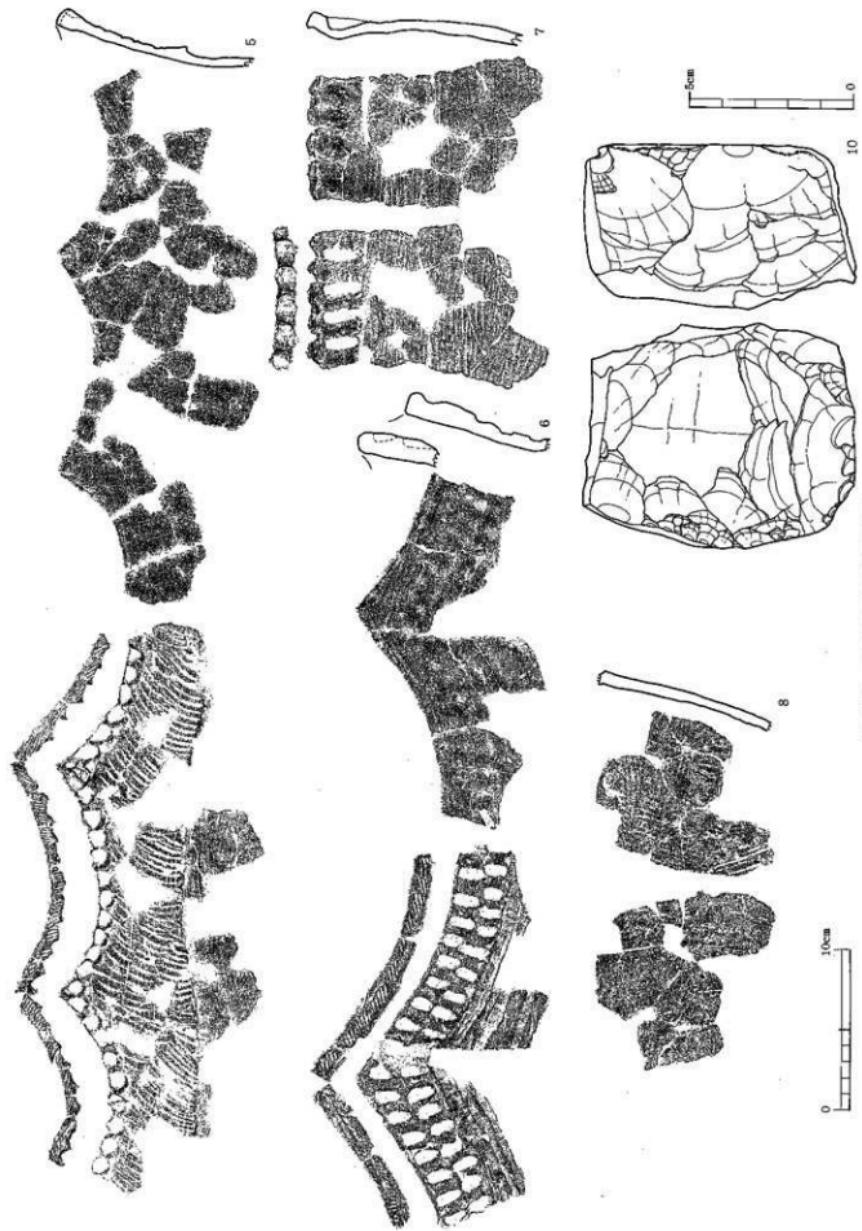
遺物は、若干の纏まりはもちつとも住居内全域から土器や石器が出土している。

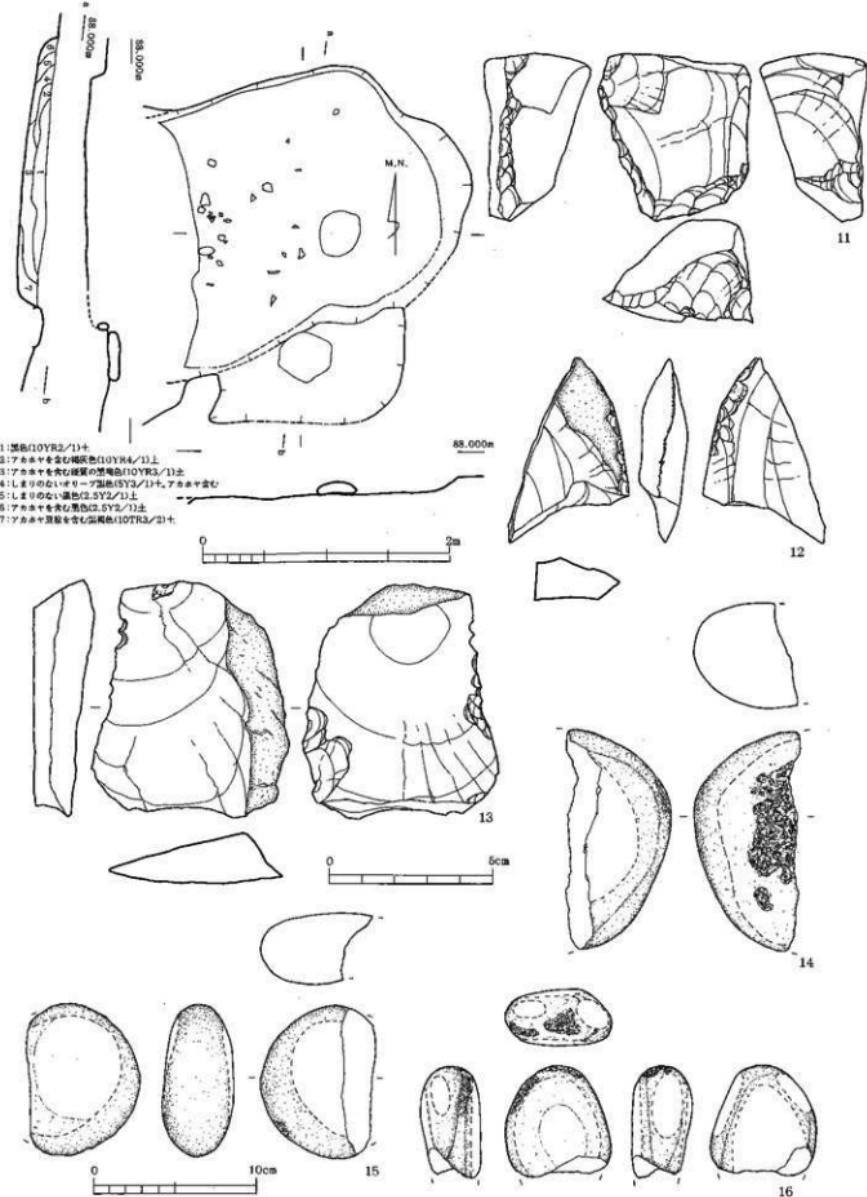
3・4は敲石である。3は磨石の転用であり、裏面には磨石の割面がそのまま残る。潰れは左両側面に帯状に見られ、右側面の方がより顕著に潰れる。割面表面の凹凸はやや摩滅した感があり、手擦れなどの原因が考えられる。砂岩製。4は河原疊を直方体に成形したもので、左側縁から下線の稜が摩滅する。砂岩製。3・4は潰れのあり方が近似する。5は波状の口縁部である。口縁部は緩やかに外反し、外面に肥厚部を作出し、上端に円形刺突文、その下位に貝殻腹縁による刺突文が施文



第3図 SA1・SA2遺構及び出土遺物実測図

第4圖 SA 2出土遺物實測圖





第5図 SA 3遺構及び出土遺物実測図

されている。口唇部には浅い短沈線文が見られる。器面調整は貝殻による調整後ナデしている。色調は全体的に黄褐色をていしている。6も波状の口縁部で、外面に肥厚部が作出され、その部分に長方形状の凹点文が二段施されている。その下位には凹線文が施文されている。器面はナデ調整である。7は口縁外面に長方形状の凹点文が施され、内面にはそれによる瘤状の盛り上がりが認められる。口唇部には指頭による円形の深い刻目があり、小さな波状を呈している。8は胴部下半部で内面に貝殻条痕文が認められる。10は石核である。河原礫を分割し、礫面から不定形剥片を剥離する。石器の角の稜がやや摩滅する。砂岩製。

S A 3 (第5図)

S A 3は、J-5区に位置する竪穴である。竪穴の西半は風倒木により消滅しているが、平面形は隅丸長方形状と推定される。南辺には幅1.60m、全長0.87m程の張出部があり、10cm程高くなっている。長軸は東西方向で2.30m、短軸は2.10mが現存している。壁高は削平を受けているため、遺存状況は悪く、15cmが計測されるのみである。柱穴は確認されていない。埋土は黒色土をベースにしており、層によってはアカホヤが混入している。埋土の堆積はレンズ状である。

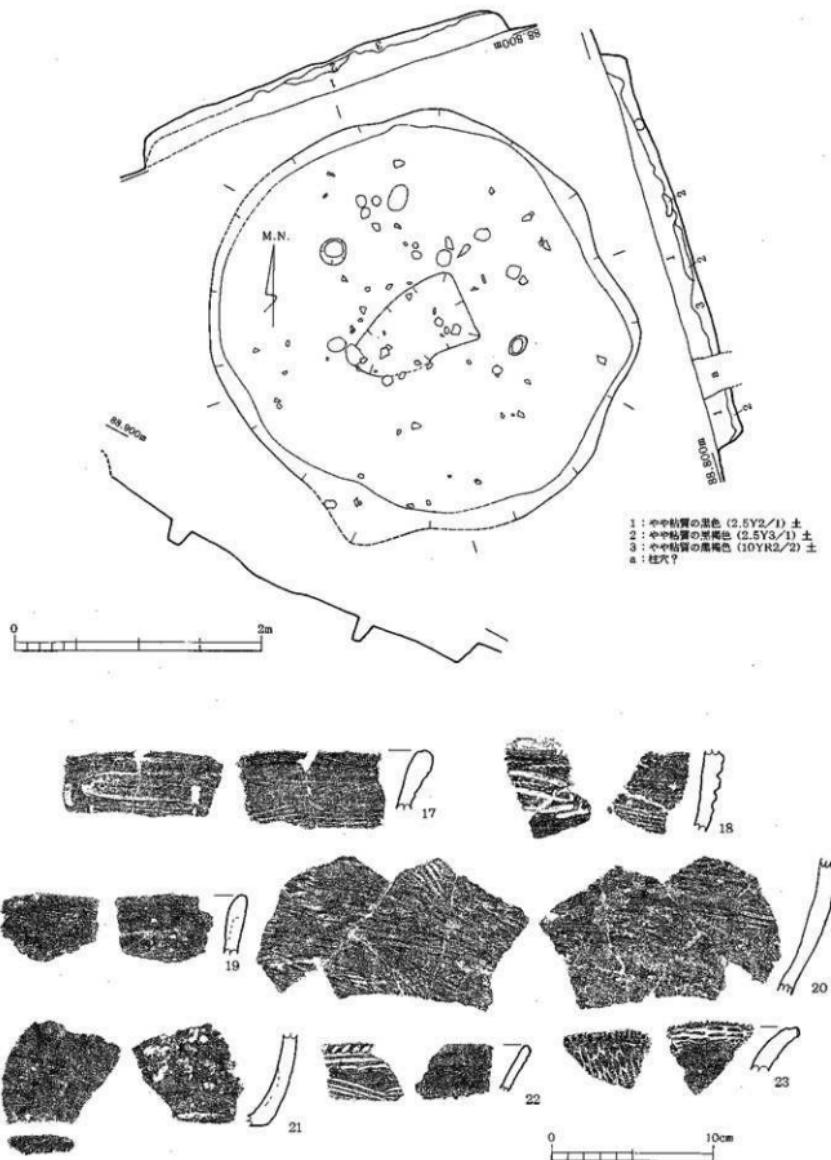
遺物は、長軸40cm程の扁平気珠の河原石や搔器、削器、敲石、磨石などが床面付近で出土している。土器の出土は確認されていない。11は搔器である。砂岩製の石核を転用している。左側縁から下縁が刃部となる。12は削器である。不定形剥片の端部に刃部を設ける。刃部の稜は摩滅する。砂岩製。13は微細剥離のある剥片である。河原礫から剥離された縦長剥片の左側縁に微細剥離が残される。砂岩製。14は鈍重な楕円礫を用いた台石である。表面にアバタ状の敲打痕がある。砂岩製。15は磨石の可能性がある。表裏面の磨痕は顯著でない。側面にわずかに敲打痕が残る。16は敲石の可能性がある。端部を中心に弱い敲打痕が認められる。磨面は確認されない。砂岩製。

この他、石核1点、磨石1点、不定形剥片が多数ある。石核は砂岩製で4~5cm角のサイコロ状を呈する。小形の不定形剥片が剥離されている。磨石は風化が著しく、磨痕が明確でない。砂岩製。なお、搔器・削器・石核に利用される砂岩は硬質、台石・敲石・磨石に利用されるそれは軟質である。

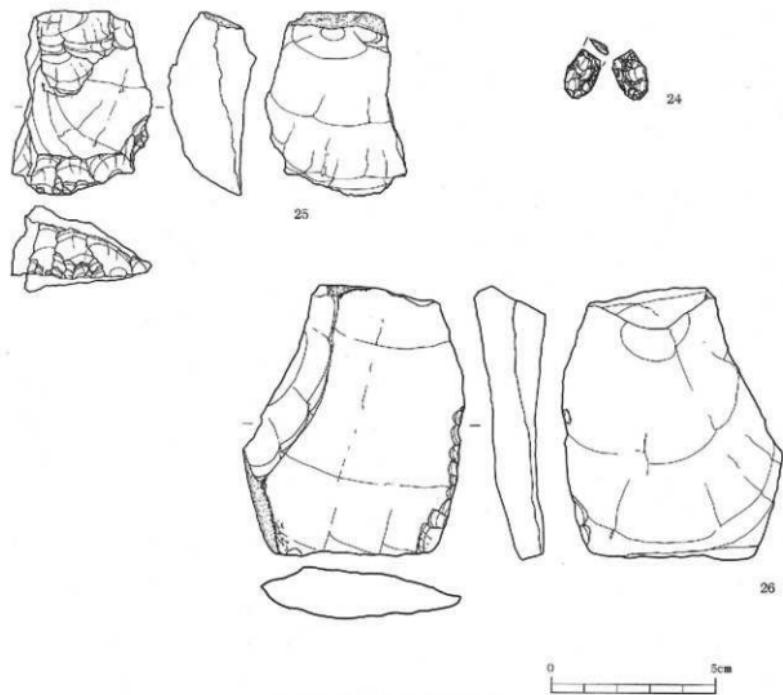
S A 4 (第6図)

S A 4は、J-4区に位置する。長軸は3.51m、短軸は3.32mを測り、平面形がほぼ円形に近い竪穴である。壁高は17~35cmを測る。柱穴は2個で略東西方向に配置されている。柱穴は径15cm、20cm、深さ20cm程が計測される。竪穴中央部の柱穴間には、四角形の浅い窪みが認められる。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積している。

遺物は、床面付近で貝殻文系土器や石鎚、搔器などが出土している。この他、流れ込みではあるが縄文早期の平捨式土器(22)や押型文土器(23)も出土している。17は口縁部の沈線文が反転し、平行沈線文となっている。18は反転平行沈線文、貝殻腹縁刺突文のある口縁部付近であり、内面には貝殻条痕が見られる。19は口唇部を丸くおさめた口縁部で、器面はナデ調整である。20は内外面とも貝殻条痕文が見られる胴部下半部である。21は平底の底部で器面はナデ調整である。24は打製石鎚の脚である。漆黒色黒曜石製。下位包含層遺物の混入の可能性がある。25は分厚い縦長



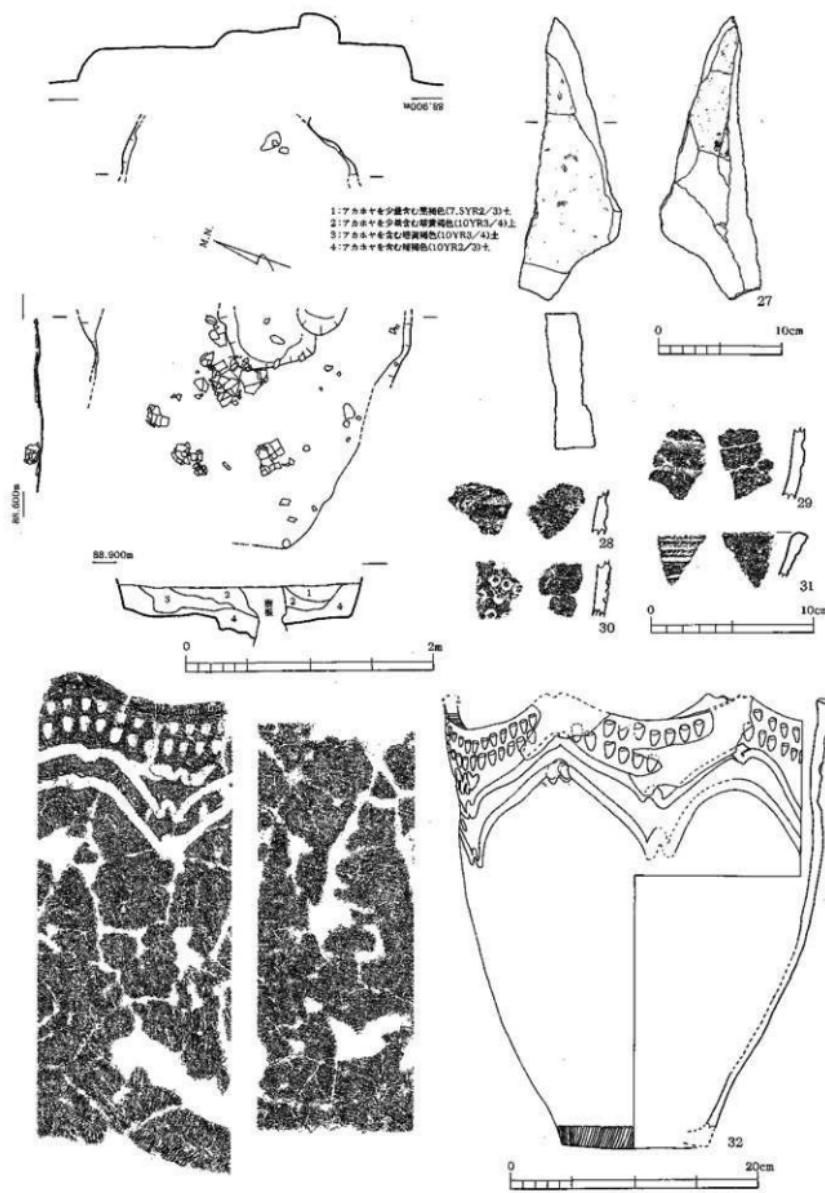
第6図 S A 4遺構及び出土遺物実測図



第7図 SA 4出土遺物実測図

第1表 石器観察表(1)

レジクトNo	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
2	SA1	切目石錐	4.5	0.3	0.5	8.7	砂岩	
3	SA2	敲石	7.8	4.6	2.1	82.7	砂岩	
4	SA2	礫器	5.8	6.0	3.4	168.2	砂岩	
10	SA2	石核	8.3	6.8	5.1	460.6	砂岩	
11	SA3	搔器	5.1	4.5	3.3	74.5	砂岩	
12	SA3	削器	5.7	3.7	1.5	21.8	砂岩	
13	SA3	削器	7.3	6.0	1.9	81.0	砂岩	
14	SA3	台石	13.5	6.4	6.8	683.0	砂岩	
15	SA3	磨石	9.5	7.1	4.4	339.0	砂岩	
16	SA3	敲石	6.9	6.4	3.5	211.4	砂岩	
24	SA4	石錐	-	-	-	0.4	黒曜石	
25	SA4	搔器	5.8	4.0	2.3	56.5	砂岩	
26	SA4	削器	8.3	6.8	2.1	91.5	砂岩	
27	SA5	石皿	17.5	5.6	5.3	636.9	砂岩	



第8図 SA 5遺構及び出土遺物実測図

剥片を素材とし、剥片端部に刃部を設けた搔器である。素材剥片は礫面から剥離される。砂岩製。26は削器である。縦長剥片を素材とし、右側縁下に刃部を設ける。石器表面右下と上縁は、穂が磨滅する。

この他、砂岩・黒色黒曜石・姫島黒曜石製の剥片が若干出土している。

SA5 (第8図)

SA5は、I-4区に位置する。平面形は先行トレンチなどで北東隅や東半部の一部が欠損しており詳細は不明であるが、隅丸長方形と考えられる。規模は、長軸は3.50m以上、短軸は2.30m程であると推定される。壁高は30cm程が残存している。柱穴は確認されていない。埋土はアカホヤ粒を含む暗褐色～黒褐色土であり、4層に分層される。全ての層には炭化物粒が含まれている。堆積はレンズ状である。

遺物は、床面で押し潰れた状態の土器や石皿片が出土しているが、個体数は多くはない。また、流れ込みではあるが縄文早期の平底式土器(31)も出土している。

27は石皿の破片である。表裏面ともよく擦れている。砂岩製。この他、姫島黒曜石製の石鏃が1点出土している。28、29は平行凹線文が認めらる口縁部付近である。30は竹菅様の工具による刺突文のある土器である。32は床面で押し潰れた状態で出土し、ほぼ完形に復元できた波状口縁の深鉢形土器である。文様帶は胴部上半部にある。文様は、口縁部下に2列ないし3列の三角形状の凹点文が施され、その下位には平行凹線文が波状口縁の波に沿って施文されている。その頂部、下部の反転部では「逆W字」、「W字」状となっている。口唇部には一部短沈線文が施文され、波頂部には指頭による凹点文がある。胴部下端には縦方向の短沈線文が巡っている。器面は貝殻調整後、ナデ調整している。

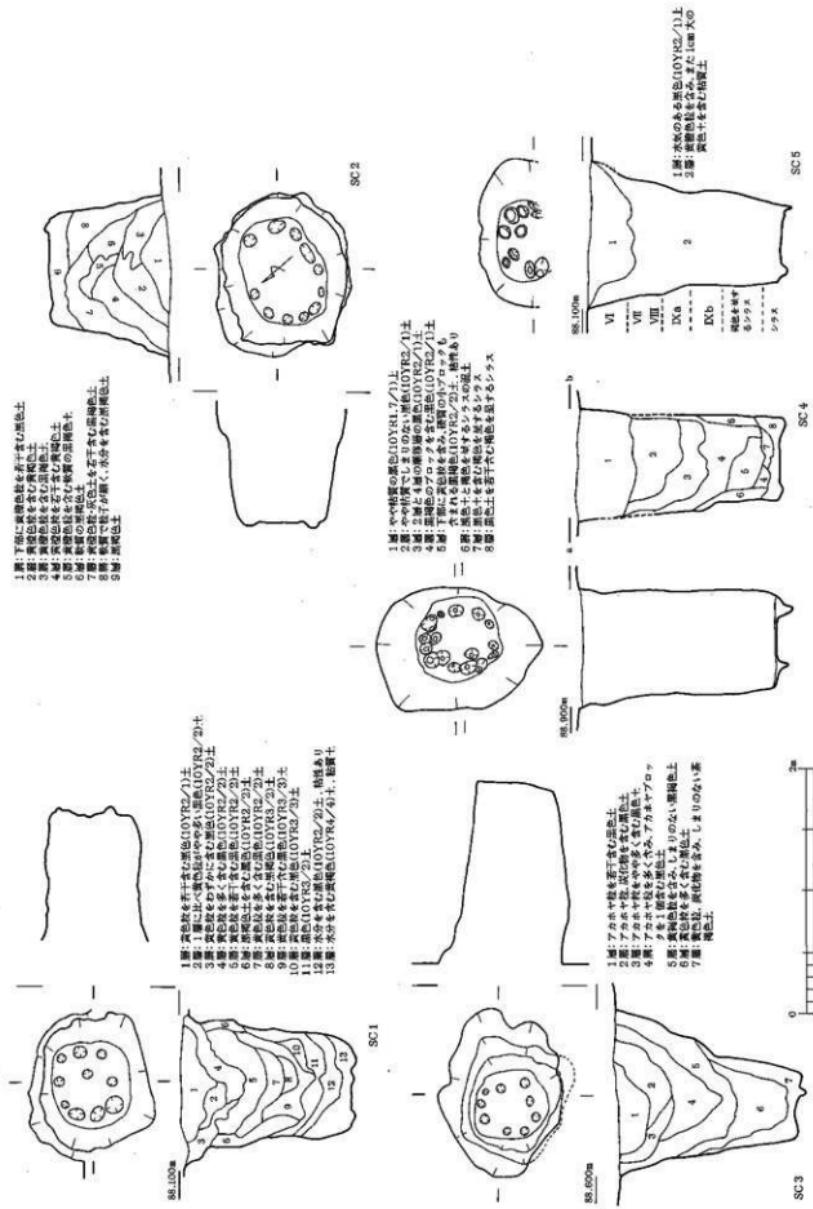
SC1 (第9図)

SC1は、K-16区に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は、上端で長軸を1.08m、短軸は0.92mを測り、深さ1.42mが現存する。下端は、長軸0.92m、短軸0.64mを測り、4周に径12cmほどの小ピットが8個巡り、中央部に2個ある。深さは26cm～8cmである。

遺構内の埋土は、大きくは最下層の黄褐色土、その上位の黒色系の土の2層に分層され、レンズ状に堆積している。上位の黒色系の土は、黄色粒(アカホヤ)などの混入状況から細分される。遺物は土器が出土しているが、詳細は不明である。

SC2 (第9図)

SC2は、K-13区に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は、上端で長軸1.22m、短軸は1.02mを測り、深さ1.00mが現存する。下端は、長軸0.91m、短軸0.68mを測る。4周には幅15cm程の浅い溝が巡り、その溝内に径10cmほどの小ピットが11個ある。深さは11cm～5cmである。遺構内の埋土は、大きくは下層から黒褐色系、黄褐色系、黒色系の3層に分層でき、さらにアカホヤなどの混入状況から細分される。遺物は出土していない。



第9図 SC 1・SC 2・SC 3・SC 4・SC 5 道標実測図

SC 3 (第9・10図)

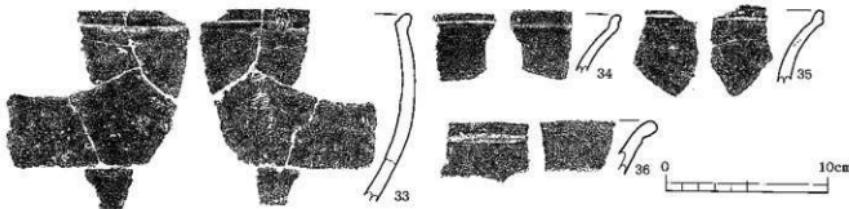
SC 111は、L-8区に位置する。平面形は上端で変楕円形を呈し、規模は長軸1.39m、短軸は0.95mを測る。深さ1.47mが現存する。下端は隅丸方形状を呈し、長軸0.60m、短軸0.56mを測り、4周に径7cm程の小ピットが巡っている。深さは5~10cmである。遺構内の埋土は、大きさは最下層の茶褐色土と黒色系の土の2層に分層でき、黒色系の土についてはアカホヤなどの混入状況からさらに細分される。遺物は、7層に細分された層の5層、遺構の中程から上位で黒色磨研の土器片が出土している。33は胴部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が短く外へ開く精製浅鉢である。口縁内面に沈線文が施されている。34、35は口縁部が弧状に外反し、口唇部が短く立ち上がる精製浅鉢である。口縁内外面に沈線文が施されている。時期は晩期である。

SC 4 (第9・10図)

SC 4は、I-5区に位置する。平面形は上端で変隅丸長方形を呈し、規模は長軸1.36m、短軸は1.00mを測る。深さ1.65mが現存する。下端は円形状を呈し、径0.70mを測る。床面には50cmの円形状に径10cm程の小ピットが17個巡っている。深さは10cm程である。遺構内の埋土は、大きさは最下層の黒色土と褐色土の混土、黒褐色絆系、黒色系の土の3層に分層でき、アカホヤなどの混入状況からさらに細分される。遺物は、開く口縁部の端部がわずかに外反し、外面に沈線文が施文される晩期の精製土器(36)、内外面に貝殻条痕文、口唇部口端に刻目のある前期の轟式の口縁部(49)が出土している。36と49は時期が異なるので、遺構は前者の時期である。

SC 5 (第9図)

SC 5は、N-6区に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は、上端で長軸1.20m、短軸0.90m、下端は長軸0.70m、短軸0.60mが復元される。深さ1.56mが現存する。4周に径10cmほどの小ピットが巡っており、計15個ほどはあったと思われる。深さは10cm~15cm程度である。遺構内の埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積している。上層はアカホヤ上位の黒色系の埋土である。遺物は不詳である。



第10図 SC 3、SC 4出土遺物実測図

2、包含層出土の土器（第11～24図）

縄文前期以降の遺物は、前期から晩期の各時期のものが出土している。遺構は、A区とB区の界付近で後期初頭から前半の堅穴住居跡等4基、B区で同時期の堅穴住居跡が1基、そのほか晩期前半と考えられる陥れ穴状遺構がA・B・D区で検出されているが、遺物の出土はA区で大半が出土し、他の区ではあまり出土していない。晩期の遺物についてはE区（G-11～18区、H-11～16区）、F区で多く出土しており、前期から後期の遺物とはその分布が異なっている。

白ヶ野第2・第3遺跡で出土した縄文前期以降の遺物はつぎのとおりである。

A類（37～55）

外面に貝殻条痕文が施され、内面には貝殻条痕文があるもの（39、46など）とないもの（37、45など）がある。口唇部は丸く或いは平坦に仕上げている。丸く仕上げられたもの（41、44など）は全面に刻目が、平坦に仕上げられたもの（37、47など）は口唇部外端に刻目がみられる。

B類（56、57）

微隆線文のある土器で、器面調整はナデ調整（56）と貝殻条痕調整（57）がある。

C類（58～74）

外面に貝殻条痕文のある胴部である。この中には器面調整としての条痕上に横或いは斜め方向の条痕文が文様風に施されたものがある。内面調整は貝殻、板状工具の使用やナデ調整などである。

D類（75～77）

器面調整としての貝殻条痕上に竹苦様の工具使用による鋸齒状或いは波状の平行線文のある土器である。77の右端には縱方向の突帯文が認められる。

E類（78～82）

水平或いは弧状の沈線文が施文された土器である。78には横方向の突帯が認められる。79は口縁部で内面口縁部下に沈線文がある。82は横平行沈線文を中心にして上下に重弧沈線文が施されている。器面は内外面ともナデ調整である。

F類（83～101、103～130）

刺突連点文、短沈線文が施文された土器で、次のように細分される。

F-1類：口縁部の外面に刺突連点文或いは短沈線状連点文、短沈線文、内面にも刺突連点文、短沈線文或いは沈線文が施文された土器である。ただし、92の内面は無文である。（83～85、87、91、92）

F-2類：口縁部の外面に沈線文ないし短沈線文、内面には刺突連点文、短沈線文或いは沈線文が施文された上器である。93、94は文様、器面調整、焼成、色調などから90と同一個体である。97、98は弧状の短沈線である。（86、88～90、93、94、97、98、100、101）

F-3類：口縁部の外面に短沈線文ないし短沈線文が施され、内面は無文の土器である。沈線文は粗雑な感がある。（95、96、99）

F-4類：横区画沈線文や方形区画沈線文、短沈線文、刺突文などが施文された頸部から胴部である。103と108は同一個体で山形文が施文されている。（103～124）

F-5類：丸底或いは丸底気味の底部で外面に短沈線文が施文されている。（125～130）

G類 (131～140)

口縁部に幅広の文様帶を作出した土器で、その形状から次のように細分される。

G—I類：内湾ないし直行する口縁部を肥厚させて文様帶を作出し、その文様帶上に貝殻、ヘラ状或いは木口状工具で鋸歯文が施文された土器である。(131～137、140)

G—2類：頸部で若干くびれ、外に開く口縁部の文様帶上にヘラ状工具で施文したもの。138、

139は同一個体とである。(138、139)

H類 (141)

波状の口縁部で凹線文、凹点文が施文され、口唇部には短沈線文が施文されている。器面調整は、貝殻条痕のあと丁寧なナデ調整がなされている。色調は内外面とも浅黄褐色である。

I類 (143、144、145～166、169、170、171)

口縁部下を肥厚させて文様帶を作出し、その文様帶上に凹点文や凹線文、その下位に凹線文を施文した土器で、次のように細分される。

I—1類：口縁部肥厚帶上に竹管様工具による方形或いは長方形の凹点文や凹線文、その下位に凹線文が施文されている。口縁部は平縁、波状があり、後者が多くみられる。口唇部には指頭による円形状の刻目、棒状工具による刻目、沈線文などが施される。肥厚帶上の凹点文の内面には施文時の圧力による瘤状の盛り上がりが認められるものが多い。器面は貝殻条痕のあとナデ調整がなされていると考えられ、内面に条痕の痕跡が一部残るものがある。(143、145～158、170)

I—2類：I—1類に類似する口縁部であり、波頂部に短く垂下する突帯あり、多くはその突帯上に刺突文が施されている。(159～163)

I—3類：胴部で沈線文が施文されている。164には入り組み状繋ぎ文がみられる。(164～166)

I—4類：I類に含まれる思われるものを一括する。144は横走する蛇行凹線文、入り組み状繋ぎ文が施文されている。169は口縁部肥厚帶上に棒状工具による押引文が施文されていて、171は小型の深鉢で口縁部下に横方向を基調とする短沈線文が施文され把手をもつ。その下位には縦方向を基調とする沈線文が施文されている。

J類 (167、168)

口縁部下に突帯もつものである。167は、口縁部下に指頭による刻目が施された二条の突帯文が巡っている。口唇部には指頭により深く押圧されて口縁部は波状を呈している。内面は貝殻条痕文上をナデ調整している。168は平縁の口縁部で、長方形の突起が貼り付けられている。口縁部下に指頭による刻目が施された一条の突帯文が巡り、その下に凹線文が施され、口唇部は貝殻を使用して平坦に仕上げている。器面はナデ調整である。一ヵ所で穿孔が確認される。

K類 (172)

短く外反する口縁部で、横走する沈線文、その沈線文端部には刺突文が施されている。沈線文間に貝殻刺突文が施文されて、口縁部下に把手が付けられている。

L類 (173～191)

口縁部下に三角形状の肥厚部を作出し、器面調整は内外面とも貝殻条痕のものが大半である。L

類は文様などによって次のように細分される。

L類-1：口縁部下に三角形状の肥厚部を作出し、そこを文様帶として貝殻刺突文、刺突連点文、

沈線文が施文された土器である。口縁部は波状口縁、平縁がある。

(173、174、176～183)

L類-2：口縁部下に三角形状の肥厚部を作出した土器である。器面調整は175、185が内外面とも貝殻条痕で、色調は175がぶい橙色、185は赤褐色である。184は内外面ともナデ調整で色調は明赤褐色である。186の器面調整は貝殻条痕であるが、内面の調整は丁寧で一部は条痕後ナデしている。色調は淡黄色である。(175、184～186)

L類-3：口縁部下に三角形状の肥厚部を作出した平縁の土器である。口縁部に尖起部をつくり、187は口唇上に指先による刻目、190は外面に貝殻刺突文を施文している。

(187、189、190)

L類-4：直口或いは内湾する口縁部で、器面調整は内外面とも貝殻条痕である。188は強く撫でて外面を内湾させその部分に貝殻刺突文を施文している。191は外面に二段の貝殻刺突文を施文している。(188、191)

M類 (192、194、195、197、198、201)

口縁部が外反する平縁の口縁部である、口唇部が丸く仕上げられ、中には肥厚しているものもある。胴部は球形に近いと考えられる。器面調整は内外面とも貝殻条痕である。色調は赤褐色系を呈している。

N類 (196)

1点だけであるが、器形は円筒形で波状口縁なと考えられる土器である。調整は内外面とも貝殻条痕で、色調は明赤褐色を呈している。

O類 (199、200)

つくりの丁寧な小型の鉢形土器である。199の底部は充填法であり、器面はナデ調整である。200は、口唇部に外に張り出す突起があり、器形は半円状である。器面は板状工具で撫でている。

P類 (142、193、202、203)

口縁部が直行する深鉢で、最大径は口縁部にある。器面は貝殻などによる荒い調整である。色調はぶい黄橙色を呈している。142は口唇部に蝶ネクタイ状の突起があり、193は波状口縁である。

Q類 (204、205、208、209)

口縁部が直行する深鉢で、外面に段を有する口縁帯が作出されている土器である。口縁帯の状況から次のように細分される。

Q類-1：口縁帯が無文の土器である。外面段下の器面調整は、板状工具による荒い調整である。

色調は黄灰色系を呈している。(204、205)

Q類-2：口縁帯に外面から施文された刺突文のある土器である。208は貫通していない。

(208、209)

R類 (206)

外面に断面台形状の突起文がある土器で、1点のみ出土している。内面調整は貝殻条痕である。

色調は黄灰色を呈している。

S類 (207)

器形は浅鉢と推定され、口縁部下に外面から刺突された小孔がめぐる土器である。孔は貫通せず、内面には刺突による瘤状の盛り上がりが認められる。色調はにぶい黄色を呈している。

T類 (210～212)

若干内湾気味に外に開きに立ち上がる口縁部で、内面はヘラ状の工具で段が作出され、外面には沈線文が施文されている。器面はナデやヘラミガキなどで丁寧に調整している。210は、中央の抉りを中心に四方に沈線が延びており、三叉文の施文法に類似している。上方に延びる沈線文は「Y」字状に分かれ、その分歧点上に穿孔がある。

U類 (213～216)

胴部が丸く屈曲し、口縁部が短く外反ないし立ち上がる浅鉢形土器である。器面はナデやヘラミガキなどで丁寧に調整しているが、216は屈曲部外面に木口による撫でがみられる。213と215は、器面調整や色調などから同一個体と考えられる。

V類 (217)

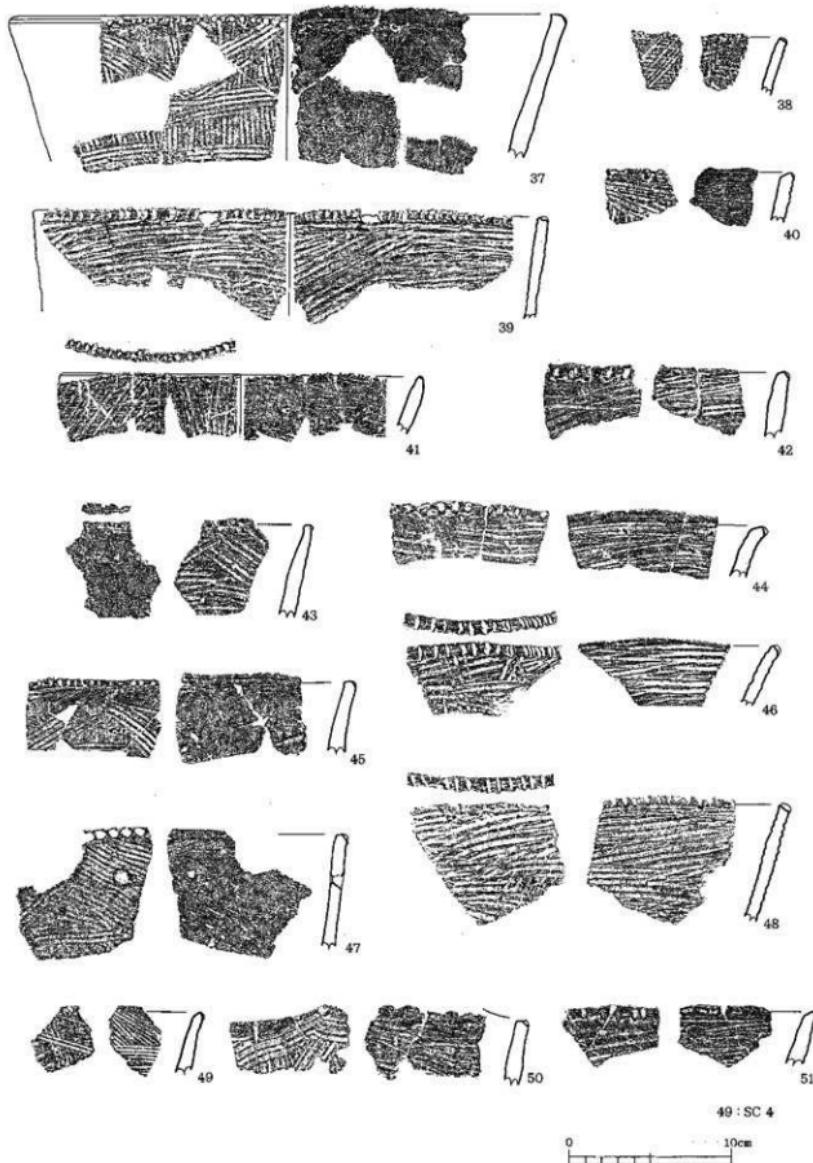
胴部下半部と推定される組織底土器である。風化のため詳細は不明であるが、編み目状の圧痕がと見てとれる。

W類 (218～239)

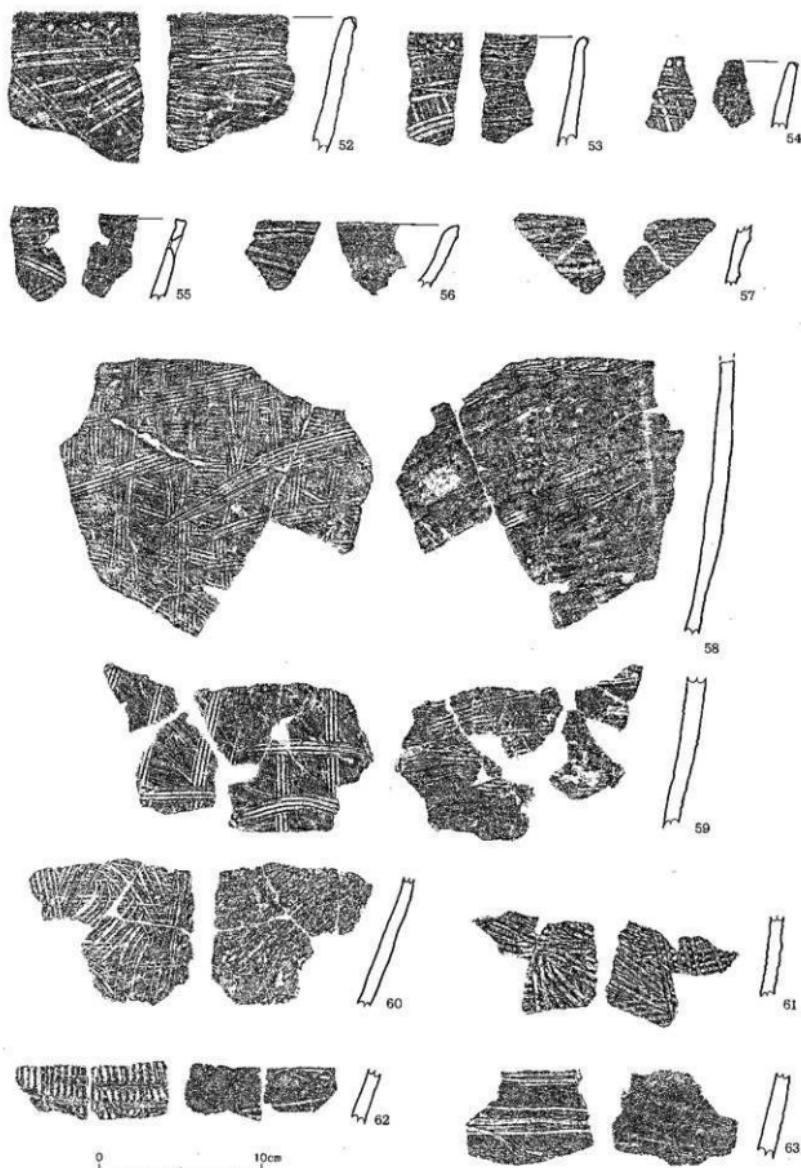
底部には高台状底部(218、219)、上げ底(220～224)、平底などがある。高台状底部は外端部が外に張らず、上げ底は外端部が外に張るものが多い。器面の調整は貝殻条痕が大半であり、また、貝殻条痕の後ナデ調整されたものも多い。238は底部外縁に刻目がほどこされている。

X類 (240～257)

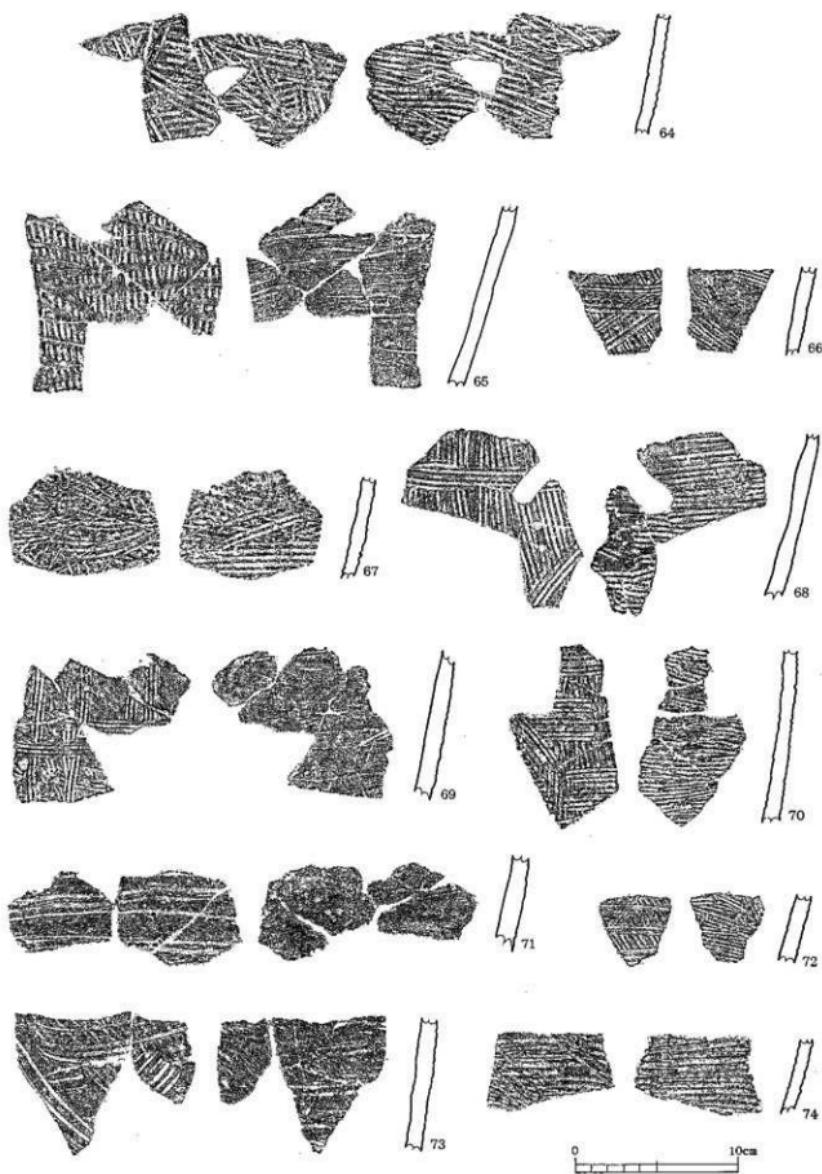
編み物圧痕のある底部を括している。圧痕は、スダレ状の257以外はアジロ状である。底部から胴部への立ち上がりはやや大きく開くようである。



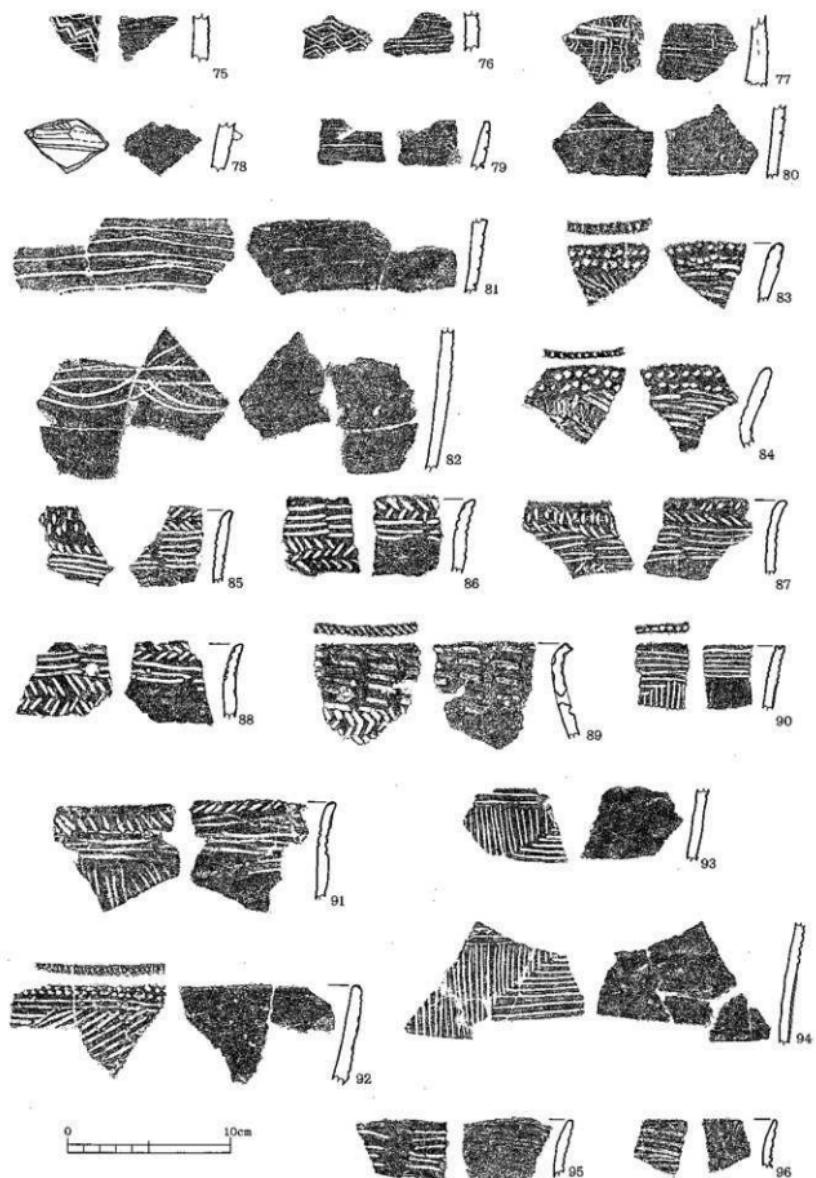
第11図 SC 4、包含層出土土器実測図(1)



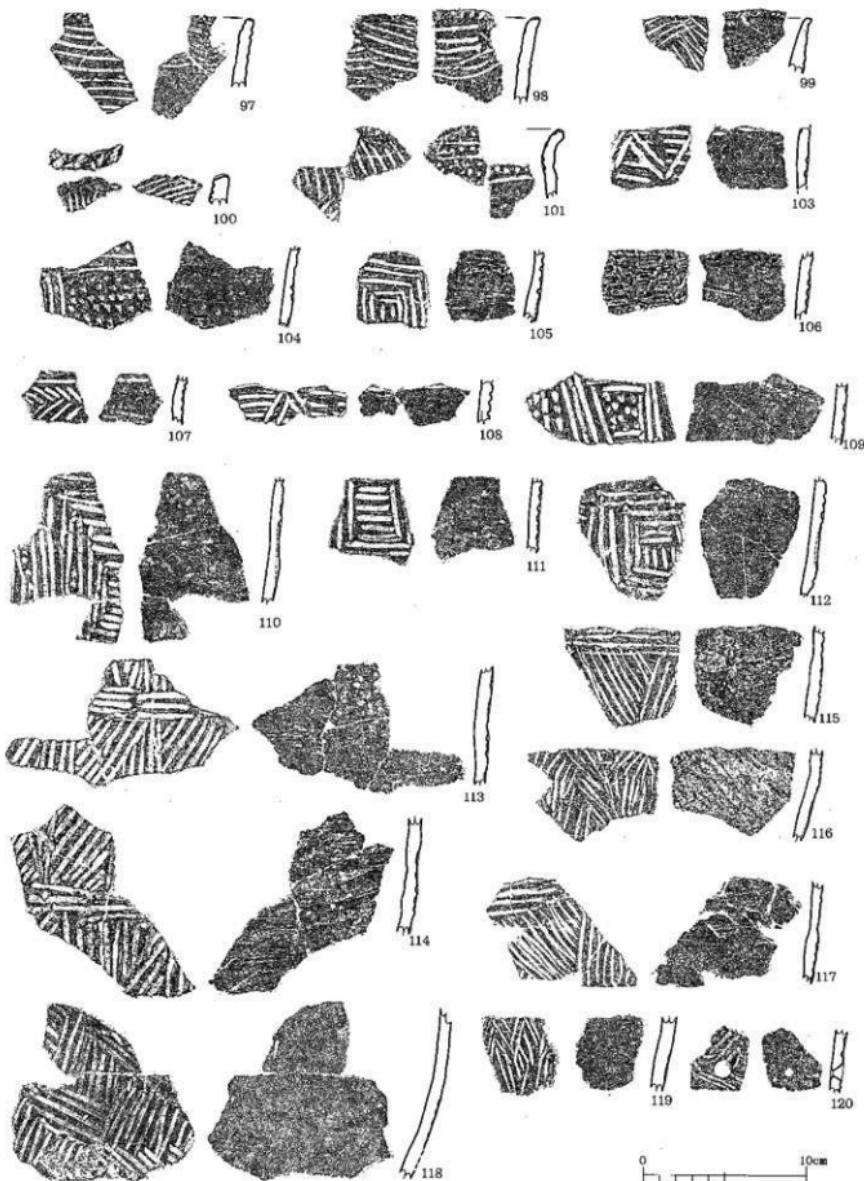
第12图 包含层出土土器实测图(2)



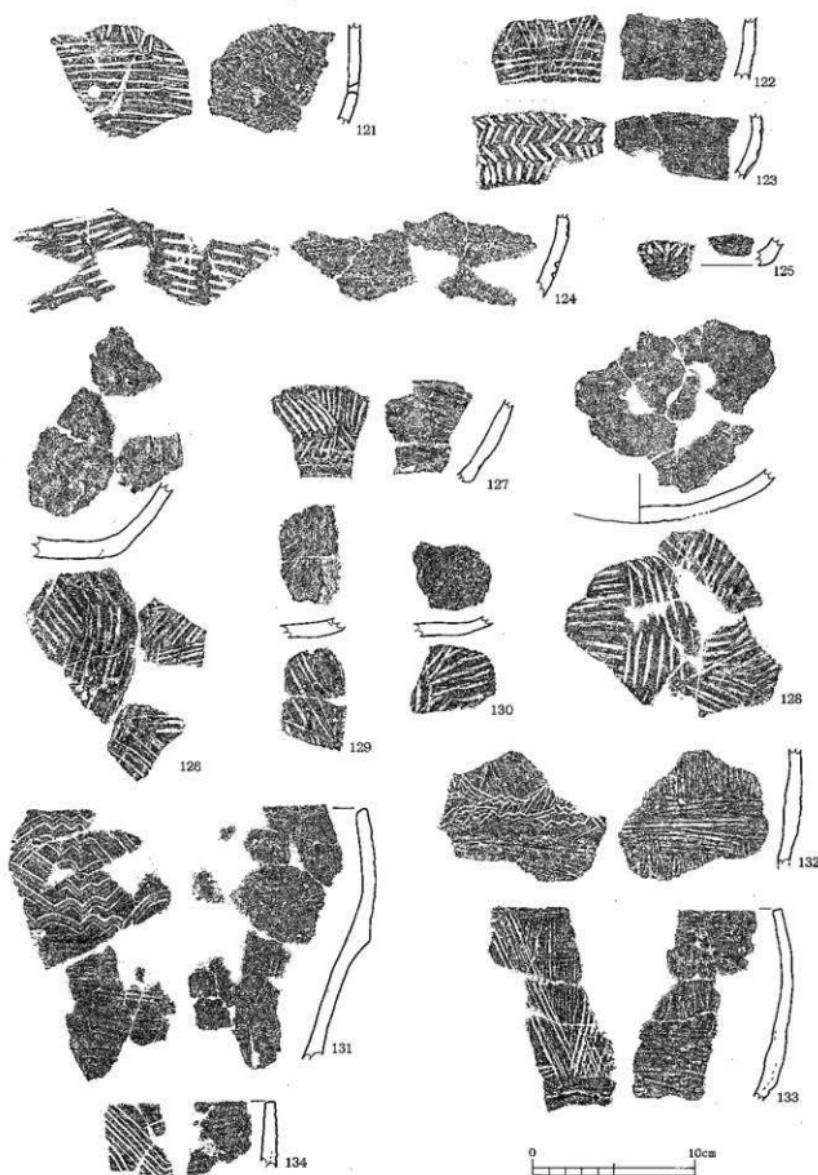
第13図 包含層出土土器実測図(3)



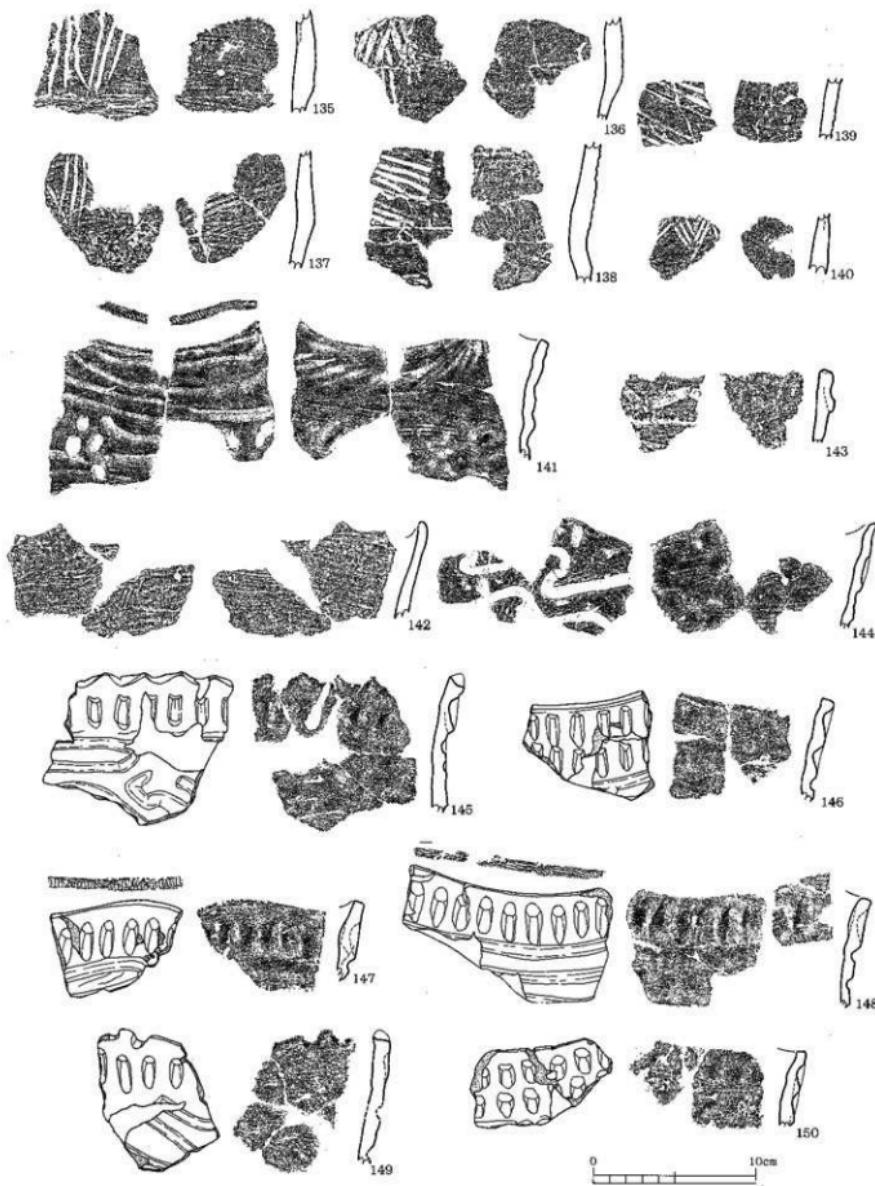
第14図 包含層出土土器実測図(4)



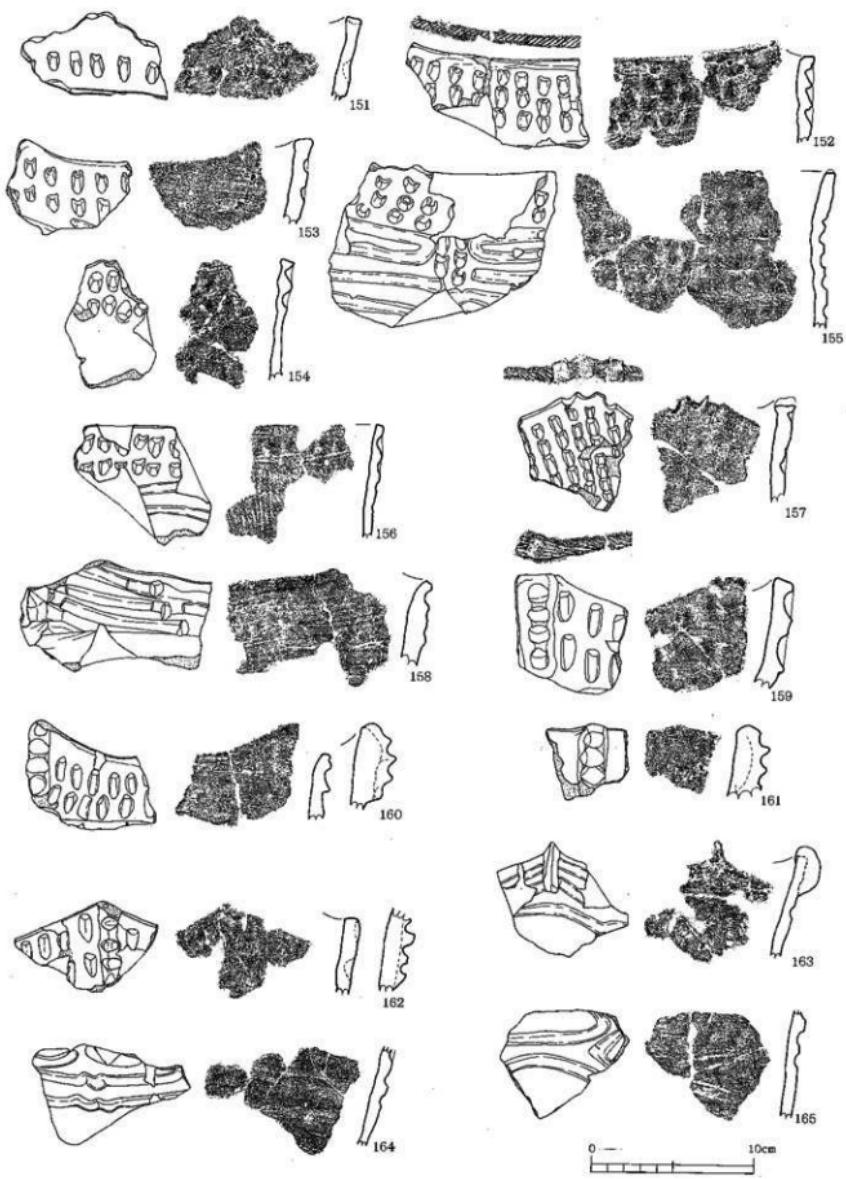
第15図 包含層出土土器実測図(5)



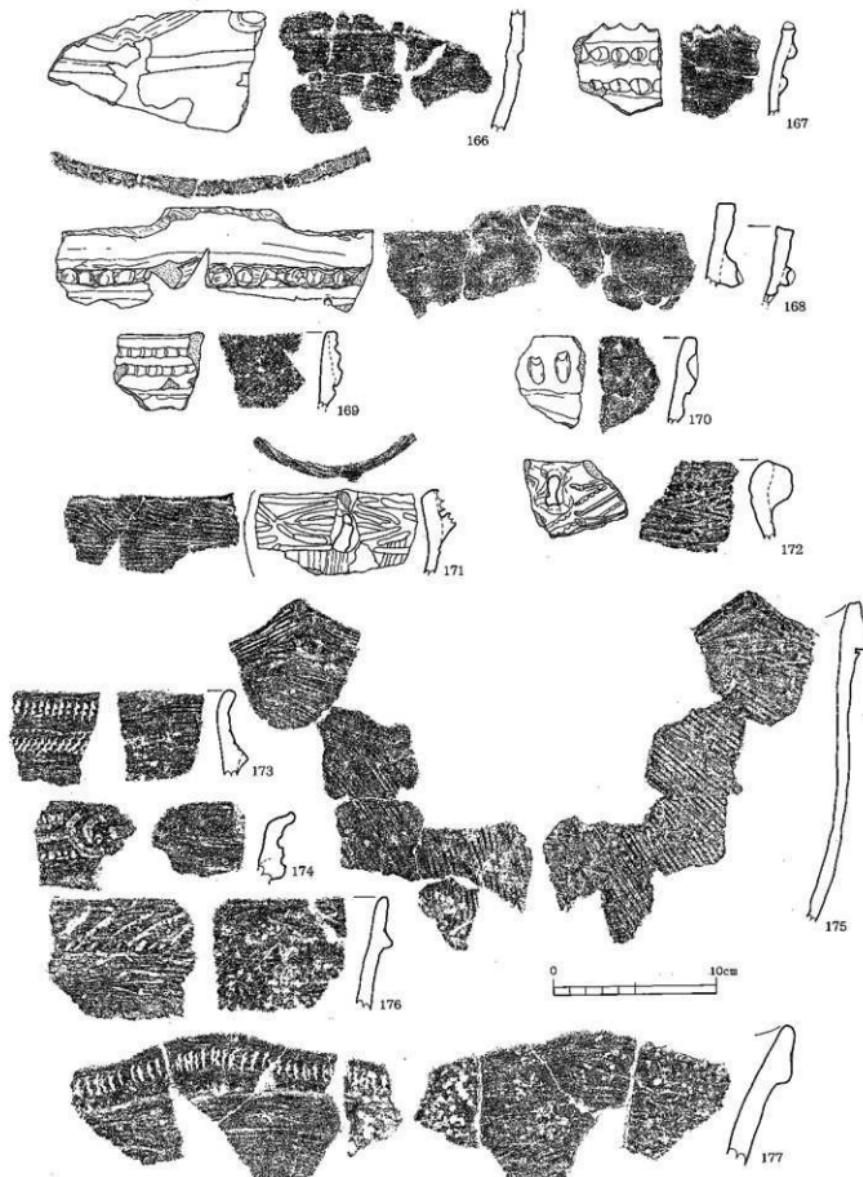
第16図 包含層出土土器実測図(6)



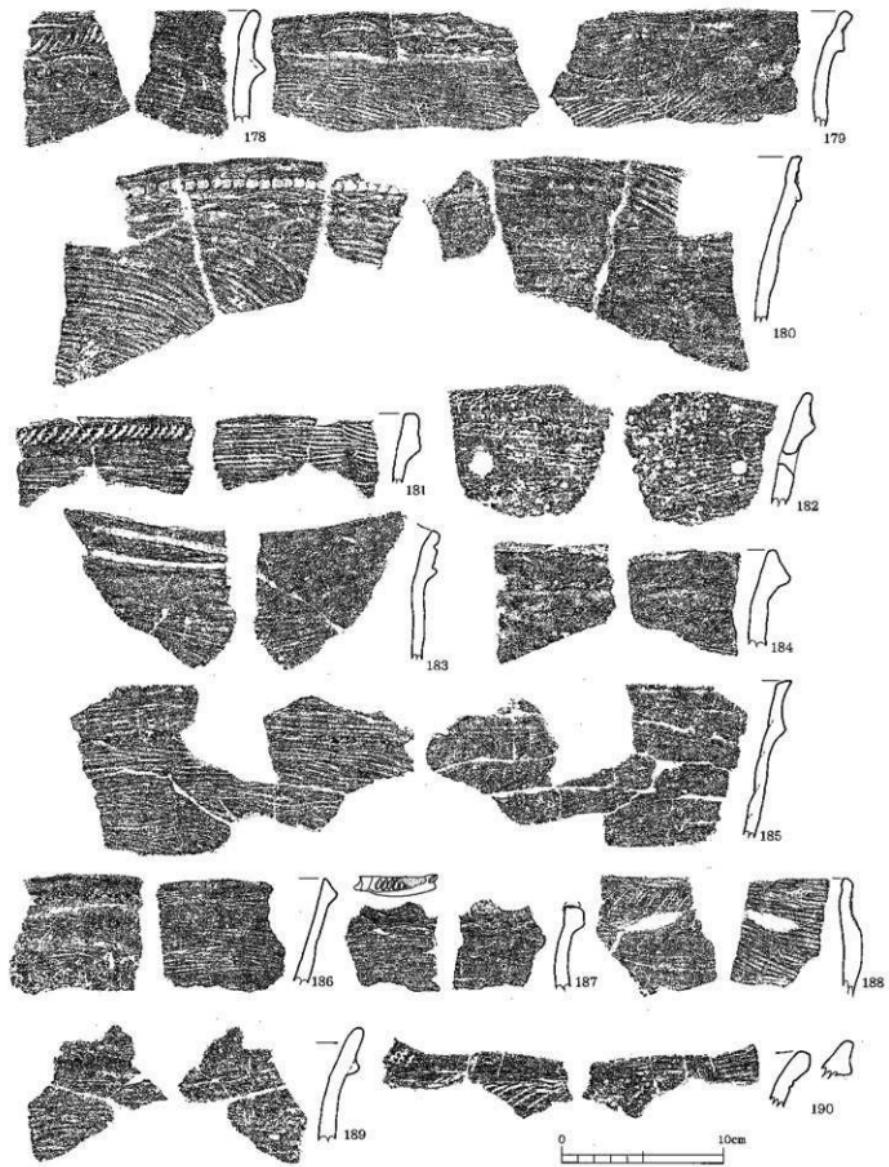
第17図 包含層出土土器実測図(7)



第18図 包含層出土土器実測図(8)



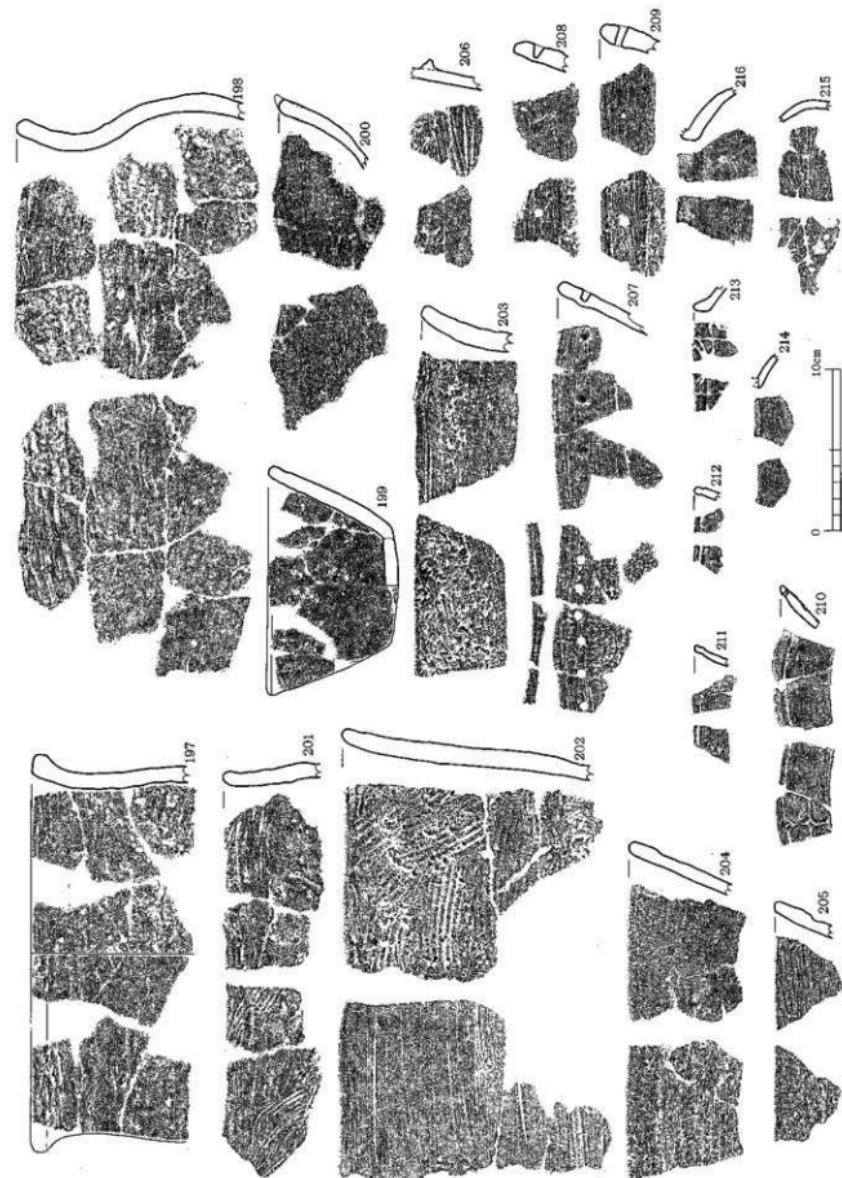
第19図 包含層出土土器実測図(9)



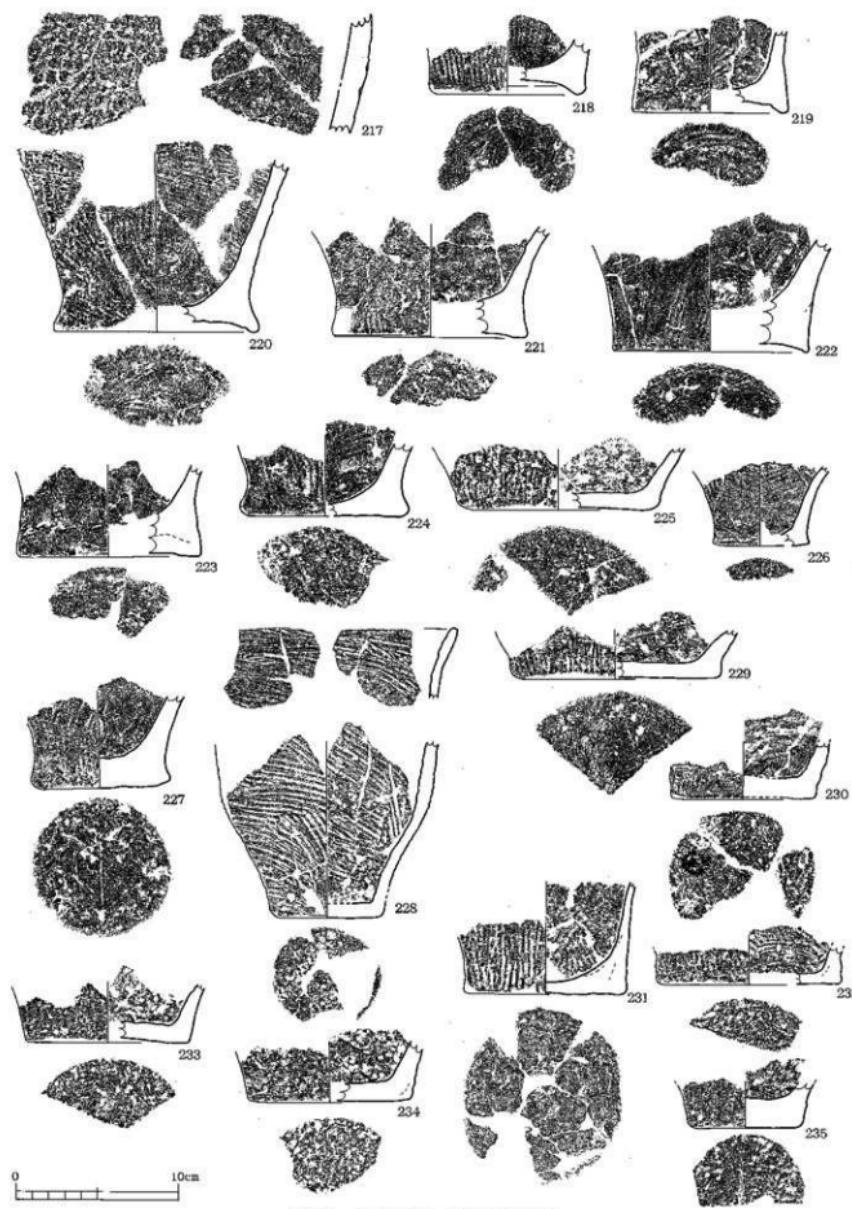
第20図 包含層出土土器実測図(10)

第21圖 包含層出土上器尖削圖(11)

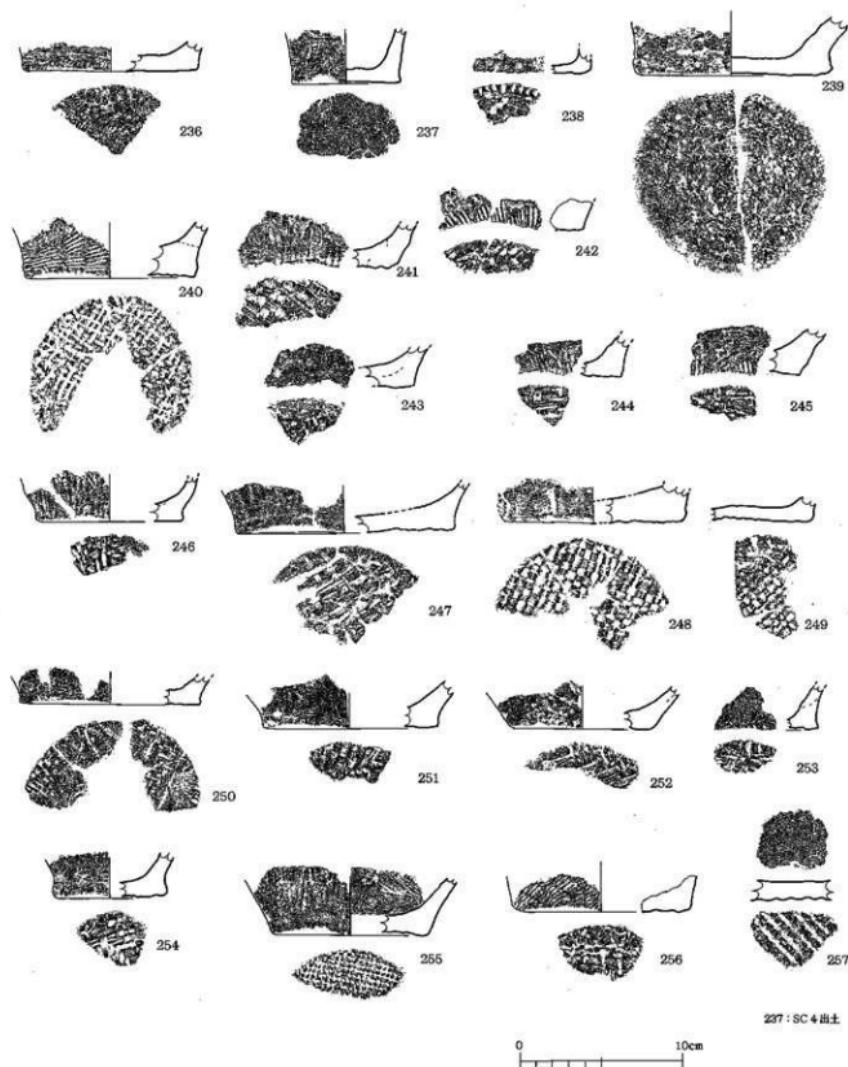




第22图 包含磨山土器实测图(12)



第23図 包含層出土土器実測図(13)



第24図 S C 4、包含層出土土器実測図(14)

第2表 土器觀察表(1)

番号	出土場所	出土品	文様及び調査				胎土	備考	
			口唇部	外	内	外			
1	S A 1	-	竹筋による逆鉛印点文、ナデ	ナデ	にぶい黄澄	にぶい黄澄	φ44mm. 6.2kg		
5	S A 2	-	貝殻条模文 棒状工具による円形刻文、貝殻条模文ナデ	貝殻条模文ナデ	黄澄	にぶい黄澄	φ3底板、φ9.1、底面、微細黑色透 明光沢		
6	S A 2	-	貝殻条模による四点文、田字文、ナデ	貝殻条模による条痕ナデ	にぶい橙	にぶい黄澄	φ3底、φ2.9底、φ2.8、φ1.5 長白、微細黑色透明ガラス質光沢		
7	S A 2	-	指紋による 四点文	貝殻条模条文 ナデ	にぶい黄	にぶい黄澄	φ2.5底、φ2.5底、φ2.5底、φ 2.5底石、φ2.5石英	(外)スス付着	
8	S A 2	-	沈澱文、ナデ	貝殻条模ナデ	にぶい黄澄、 にぶい黄	にぶい黄澄	φ2.5底、φ2.5底、φ2.5底、φ 2.5底石、φ2.5石英		
17	S A 4	-	沈澱文、貝殻条模文	貝殻条模文	相赤	相赤	φ1.8底、微細黑色透 明光沢	(外)スス付着	
18	S A 4	-	貝殻条模跡文、沈澱文	貝殻条模ナデ	黒褐	にぶい黄澄	φ1.5以下の石英、長石を含む		
19	S A 4	-	ナデ		オリーブ	にぶい橙	φ2の灰、白色、φ1の長石を少 し含む		
20	S A 4	-	鉛、側方向の貝殻条模文	横方向の貝殻条模文	赤褐	明赤	φ4.5横、φ1鉛、微細黑色透 明		
21	S A 4	-	ナデ	ナデ	にぶい橙	明赤	φ1白、φ1底、φ0.50長石、石英 を少し含む		
22	S A 4	-	横状工具によ る斜目	沈澱文、模ナデ	ナデ	西黄	にぶい黄澄	φ2の白の粒、長石を含む	
23	S A 4	-	横状工具によ る斜目	横凹凸型文	横凹凸型文、ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	φ4鉛、φ3の白色の粒、長石を含 む	
28	S A 5	-	ナデ、田字文	ナデ	にぶい黄澄	にぶい黄澄	φ1鉛、φ2黄澄、φ3鉛、微細透 明光沢		
29	S A 5	-	ナデ、田字文	ナデ	にぶい黄澄	にぶい黄澄	φ3鉛、φ2黄澄、φ3鉛、微細透 明光沢		
30	S A 5	-	ナデ、田字模文	ナデ	にぶい黄澄	にぶい黄澄	φ3.5、φ2黄澄、φ4鉛、微細透 明光沢		
31	S A 5	-	ナデ、枕輪	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	φ1の長石、石英を含む、φ1底		
32	S A 5	-	波頭部に唐 突による四 点文、一部に 粗細線文	波頭部工具による四点文、 ナデ	貝殻条模ナデ	灰オリーブ	記入なし	φ4鉛、φ4白、φ4鉛	推定口径 31.9cm 基高 37.1cm
33	S C 3	-	ヘラ後工具によ る波頭文、左 右方向のミミガキ	ヘラ後工具による波頭文、 左右方向のミミガキ	淡黄	灰黄	φ2.5白半透明、φ2.5黒	推定口径 31.3cm	
34	S C 3	-	ヘラ後工具によ る波頭文、ナ ミガキ方面不明	ヘラ後工具のヘラミガキ、ヘラミ ガキ方面不明	にぶい橙	にぶい黄澄	微細白半透明、微細黑色透 明光沢		
35	S C 3	-	ヘラ状T工具によ る波頭文、ナ ミガキ方面不明	ヘラ状T工具のヘラミガキ、ヘラミ ガキ方面不明	にぶい褐	にぶい褐	微細白半透明、微細黑色透 明光沢		
36	S C 4	-	棒状工具によ る波頭文、わざ かにミミガキ残		にぶい黄澄	黄澄	微細白半透明		
37	J・2 b層	外端に胡目 横、斜方向の貝殻条模文	ナデ	にぶい黄澄	にぶい黄澄	にぶい黄澄	φ1乳白、φ1黒光沢、微細黒	推定口径 31.3cm	
38	J・5 VI	外端に胡目 横、斜方向の貝殻条模文	相ナデ	灰褐	褐	φ2白半透明、φ1鉛、微細赤			
39	J・1・8 w・t下	胡目	横、斜方向の貝殻条模文	相、横、斜方向の貝殻条模文	相、にぶい 橙	にぶい黄澄、 黄澄	φ3.5白・黒、φ1.5白、φ1.5白、 φ1.5白半透明、φ1黒光沢、φ1 黒半透明	推定口径 31.4cm	
40	J・2 b層	外端に胡目 横、斜方向の貝殻条模文	横方向の貝殻条模文	相灰	にぶい 黄澄	黄澄	φ2鉛、φ2白、φ2白、φ2半透明		
41	J・3 b層	胡目	横、斜方向の貝殻条模文	横方向の貝殻条模文	淡黃	にぶい 黄澄	φ3鉛、φ1半透明、微細黒	推定口径 31.6cm	
42	A区 a'	外端に胡目 横、斜方向の貝殻条模文	相、斜方向の貝殻条模文	相、にぶい 黄澄	にぶい黄澄	にぶい黄澄、 にぶい黄澄	φ1浅黄、微細黑色透 明光沢、微細黒、微細赤、微細 黒		
43	J・4 VI a	外端に胡目 横、斜方向の貝殻条模文	貝殻条模文ナデ	貝殻条模文相	淡黄	淡黄	φ2.5半透明、φ2.5	(外)スス付着	
44	I・3 b層	外端に胡目 横、斜方向の貝殻条模文	横方向の貝殻条模文	暗灰	にぶい 黄澄	にぶい黄澄、 黄澄	微細黒、微細黒、微細透 明光沢		
45	J・2 b層	外端に胡目 横、斜方向の貝殻条模文	ナデ	黑褐	灰褐	にぶい 黄澄	φ1黒、微細黒		
46	A区 a'	胡目	横、斜方向の貝殻条模文、 落、落、斜方向の貝殻条模文	横方向の貝殻条模文	褐灰、にぶい 黄澄	にぶい 黄澄	φ1青赤、φ1黒、φ1灰白、 微細透明光沢		

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地點	出土層	文様及び調査			色調	胎土	備考
			口部等	外	内			
47	I・3	b層	外端に棒状工具による削り目 横、斜方向の貝殻条痕文、穿孔	横、斜方向のケズリ?、穿孔	縦、にぶい黄 青	灰黄褐	φ1.5黒尾、φ1.5白、φ1.5白色透明、 微細黒斑光沢	
48	A区	a'	削目	横、斜方向の貝殻条痕文	横、斜方向の貝殻条痕文	にぶい黄 青	にぶい黄 青	φ3mm、φ2.5灰透明、φ1.5灰白、 φ1.5黑色透明
49	S C 4	-	外端に削り目 縦、斜方向の貝殻条痕文	斜、横方向の貝殻条痕文	黒褐	にぶい黄 青	φ2.5白	
50	A区	a'	外端に棒状工具による削り目 縦、斜方向の貝殻条痕文	貝殻条痕文	にぶい黄 青	淡黄	φ1黒尾光沢、φ1灰子透明	
51	T 2.5	b下層	外端に削り目 横方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	淡黄	にぶい黄	微細黒斑、微細褐	
52	A区	-	外端に削り目 横、斜方向の条痕文、ナデ	横方向の貝殻条痕文	縦、にぶい黄 青	にぶい黄 青	φ1.5白、微細黒斑、微細白半透明	
53	H・4	b層	外端に削り目 斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	青	にぶい青	φ1.5青、微細白半透明光沢	
54	A区	a'	外端に棒状工具による削り目 横、斜方向の貝殻条痕文	ナデ	黒褐	にぶい青	φ1白	
55	J・2	b層	外端に削り目 横、斜方向の貝殻条痕文、穿孔	ナデ	にぶい青	にぶい黄 青	φ1.5白、φ1.5白色透明、微細褐	
56	H・4	b層	丁寧なナデ 微細粒文、貝殻条痕文、丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄 青	にぶい青	φ5.5灰、φ1.5灰白、φ1.5黑色透明光沢、 φ1.5白色透明	
57	A区	III	能登粒文、貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	にぶい青	褐灰青	微細黒光沢、微細褐	
58	J・2	b層	横方向の貝殻条痕文、縦、斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文ナデ	にぶい黄 青	にぶい青	φ2.5灰、φ1.5青、φ1.5白色透明、φ1 黒尾光沢、φ1白不透明	
59	I・5	VI	浅い垂直線、横、斜方向の深 い貝殻条痕文	横、や斜方向の貝殻条痕文 部分に横ナデ	にぶい青	灰黃褐、褐灰	φ6.5灰、φ1.5白、φ1.5白色透明、 φ1黑色透明光沢、φ1白色透明	
60	J・2	b層	腹方向の貝殻条痕文、3重 の深い平行線、横、斜方向の深 い貝殻条痕文	腹方向のケズリ	にぶい青	にぶい青	φ2灰白、φ2.5灰、φ2.5白、φ1.5白 透明	
61	A区	a'	不定方向の貝殻条痕文	不定方向の貝殻条痕文	にぶい黄 青	暗灰青	φ2.5灰、φ1白不透明、φ1不 透明、微細黒斑光沢	
62	J・2	b層	腹方向の貝殻条痕文、ナデ	貝殻条痕文ナデ	にぶい青褐	にぶい青	φ2灰、φ1白	
63	H・3	b層	ナデ剥落後横方向の貝殻条 痕文	ナデ	にぶい青褐	青	φ1.5青、φ1.5黑色半透明、φ 1.5灰、φ1白、φ1黑色透明	
64	A区	IV	横、斜方向の深い貝殻条痕文	斜方向の深い貝殻条痕文	縦、にぶい青 青	褐灰	φ1白半透明、微細白不透明	
65	J・2	b	縦方向の貝殻条痕文、開口 を示すナデ	横方向のナデ、貝殻条痕文	にぶい青 青	褐灰	φ1白、φ1.5黑色半透明、φ1.5青	
66	H・3	b	縦方向の貝殻条痕後横方 向の貝殻条痕	縦方向の条痕、一部横方 向のナデ	にぶい青 青	にぶい青 青	微細黒光沢、微細白半透明光沢、微 細白不透明、微細黒斑、豪華絶 逸	(外)スス付着
67	A区	IV	折方向に貝殻条痕文	横、斜方向の貝殻条痕文	にぶい青 青	褐灰	φ6灰、φ4青、φ2灰白、φ1黑色 透明	
68	A区	IV'	縦、横方向の貝殻条痕後横、 斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕、一部ナデ	にぶい青 青	灰灰	φ1灰、φ1灰白、φ1白色透明、φ 1黑色透明光沢、φ1黑色透明	
69	I・4	VI	縦、斜方向のナデ後縦、横方 向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕、横ナデ	にぶい青 青	黄灰	φ5灰、φ1.5灰白、φ1.5白色透明、φ 1黑色透明光沢、φ1黑色透明	
70	-	b層	横、斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	黒褐、にぶい 青	にぶい青 青	豪華布紋、豪華灰白	
71	I・2	b層	ナデ剥落、剥離をおく横方 向の貝殻条痕文	ナデ	横、開口	板、褐灰	φ5黄色、φ4灰白不透明、φ1灰白、 φ3灰、φ1黑色光沢	
72	A区	a'	斜方向の貝殻条痕後横方 向の貝殻条痕文	斜方向の貝殻条痕文	褐灰青	にぶい黄 青	豪華白半透明、豪華灰青、微細 白透明	(外)スス付着
73	I・4	b層	ナデ調整後、斜方向に貝殻 条、斜方向の貝殻条痕文	にぶい青 青	にぶい青 青	豪華白色透明、豪華白不透明	(外)スス付着	
74	A区	III'	横、斜方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	にぶい青 青	にぶい青 青	φ3青~赤褐、φ1.5青	
75	A区	IV'	ナデの後3本並列の工具に よる距離3cmの凹跡文	斜方向の貝殻条痕文	淡黄	にぶい青 青	φ1.5白、φ1.5白半透明	76と同一個体
76	A区	IV'	ナデの後3本並列の工具に よる距離3cmの凹跡文	斜方向の貝殻条痕文	にぶい青 青	にぶい青 青	φ1.5白、φ1.5白半透明	
77	J・2	6層	波状平行線文、垂下する帯形 文、貝殻条痕文	腹側面貝殻条痕文	明黃褐	にぶい黄 青	φ2.5灰褐、φ1白、φ1半透明	(外)黒斑
78	I・3	b層	沈没文、葉状葉文、ナデ調整	ナデ	にぶい青 青	にぶい黄 青	φ2.5灰褐、φ2.5白半透明	(外)スス付着
79	I・4	-	沈没文、ナデ	ナデ	にぶい青 青	にぶい黄 青	にぶい黄 青	(外)スス付着
80	I・3	b層	沈没文、ナデ	ナデ、主に横ナデ	淡黄	淡黄	φ6白、φ1.5黑色透明光沢、φ1.5半透明	
81	A	-	模様文、ナデ	ナデ	にぶい青 青	淡黄	φ5系、φ1.5白半透明、φ1.5青	推定径 30.1cm
82	H・3	b層	模様文、豪華模様文、ナデ	ナデ	にぶい青 青	にぶい青 青	φ2黑色光沢、φ2黑色透明	(外)スス付着

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	文様及び病害				色調	胎土	備考	
			外	内	外	内				
83	A区	IV	刺突連点文	刺突連点文、粗沈縦文、ナデ	刺突連点文、粗沈縦文、ナデ	にぶい檻	にぶい檻	黒細白		
84	A区	a	刺突連点文	刺突連点文、粗沈縦文、ナデ	刺突連点文、粗沈縦文、ナデ	にぶい檻	檻	φ1灰白、φ1透明光沢、φ1墨		
85	-	a層	刺突連点文	刺突連点文、粗沈縦文、ナデ	羽状縦文、粗沈縦文、ナデ	にぶい檻	にぶい黄橙	φ0.5白、φ0.5墨光沢		
86	A区	IV	羽状文縦文	羽状文縦文、粗沈縦文、ナデ	羽状縦文、粗沈縦文、ナデ	西灰	にぶい黄橙	φ1透明光沢、φ1灰白	(外)スス付着	
87	-	b層	羽状連点文、粗沈縦文、ナデ	羽状連点文、粗沈縦文、ナデ	羽状縦文、粗沈縦文、ナデ	にぶい黄檻	明暗闇	φ2灰黒、黒細闇		
88	I - 4	b層	羽沈縦文、羽次文縦文、ナデ	羽沈縦文、羽次文縦文、ナデ	羽沈縦文、粗沈縦文、ナデ	浅黄	檻	φ1墨脱光沢、φ1半透明		
89	G・5	-	刺目	短沈縦文、羽次文縦文、ナデ	短沈縦文、ナデ	にぶい檻	にぶい黄闇	φ2灰白、黒細闇		
90	I・2・6	-	刺突連点文	刺突連点文、綱代文、ナデ	刺突縦文、ナデ	にぶい檻	檻	φ1白半透明、φ1墨脱光沢		
91	A区	IV	綱目	短沈縦点文、横区画横縦文、沈縦文、ナデ	短沈縦点文、沈縦文、ナデ	黄灰	黄灰	φ1透明光沢、φ1墨脱光沢、φ1灰白	口唇部・外周にスス付着	
92	-	b層	刺目	直文縦文、横区画横縦文、羽沈縦文、ナデ	直文縦文、ナデ	浅黄	暗灰黄	φ1白、φ1透明光沢		
93	A	-	綱代文	綱代文、ナデ	ナデ	にぶい檻	明暗闇	φ2透明、φ2透明、φ2墨脱光沢、φ1灰、φ1黄灰、φ1檻	(外)スス付着 90と同一個体	
94	A	-	綱代文	綱代文、ナデ	ナデ	にぶい檻	にぶい檻	φ1.5白半透明、φ1.5墨脱光沢	(外)スス付着 90と同一個体	
95	G・5	C層	羽沈縦文	羽沈縦文、ナデ	貝殻?条剥の剥ナデ	灰灰、暗灰	灰灰、暗灰	φ1白、φ1墨脱光沢、φ1檻	(外)スス付着	
96	J・2	b'	沈縦文	沈縦文、ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	φ0.5白透明		
97	A区	III	綱目	沈縦文、ナデ	沈縦文、ナデ	黒縦	にぶい黄橙	φ1無色透明、φ1墨、φ1半透明	(外)スス付着	
98	B	-	綱目	短沈縦文、ナデ	短沈縦文、ナデ	檻	檻	φ1墨灰、φ1墨脱光沢、φ1無色透明		
99	H・4	b層	刺方向の沈縦文	刺方向の沈縦文、ナデ	ナデ	にぶい黄檻、 海灰	にぶい黄檻、 海灰	φ2墨縦、φ2透明、φ1浅黄檻		
100	I・1	-	刺目	彫・刺方向の沈縦文、ナデ	彫方向の沈縦文、ナデ	にぶい黄物	にぶい黄物	φ0.5白、φ1墨、φ1ガラス質透明		
101	-	IV	刺目	刺方向の沈縦文、ナデ	刺街連点文、沈縦文、ナデ	にぶい黄檻	にぶい黄檻	φ1白		
103	A区	IV	短沈縦文、山形文	短沈縦文、山形文、ナデ	横方向の極沈縦文、ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	φ1.5白半透明、φ1.5墨脱光沢	103と同一個体	
104	A区	IV	方形区画横縦文、刺突連点文、ナデ	方形区画横縦文、刺突連点文、ナデ	灰	にぶい黄	灰	φ0.5白、φ1.5墨、φ1.5墨脱光沢、 φ1墨透明		
105	J・3	VII	方形区画横縦文、ナデ	条板文	にぶい黄、 黑縦	にぶい黄、 黑縦	φ2墨縦、φ1半透明			
106	H・a/2	-	短沈縦文、山形文、ナデ	短沈縦文、ナデ	にぶい黄縦、 海灰	にぶい黄縦、 海灰	φ1.5～乳白、φ1赤褐、黒細墨光沢			
107	H・6	VI	沈縦文、羽状沈縦文、ナデ	沈縦文、ナデ	灰	浅黄	φ2..白			
108	H・3	b下層	短沈縦文、山形文、ナデ	短沈縦文、ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	φ1白半透明、φ1墨脱光沢	103と同一個体		
109	A区	IV	短沈縦文、方形区画横縦文、刺突連点文、ナデ	短沈縦文、刺突連点文、ナデ	にぶい黄、 海灰	にぶい黄、 海灰	φ0.5白、φ1白半透明、黒細墨 縦			
110	I・3	b区	方形区画横縦文、刺突連点文、ナデ	ナデ	にぶい黄縦、 海灰	にぶい黄縦、 海灰	φ4白、φ1黄檻			
111	層軸	-	方解石縦文、沈縦文、ナデ	ナデ	灰	にぶい黄	φ4.5白、φ4.5墨、φ1墨脱光沢、 φ2透明			
112	A区	a'	方解石縦文、沈縦文、ナデ	ナデ	にぶい檻	にぶい檻	φ3透明、φ1墨、黒細縦			
113	A	-	鶴鉢縦文、複合横縦文、ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄檻	φ5墨、φ5墨、φ5白、φ2墨脱光沢			
114	A区	IV	横区画横縦文、複合横縦文、ナデ	ナデ	海灰、にぶい黄	海灰、にぶい黄	φ0.5白、φ2墨、 φ2墨脱光沢			
115	-	a層	横区画沈縦文、複合横縦文、ナデ	ナデ	オリーブ	にぶい黄檻	φ3.5白、φ3.5白、φ2白、φ2墨、 φ2墨脱光沢			
116	A区	IV	羽状沈縦文、ナデ	刺方向の強いナデ	にぶい檻	にぶい黄檻	φ1.5無色透明、φ1.5白不透明、 φ1.5灰白、φ1白、φ1墨脱光沢、 φ1.5～乳透明	119と同一個体?		
117	-	a層	複合横縦文、ナデ	ナデ	オリーブ	にぶい黄檻	φ2白、φ2墨脱光沢、φ2墨脱光沢、 φ2透明			
118	A	-	複合横縦文、ナデ	ナデ	浅黄、暗灰	浅黄、暗灰	φ1白、φ1墨脱光沢、φ1黄、 φ1墨脱光沢			
119	-	C層	伏枝縦文、ナデ	ナデ	にぶい檻	にぶい黄檻	φ2白、φ2墨半透明	116と同一個体?		
120	A区	IV	伏枝縦文、ナデ、穿孔	ナデ	にぶい檻	にぶい黄檻	φ2無色透明、φ1.5墨、 φ1.5墨脱光沢			
121	I・3	b下層	複合側面文?、短沈縦文、穿孔	ナデ	ヘラ工具による長いナデ	にぶい檻	暗灰黄	φ2.5白、φ2.5墨、φ1.5透明光沢、 φ1.5墨脱光沢		
122	I・4	b層	複合側面文、短沈縦文	ナデ	にぶい檻	にぶい檻	φ3..白、φ3.5墨、φ3.5白、φ 1.5透明光沢			

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地點	出土層	文様及び調査				色調	胎土	備考	
			口部部	外	内	外				
123	H・4	b層	羽状文捺印、ナデ	ナデ	淡黄	浅黄	φ28.φ22cm.φ2cm	(外)スス付着		
124	I・3	b F層	短波紋、ナデ	粗いナデ	穀	灰褐	φ3.5cm.淡褐色、微細小孔			
125	H・3	b層	羽状文捺印、ナデ	ナデ	にぶい黄緑	灰白	φ1.5cm.淡褐色、φ1.8半透明			
126	I・3	b層	短波紋文	ナデ	にぶい褐	灰白	φ2.0.φ2.5cm.φ2半透明			
127	A区	IV	複合斜線文、羽状文捺印、ナデ	ナデ	無	にぶい黄緑	微細白、微細黑、微細網			
128	A	—	羽状文捺印、ナデ	ナデ	灰、にぶい黄緑	灰	φ2.0.φ2.5cm.φ2半透明光沢			
129	A区	IV	短波紋文、ナデ	ナデ	にぶい黄緑、 穀	暗灰	φ1.8cm.φ1.8cm.φ2半透明、φ4 半透明光沢、φ2.5cm	(内)炭化物付着		
130	A区	IV	羽状文捺印、ナデ	ナデ	淡黄	淡黄、暗灰	φ1灰白、φ1黑、φ1墨脱光沢			
131	J・2	b層	肥厚する口部斜線文捺印上に 斜線文、貝殻条痕	ナデ	にぶい黄緑	灰黄	φ1.8cm.φ2半透明、φ3墨脱光沢	(外)スス付着		
132	J・3	b'	肥厚する口部斜線文捺印上に 斜線文、貝殻条痕	貝殻条痕後一部ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	φ2.0半透明、φ2墨脱光沢	(外)スス付着		
133	J	D層	肥厚する口部斜線文捺印上に 複合斜線文、貝殻条痕	貝殻条痕後一部ナデ	にぶい褐	明赤褐	φ1.0.φ1半透明	(外)スス付着		
134	A区	IV	斜線文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄緑	灰黄	φ1.0.φ1半透明			
135	A区	III	肥厚する口部斜線文捺印上に 斜線文、ナデ、貝殻条痕	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	φ3.5φ2半透明、φ3.5φ2.5cm			
136	A区	IV	肥厚する口部斜線文捺印上に 斜線文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい穀	にぶい穀	φ1.5φ2半透明、φ1.5cm			
137	A区	IV	肥厚する口部斜線文捺印上に斜線 文捺印、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後一部ナデ	にぶい穀	穀	φ2半透明、φ2墨脱光沢			
138	I・3	b層	若干肥厚する口部斜線文捺印上に斜線 文捺印、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	φ3白半透明	139と同一個体		
139	I・2	b層	斜線文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄緑	黑褐	φ2.0~3.0.φ1半透明	(外)スス付着		
140	A区	IV	貝殻条痕文	闊縫文、ナデ	ナデ	にぶい褐	暗灰	φ2.0.φ2半透明		
141	H・0/2	—	斜線文、凹点文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	淡黄	淡黄	φ2.0.φ2墨脱光沢、φ1.5半透明			
142	H・4	b層	織目ネクタイ 状況	貝殻条痕後粗いナデ	にぶい黄緑	灰黄	φ3.5半透明、φ2墨脱光沢、φ2半 透明、φ1.5cm.φ1.5cm.φ1.5cm	(外)スス付着		
143	H・4	IV	織目による 刻目	肥厚する口部斜線文捺印上に斜線 文、その中に凹点文、貝殻条痕後 粗いナデ	ナデ、斜拌され	にぶい黄緑	にぶい黄緑	φ3墨脱光沢、φ2墨脱光沢、φ3 灰白、φ3cm.φ2.5cm.φ2.5cm.φ2.5cm φ2cm.φ1.5cm		
144	A	—	凹点文、入り組み文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	灰黄	黄灰	φ4.0cm.φ4.0cm.斜拌され不透 明、斜拌白色透明、斜拌黑墨光沢	確定 14.5cm		
145	A	—	斜拌による 刻目	竹管状工具による凹点文、凹 点文捺印、凹点文、ナデ	四凹による盛り上がり、ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	φ2.5cm.φ1.5cm.φ1.5cm.φ2.5cm φ2.5cm.φ1.5cm.φ2.5cm.φ1.5cm	(外)スス付着板	
146	—	b層	竹管状工具による2段の凹 点文捺印、凹点文、ナデ	四凹による盛り上がり、ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	φ3.5cm.φ2.5cm.φ2.5cm.φ2.5cm	(外)スス付着		
147	A区	IV	貝殻条痕文	竹管状工具による凹点文、凹 点文捺印、凹点文、ナデ	四凹による盛り上がり、ナデ	にぶい穀	にぶい穀	φ2.0.φ2墨脱光沢、微細半透明	14.8と同一個体	
148	A区	IV	貝殻条痕文	竹管状工具による凹点文、凹 点文捺印、凹点文、ナデ	四凹による盛り上がり、ナデ	穀	穀	φ1.5cm.φ1.5半透明、微細黑	(外)スス付着	
149	A	—	織状工具による凹点文、凹 点文捺印、凹点文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	穀	穀	φ2.0半透明、φ2.0.φ2墨脱光 沢	(外)スス付着		
150	A区	IV	竹管状工具による2段の凹点 文捺印、凹点文	四凹による盛り上がり、貝殻 条痕ナデ	穀	穀	φ3.5cm.φ2.5cm.φ2.5cm.φ2.5cm	(外)スス付着		
151	A区	IV	斜拌による 刻目	竹管状工具による2段の凹点 文捺印、凹点文、ナデ	四凹による盛り上がり、貝殻 条痕ナデ	にぶい穀	にぶい穀	φ2.0cm.φ2.0cm.φ2.0cm.微細 微細半透明	(外)スス付着	
152	A区	b層	貝殻条痕文	竹管状工具による3段の凹 点文捺印、凹点文、ナデ	四凹による盛り上がり、貝殻 条痕ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	φ2.0.φ2.5cm.φ2.5cm.φ2.5cm	(外)スス付着	
153	A区	III	波瀾部による刻 目	竹管状工具による3段の凹 点文捺印、凹点文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	φ4.0cm.φ1.5cm.φ1.5cm.φ1.5cm	(外)スス付着	
154	A区	IV	斜拌による 刻目	竹管状工具による2段から3 段の凹点文捺印、凹点文、ナデ	四凹による盛り上がり、ナデ	穀	穀	φ2.0半透明、φ2墨脱光沢、φ2.5cm		
155	H・6	VII	斜拌による 刻目	竹管状工具による3段の凹点 文捺印、凹点文、ナデ	ナデ	にぶい穀	にぶい黄緑	φ6深灰、φ2.5cm.φ2.5cm.φ2.5cm	確定口径 27.0cm (外)スス付着	
156	A区	a'	斜拌工具による2段の凹点 文捺印、凹点文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい穀	にぶい黄緑	φ2.0半透明、φ2.0cm.φ2.0cm			
157	A区	a'	逆頂部による斜 拌工具による凹点 文捺印、凹点文、ナデ	ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	φ2.0半透明、φ2.0cm.φ2.0cm			

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地點	出土層	文様及び調査		色調	胎土	備考		
			外	内					
158	A	-	棒状工具による圓文・軋突文、垂下する縦帯、ナデ	目撲条痕後ナデ	橙	に赤い黄、橙	φ4系、φ4底、φ4底、φ4底、鉄錆光沢、黒錆無色透明	(外)スス付着	
159	A区	IV	波渦形に圓文、斜斜条痕文	棒状工具による圓文・軋突文、垂下する縦帯、ナデ	四時による盛り上がり、ナデ	明赤馬	橙	φ2黒錆光沢、φ2白	(外)スス付着、(内)黒度
160	G 5 1	-	棒状工具による圓文・軋突文、垂下する縦帯上に斜斜文	棒状工具による圓文・軋突文、垂下する縦帯上に斜斜文、ナデ	ナデ	に赤い黄橙	φ2赤黄緑、φ2黒錆光沢、φ2黒錆透明光沢、φ2.5系	(外)スス付着	
161	A区	IV	垂下する縦帯上に棒状工具による斜斜文	ナデ	に赤い褐	に赤い黄橙	φ4.5に赤い黄緑、φ4に赤い黄緑、φ3.5黄緑、φ2.5透明光沢、φ2.5系、φ1.5系、黒錆無色透明	(口唇部・外)スス付着	
162	I + 4	IV	波頭部に竹葉状工具による斜斜文	棒状工具による圓文・軋突文、垂下する縦帯上に斜斜文	四時による盛り上がり、ナデ	に赤い黄橙	橙	φ2黄緑、φ3底、φ3底、鉄錆透明光沢	(外)スス付着
163			波頭部から垂下する縦帯文	圓文、ナデ	粗いナデ	に赤い褐	に赤い黄橙	φ2.5無色透明、φ2.5黒錆光沢	
164	G + 4	A	入り墨聚び文・拂走四線文、斜斜条痕後ナデ	横方向のナデ	に赤い黄橙	に赤い黄緑、灰青色	φ1黑、φ1乳白、φ1黒、黒錆黒透光沢		
165	A	-	圓文、ナデ	ナデ	に赤い黄橙	浅黃	φ1黒、φ1乳白、φ1黒、黒錆黒透光沢		
166	A区	IV	横走四線文、入り墨聚び文、ナデ	目撲条痕	に赤い黄緑	に赤い黄緑	φ2黒錆光沢、φ2黄、φ2E、φ2白	(外)スス付着	
167	A区	IV	指面による周囲の周波状突起文	ナデ	目撲条痕後ナデ	に赤い黄緑	φ2白、φ2中黄、φ1黒錆光沢	(外)スス付着	
168	A区	IV	貝殻条痕文	指面による周囲のある周波状突起文、圓文、ナデ	目撲条痕ナデ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	φ3白不透明、φ3底、φ3底、φ3半透明光沢、φ3黒錆光沢	(外)スス付着
169	B	-	貝殻条痕上に斜状工具による斜引文、圓文、ナデ	ナデ	橙	橙	φ2.5系、φ2.5系、φ2白半透明、φ2黒錆光沢、φ2白		
170	A区	IV	貝殻条痕上に斜状工具による圓文、四線文、ナデ	ナデ	に赤い褐	に赤い黄橙	φ2.5系、φ2.5系、黒錆半透明、黒錆黒透光		
171	A区	IV'	棒状工具による右側斜線文、斜突文、肥手、貝殻条痕文	貝殻条痕ナデ	に赤い褐	橙	黒錆透明、鉄錆黒光沢、黒錆黄緑、黒錆透光	(外)スス付着	
172	A区	III'	貝殻条痕斜文、波瀬文、斜突文、肥手、貝殻条痕文	貝殻条痕ナデ	明赤、褐灰	に赤い褐	φ4白褐、φ2白、φ1.5黒錆光沢、φ1乳白	(外)スス付着	
173	A	-	貝殻条痕斜文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤	明黄褐、明赤	φ2.5純光沢、φ1乳白、黒錆無色透明	(外)スス付着	
174	A	-	波瀬文、波瀬斜突文、斜突文、平行引文、ナデ	貝殻条痕ナデ	に赤い黄緑	に赤い黄緑	φ3系、φ3白半透明、φ3黒錆光沢		
175	A区	III'	口唇部に平行する波瀬文	貝殻条痕後一部ナデ	に赤い褐	に赤い褐	φ3系、φ3底	(外)スス付着、(内)炭化物付着	
176	I + 4	IV	貝殻条痕斜文、波瀬三角形突起文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕ナデ	に赤い黄緑	に赤い赤	φ1白光沢、φ1乳、φ1黄	(外)スス付着	
177	A + h 1	-	貝殻条痕上に波瀬斜突文、貝殻条痕斜文、ナデ	貝殻条痕ナデ	橙、に赤い褐	に赤い黄緑	φ3.5系、φ3.5白、φ2白半透明、φ2黒透光	推定口径 30.8cm	
178	A区	III'	斜面三角形突起文、貝殻条痕斜文、ナデ	貝殻条痕ナデ	明赤	に赤い黄緑	φ1白褐、φ1黒錆光沢、黒錆無色透明		
179	H - 1	III'	斜面三角形突起文、貝殻条痕斜文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	に赤い褐	橙	φ4黄褐、φ1乳、φ1白、φ1白光沢	推定口径 16.8cm	
180	A区	IV	突起文、竹管工具による周波状突起文、貝殻条痕斜文、貝殻条痕後一部ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	φ4系、φ1黒錆光沢、φ1白半透明	推定口径 25.6cm	
181	A区	IV	斜面三角形突起文、貝殻条痕斜文、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	φ1黄褐、φ1乳、黒錆透明光沢	(外)スス付着	
182	A	-	斜面三角形突起文、貝殻条痕斜文、存乳、貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙	に赤い黄緑	φ3赤、φ2中透明、黒錆灰白~黒	推定口径 22.2cm	
183	A	-	斜面三角形突起文、波瀬文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	φ3.5白透光、φ3.5系		
184	J + 4	VI	斜面三角形突起文、ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐	φ3系、φ3底、φ1白半透明、黒錆無色透明	(外)スス付着	
185	H - 1	IV'	斜面三角形突起文、ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	步舞	φ1黒錆光沢、φ1白半透明、φ1白不透明	推定口径 10.0cm	
186	H - 1 3	-	斜面三角形突起文、ナデ	貝殻条痕後一部ナデ	浅黃	浅黃	φ2.5透光、φ2.5光沢、φ2系、φ2系		
187	A区	IV'	横ネック状突起、斜突文	ナデ	ナデ	に赤い褐	黒錆金色光沢、黒錆白半透明、黒錆透光、黒錆灰		
188	A	-	横縫隙斜突文、貝殻条痕文	貝殻条痕後ナデ	橙	に赤い褐	φ2赤、φ2黄、黒錆白光沢	(外)スス付着	
189	A区	IV'	貼付突起	斜面三角形突起文、ナデ	ナデ	に赤い褐	φ3系、φ3底、φ3黒錆光沢	(口唇部・外)スス付着	

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	口部	文様及び調査		色調	胎土	備考
				外	内			
190	I・4	IV		新潟三角形尖底文、貝殻模様 刺突文、貝殻条痕後一部ナデ	貝殻条痕文	橙	橙	φ1黄灰、φ1灰、微透明、斑駁 斑光沢
191	B・2・4	IV		貝殻条痕後一部ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙	橙	φ7系(台片)、φ1黒褐色光沢、φ1 白
192	H・1	■		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	明赤褐	明赤褐	φ0.5白半透明、φ0.5黒褐色光沢
193	A区	IV		浅い貝殻条痕後一部ナデ	浅い貝殻条痕後一部ナデ	にぶい黄灰	にぶい黄灰	φ3系、φ3灰
194	H・1	■		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄灰	にぶい赤褐、 浅黄	φ3系、φ3浅黄、φ3白半透明
195	A	-		ナデ	貝殻条痕文	橙	橙	φ3浅黄、φ1白半透明、φ1黒褐色光沢
196	A	-		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後一部ナデ	明赤褐	明赤褐	φ1白半透明、φ1白半透明
197	A	-		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい褐	橙	φ1灰、φ1黄灰、微透明青褐色 斑駁黑色光沢、斑駁白色透明
198	A区	IV	横ナデ	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙、褐灰	褐	φ3.5褐、φ3.5白、φ3.5灰、 φ3.5無色透明
199	I・3	b層		丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰褐	にぶい褐	φ4灰、φ4褐、φ2赤褐、φ2白灰、 φ1透明白光沢
200	J・5	VI	舌状張出部	丁寧なナデ	ナデ	橙	橙	微透明半透明、微透明、微透明 光沢、微透明
201	H・1	■		浅い貝殻条痕後ナデ	浅い貝殻条痕後ナデ	橙	明赤褐	φ1.5灰、φ1灰、微透明、 微透明半透明光沢
202	C・2・3	IV		貝殻模様文	貝殻模様文	にぶい黄灰	淡黄	φ2.5灰、φ2灰、微透明、微透明 光沢、微透明半透明光沢
203	C・2・1	-		工具による輕いナデ	工具によるナデ	オリーブ黒	灰灰	φ2灰、φ2灰、φ2白、微透明 引、微透明光沢
204	B・2・3	IV		厚底型、粗底工具によるナデ	ナデ	にぶい黄灰	にぶい黄灰	φ3系、φ3赤褐
205	D・2・1	IV	横ナデ	肥厚型、粗底工具によるナデ	貝殻条痕後ナデ	明黄褐	明黄褐	φ1.5黒褐色光沢、φ1.5白半透明 (口部厚・外)スス付着
206	A区	-		輪形台形次第帶文、ナデ	貝殻条痕文	黄灰	黄灰	φ2白半透明、φ2黒褐色光沢 (外)スス付着
207	C・2・3	IV		明文式(孔周文)、貝殻条痕後 ナデ	明文式による張り上がり、貝殻 条痕後ナデ	にぶい黄	にぶい黄	φ2黒褐色光沢、φ2白半透明
208	C・2・4	IV		肥厚型、刺突文、貝殻条痕文	ヘラナデ	にぶい黄灰	にぶい黄灰	φ2白半透明、φ2黒褐色光沢
209	F・1・8	VI		肥厚型、刺突文、貝殻条痕文	ヘラナデ	橙	橙	φ3白半透明、φ3黒褐色光沢、φ3 灰
210	B・2・2	IV		四文式(孔周文)、貝殻条痕後 ナデ	沈模文、ヘラ剥き	にぶい橙	にぶい橙	φ2白半透明、
211	F・2・4	-		沈模文、ヘラ剥き	ヘラ剥き	にぶい橙	にぶい橙	φ1.5白半透明
212	E区	VI/VII		ヘラ剥き	ヘラ剥き	褐灰	褐灰	微透明黒褐色光沢
213	E区	VI/VII		沈模文、ヘラ剥き	ヘラ剥き	褐灰	褐灰	微透明半透明
214	A区	-		ヘラ剥き	ヘラ剥き	にぶい黄灰	にぶい黄灰	微透明半透明
215	E区	VI/VII		ヘラ剥き	ヘラ剥き、ヘラナデ	オリーブ墨	灰灰	微透明半透明、微透明黒褐色光沢
216	D・2・2	IV		ナデ、工具によるナデ	ヘラ剥き	橙	にぶい赤褐	微透明半透明、微透明黒褐色光沢
217	B・2・4	IV		粗縫削(眞目狀)	ヘラナデ	橙	橙	φ2白半透明、φ2黒褐色光沢、φ2 灰
218	H・3	b層		貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい黄灰	にぶい黄灰	φ3黄灰、φ3灰、φ3白、微透明 透明、微透明黒褐色光沢
219	A区	■		ナデ	ナデ	淡黄灰	淡黄灰	φ2白、φ2褐、φ2透明、φ2 灰
220	A区	IV		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	浅黄灰	黄灰	φ2灰、φ2白、φ2褐、φ2透明、φ2 灰
221	A区	IV		貝殻・板状工具による剥離後 ナデ	ナデ	にぶい黄灰	にぶい黄灰	φ2灰、φ2黄灰、φ2褐、微透明 透明、微透明黒褐色光沢
222	A区	a'		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄灰、 褐灰	褐灰、灰灰	φ2.5白、φ2褐、φ2透明、φ2 黑褐色光沢
223	A区	IV		なで	ナデ	にぶい黄灰、 褐灰	褐灰、灰灰	φ4褐、φ3白、φ3透明、φ3 透明光沢
224	A区	IV		貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄灰	黄灰	φ3.5褐、φ2黄灰、φ2白、φ1 光沢、φ1半透明

第2表 土器観察表(1)

番号	出土地点	出土層	文様及び調整		色調		胎土	備考
			外	内	外	内		
225	A区	III'	貝地条痕ナデ	貝地条痕ナデ	棕	淡黃褐色	φ28mm. φ18cm	底径 12.3cm
226	-	IV	貝地条痕ナデ	貝地条痕ナデ	にぶい黄褐色	にぶい棕	φ27mm. φ28cm. φ2ガラス模半透明	底径 6.0cm
227	A区	a'	貝地条痕ナデ、木の葉模様	貝地条痕ナデ	にぶい棕	褐灰	φ15mm. φ1白半透明光沢、糊	底径 8.3cm
228	B・24	IV	貝地条痕文	貝地条痕文	極、にぶい黃褐色	にぶい赤褐色	φ35mm. φ3墨色透明、φ3墨色光沢	底径 7.1cm (外)スズ村若
229	A区	IV	貝地条痕ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ15mm. φ1黑褐色	底径 12.5cm
230	A区	III'	ナデ、裏面に竹管様工具による刺突文	ナデ	棕	にぶい棕	φ35mm. φ2白、φ2墨、微細透光光沢	底径 8.6cm
231	A区	IV'	貝地条痕一部ナデ	ナデ	明赤褐色、灰褐色	にぶい灰褐色	φ28mm. φ2半透明、φ2白	底径 11.1cm (外)スズ村若 (内)炭化物付着
232	H・1	III'	貝地条痕ナデ	貝地条痕ナデ	にぶい棕	にぶい黄褐色	φ55mm. φ3にぶい黄褐色	底径 11.0cm (外)スズ村若 底径 10.5cm 脊部に白色付着
233	A	-	板状工具によるナデ	ナデ	棕	棕	φ1灰褐色	底径 10.0cm
234	A区	III'	ナデ	ナデ	にぶい棕	にぶい棕	φ3墨褐色、φ3灰褐色、微細透光光沢	底径 9.9cm
235	H・2	b	ナデ	ナデ	棕	棕	φ2灰褐色、φ2墨褐色、φ2褐色	底径 6.9cm
236	A区	a'	ナデ	ナデ	にぶい棕	にぶい棕	φ2白、φ2墨褐色、微細透光光沢	底径 11.0cm
237	S C 4	-	なで	ナデ、脚押さえ	にぶい黄褐色	にぶい棕	φ3白、φ2半透明光沢、φ1墨褐色	底径 6.5cm
238	M・4	b下層	ナデ、表面外縁に刻目	ナデ	灰褐色	にぶい棕	φ1.5金色光沢、φ1白、φ0.5無色透明光沢	
239	A	-	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	φ15mm. φ1墨色透明光沢、φ1白半透明、微細光沢	底径 12.0cm
240	A区	IV	貝地条痕文、アジロ状圧痕	ナデ	褐灰	褐灰	φ25mm. φ2白半透明光沢、φ1墨褐色	底径 10.2cm (外)スズ村若
241	A区	IV'	貝地条痕ナデ、アジロ状圧痕	ナデ	にぶい棕、淡黃褐色	褐灰	φ35mm. φ1赤褐色、φ1白半透明、φ1墨褐色	
242	-	b層	貝地条痕、アジロ状圧痕		にぶい黄褐色	不明	φ1灰褐色	245と同一個体
243	A	-	ナデ、アジロ状圧痕	貝地条痕文	にぶい黄褐色	褐灰	φ1.5白半透明光沢、φ1.5墨褐色	
244	A区	IV	貝地条痕文、アジロ状圧痕	ナデ	にぶい黄褐色	灰褐色	φ2.5褐灰	
245	-	b層	貝地条痕文、アジロ状圧痕		にぶい黄褐色	にぶい棕	φ2半透明光沢、φ1墨褐色	242と同一個体
246	I・3	b層	貝地条痕ナデ、アジロ状圧痕	貝地条痕ナデ	にぶい黄褐色	明赤褐色	φ1.5灰褐色、φ1墨褐色	底径 9.0cm
247	ト2.7	-	丁寧なナデ、アジロ状圧痕	貝地条痕接続ナデ	にぶい黄褐色	棕、褐灰	φ35mm. φ2透明光沢、φ2墨褐色	底径 12.3cm (内)炭化物付着
248	A区	IV	貝地条痕ナデ、アジロ状圧痕	ナデ	にぶい棕	にぶい棕	φ35mm. φ2半透明光沢、φ2墨褐色	底径 10.7cm
249	A区	IV	穀ナデ、アジロ状圧痕	ナデ	暗黒褐色	褐灰	φ35mm. φ2透明光沢、φ2墨褐色	(外)スズ村若
250	A区	IV	貝地条痕ナデ、アジロ状圧痕		にぶい棕、褐灰	にぶい棕	φ1.5白半透明、φ1墨褐色	底径 11.1cm 一部高台部の高さり
251	I・3	b下層	貝地条痕ナデ、アジロ状圧痕	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ2灰褐色、φ2半透明、φ1墨褐色	底径 10.6cm
252	H・7	VII	ナデ、アジロ状圧痕		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ3にぶい棕、φ2灰褐色、φ2白半透明、φ2墨褐色	底径 8.5cm
253	A区	IV	ナデ、アジロ状圧痕		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	φ1灰褐色、φ1白半透明、φ1透明光沢	(外)スズ村若
254	A区	IV	貝地条痕ナデ、指壓痕、アジロ状圧痕	ナデ	淡黃褐色	にぶい黄褐色	φ1淡黃褐色	底径 5.8cm (内)炭化物付着
255	A区	IV	貝地条痕ナデ、アジロ状圧痕	ナデ、貝地条痕文	にぶい棕	褐灰	φ32半透明、φ1灰褐色、φ0.5墨褐色	底径 5.7cm (外)スズ村若?
256	A区	IV'	貝地条痕文、アジロ状圧痕		にぶい棕	不明	φ2にぶい黄褐色	底径 11.0cm 底部内壁部に高台状高さり
257	D	-	スダレ状軽版	ナデ	にぶい黄褐色	褐灰	φ1白半透明、φ1赤褐色、φ1透明光沢	

3. 包含層出土の石器

石器の報告は、Ah上の包含層中で出土したものの一括して行なう。

258～440は石鎚である。利用石材をみると、姫島産黒曜石が最も多く、チャートがそれに次ぐ。平面形は、311・312など両脚が外に開くもの、317・321など五角形のものなど多様である。372など、素材剥片形状を大きく残すものも一定量見られる。315の先端には櫛状剥離が見られる。使用の結果残されたものであろう。294・329・357は局部的に研磨され、「局部磨製石鎚」とした。384～440は石鎚のうち欠損の著しいものである。441～487は石鎚未製品である。素材剥片から製品に向かっての、様々な加工過程のものがある。456は石鎚未製品であるが、背面が研磨される。472は砂岩製。製品である可能性がある。

488～490は石錐、497はその未製品である。いずれも不定形剥片素材で、チャート製のものが多い。錐部の作出は粗雑である。498は楔形石器である。

491～496・499～503は石匙である。491～496は小形の不定形剥片・縦長剥片を素材とする。両側縁に抉りを入れ、つまみ部が作出される。下端部に、わずかな加工が施されるものと素材剥片のままのものがある。499～502は横匙である。503は横長剥片素材で、他の石匙と石材も異なり、珪質シルト岩製である。

504～506・508・509は異形石器である。様々な形態がある。507・510は異形局部磨製石鎚である。507は表裏面ともによく研磨される。510は安山岩製である。本遺跡出土の異形局部磨製石鎚は、510を除いてすべてチャート製である。

511～516は尖頭器とした。形態は様々であり、素材剥片面を残す資料が多い。

517～520は搔器である。全て黒曜石製。不定形剥片素材で、刃部は剥片端部の厚みを利用して設けられる。

521～574は削器とした。様々な形態がある。小形のものにはチャート・黒曜石・姫島産黒曜石が多用され、平面形・刃部形態ともに多様である。大形のものには砂岩・頁岩が多用される。他器種との関連が想定されるもの、区別の明確でないものもここに含めた。566・567・569・570は砂岩製で大形の縦長剥片を素材とする一群である。566は抉りのみの加工である。石匙との関連が想定される。567・570は折断により整形され、鋭い側縁全体を刃部とした石器と考えられる。568は磨製石斧の転用、574は石核の転用と考えられる。

575～588は何らかの二次加工が入る石器を一括した。575はナイフ形石器の可能性がある。580は石器全面の稜が磨耗する。587は石匙との関連が考えられる。

589～647は石核である。利用石材をみると、小形の石核は南九州産と思われる黒曜石（黒色の一群・黒色で白色斑晶を顕著に含む一群）と姫島産黒曜石、少量のチャートのものがある。大形の石核は、砂岩が圧倒的に多く、少量の頁岩、姫島産黒曜石のものがある。剥片剥離をみると、小形の石核は、礫打面か若干の調整を入れた打面から、不定形剥片または縦長剥片が剥離されることが多い。打面は单一打面が多い。斑晶を含む黒曜石製の一群は、斑晶の影響で剥片剥離が困難であったようである。大形の石核は打面調整がなされず、礫面から縦長剥片が剥離される一群と石核周縁から不定形剥片が剥離される一群がある。小形の石核、大形の石核とて、利用石材、剥片剥離に

明確な差がある。

648～650は礫器である。648・650は周縁の棱が顯著に摩滅する。

651～661は石錘である。全て砂岩の扁平な円礫を素材とし、礫の長軸に打ち欠きがある。重量で分けると、100g前後の一群・200g前後の一群・600～700g前後の一群がある。

662・663・665・666は磨製石斧である。小形から中形のものである。刃部はいざれもうすい。663の基部側は礫器状に成形される。

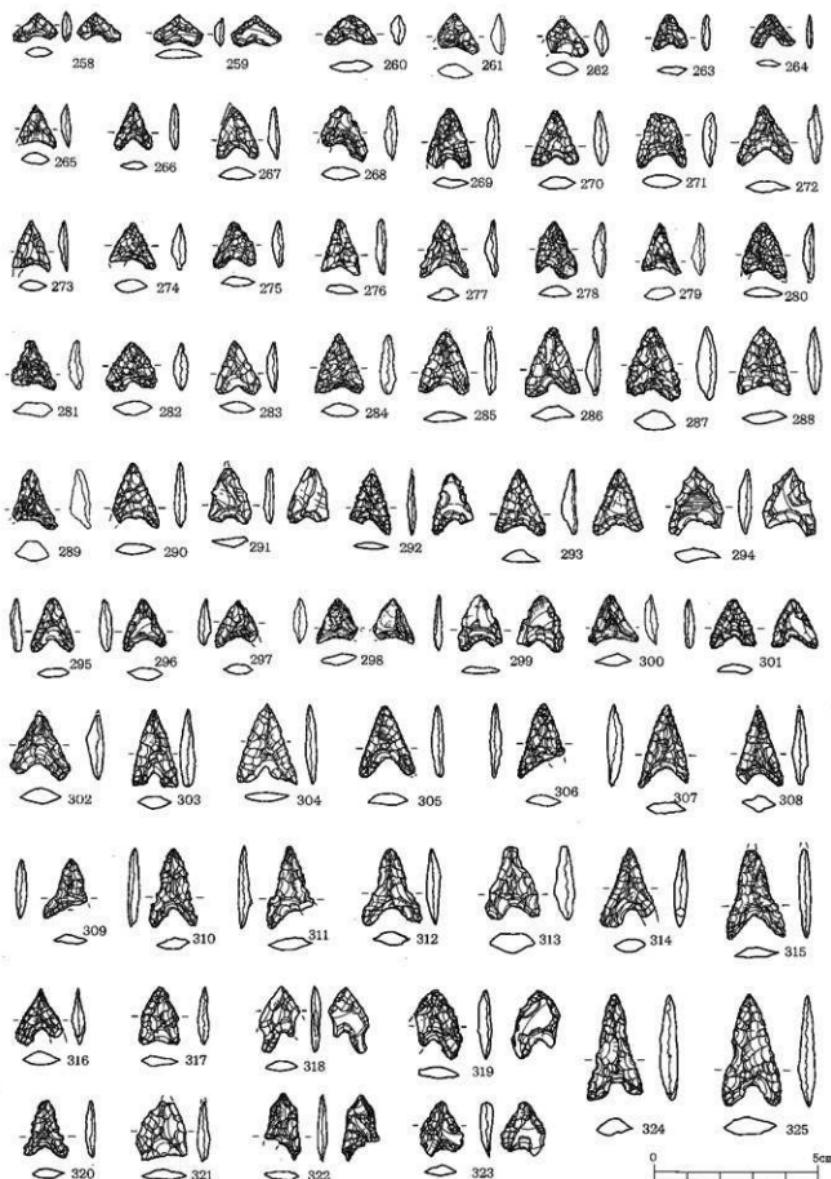
664・667～675・678・679は敲石である。重量で分けると、60g以下の一群、130g前後の一群、200～250gまでの一群、1kg近いものの4群に分かれる。670は磨製石斧の転用品である。676・

677・680～700は磨石である。磨面が明確でなく、礫形状から磨石の可能性のあるものも含めた。重量500g前後を中心に、900g前後のものまで見られる。701・702は円石である。703～710は石皿類である。凹面の明確なものとそうでないものとがある。710は後に石核として再利用された可能性がある。

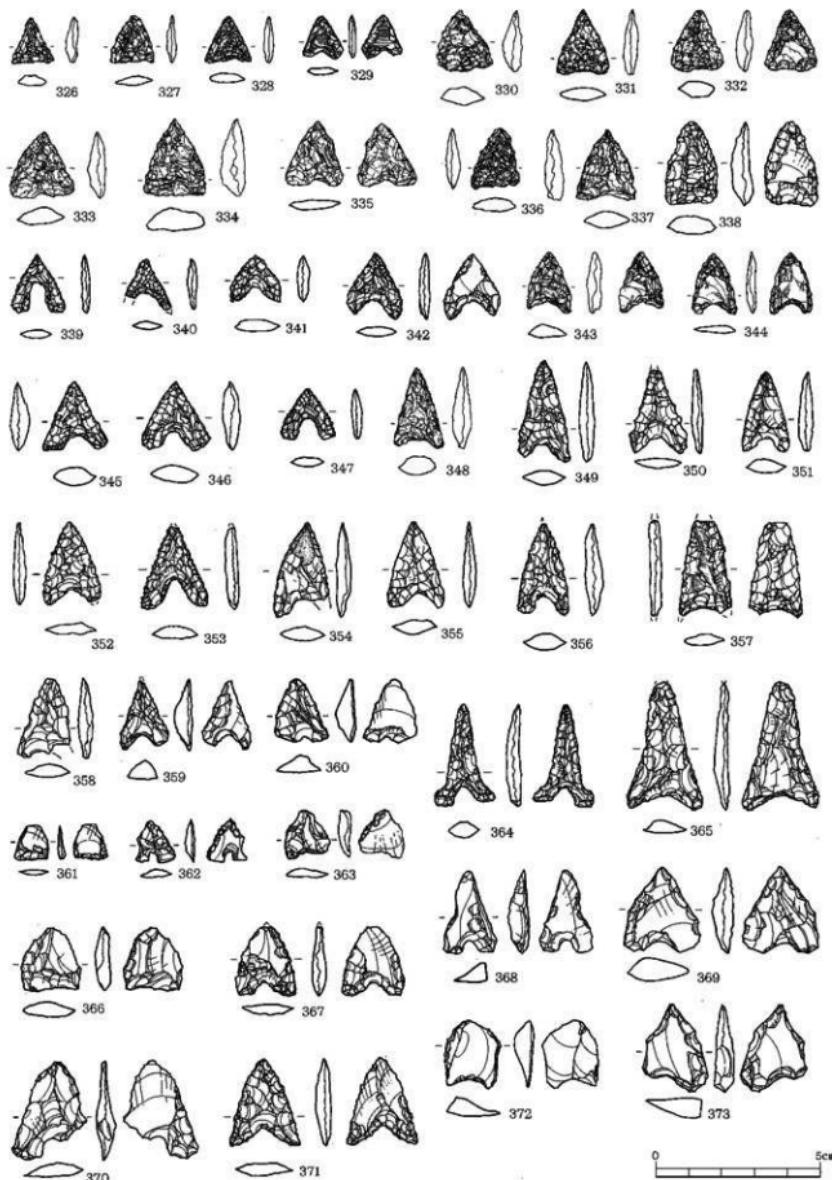
711～735は、堅穴住居を除く、各遺構より出土したものである。726～735の敲石類は、すべて集石を構成していた礫である。

736～764はトレンチ一括で取り上げられたもの、765～792は表採や注記不明などの理由で出土位置が明確でないものを一括し掲載した。

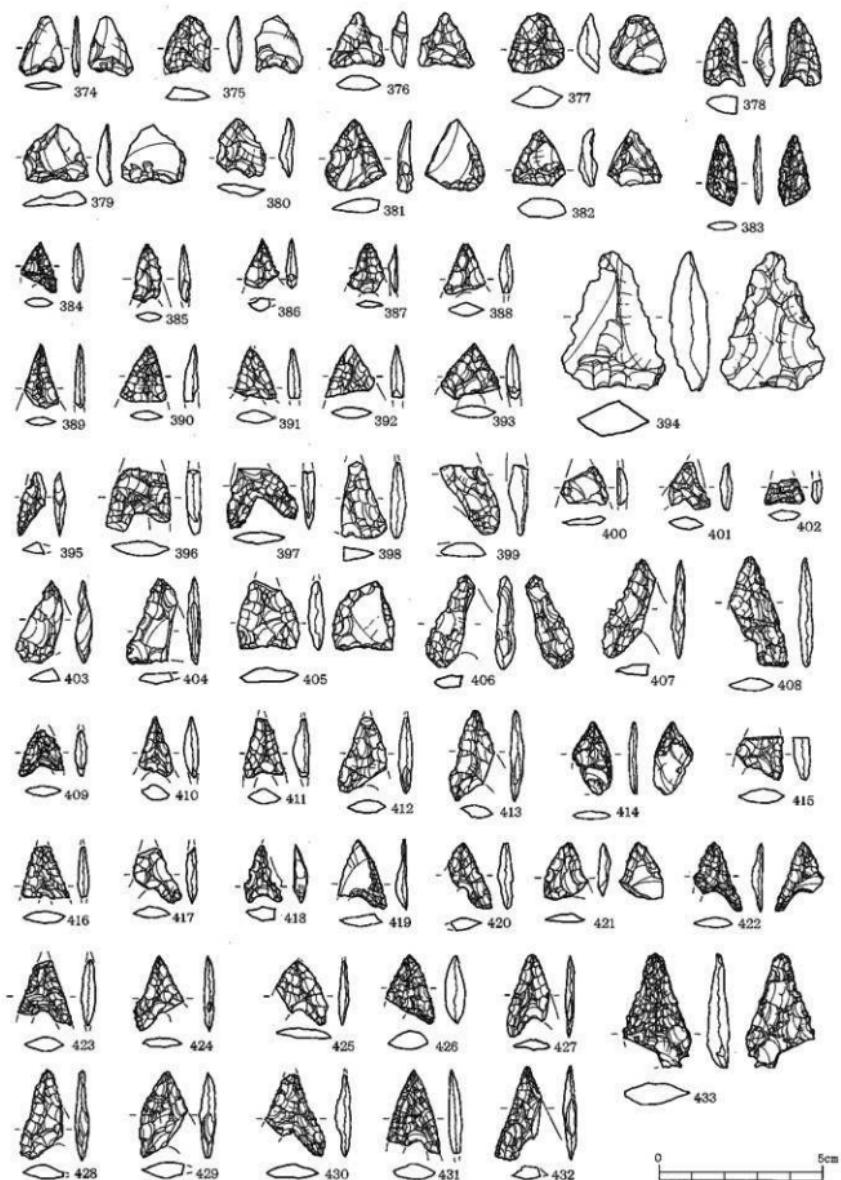
Ah上の包含層中で出土した石器の中には、本来、Ah下に包含されていたものが、遺構形成の過程などで混入した可能性が予想される。また、Ah上出土の石器について、細かな時期の検討を行なえていない。これらの問題点については、Ah上出土の石器にのみ見られる器種、器種の中での形態的特徴などを抽出、さらには、他遺跡との比較・検討を通じて明確にできるであろう。詳細は、今後の調査、研究の中で明らかにしていきたい。



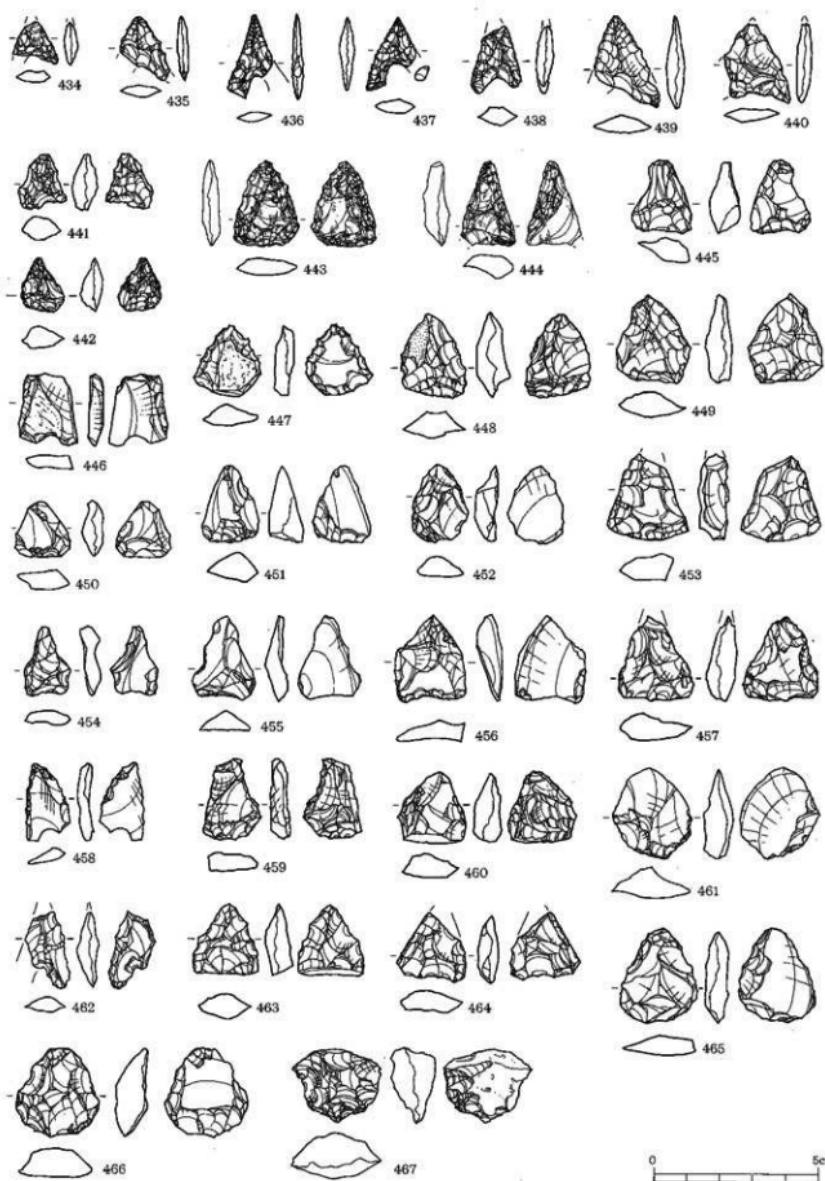
第25図 包含層出土石器実測図(1)



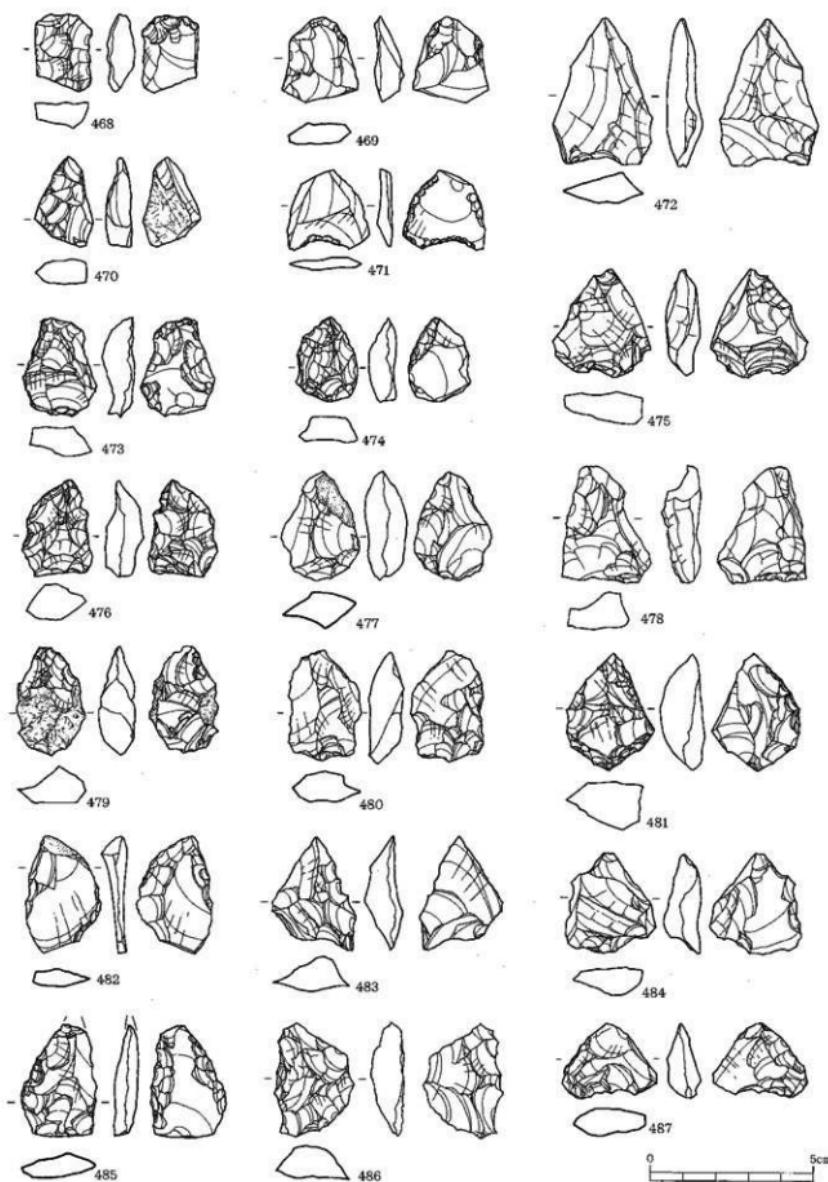
第26図 包含層出土石器実測図(2)



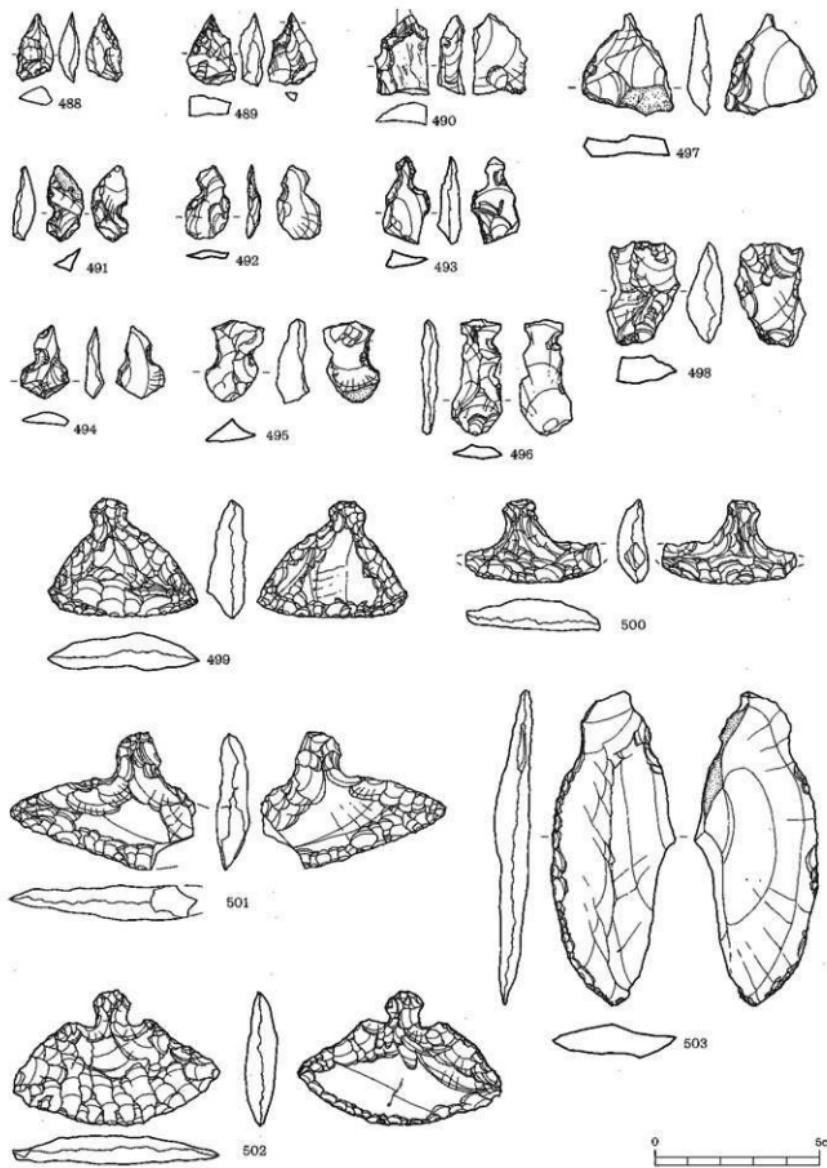
第27図 包含層出土石器実測図(3)



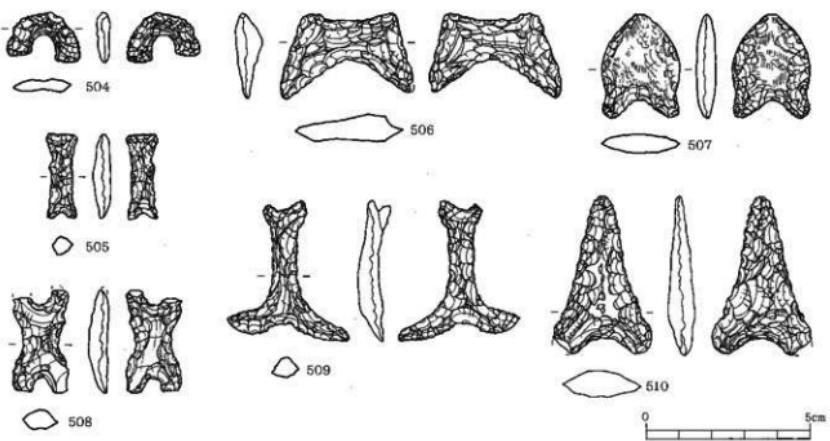
第28図 包含層出土石器実測図(4)



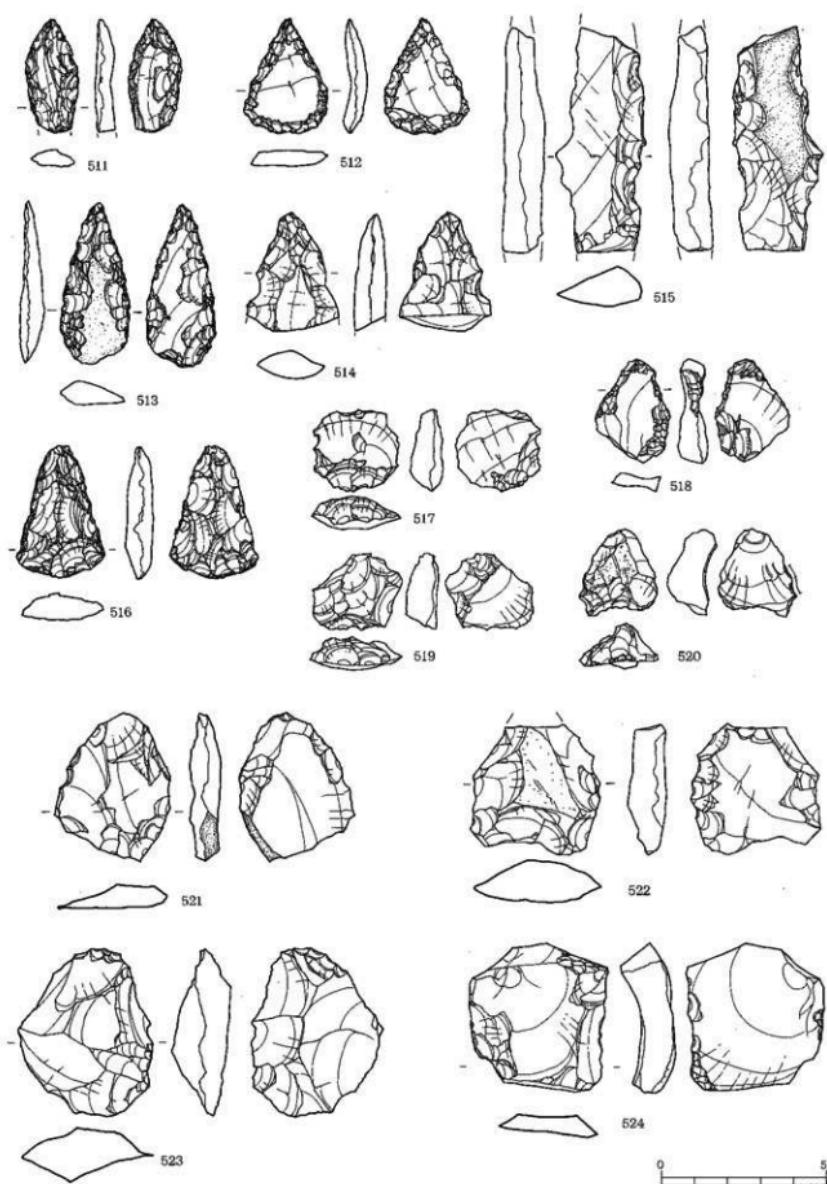
第29図 包含層出土石器実測図(5)



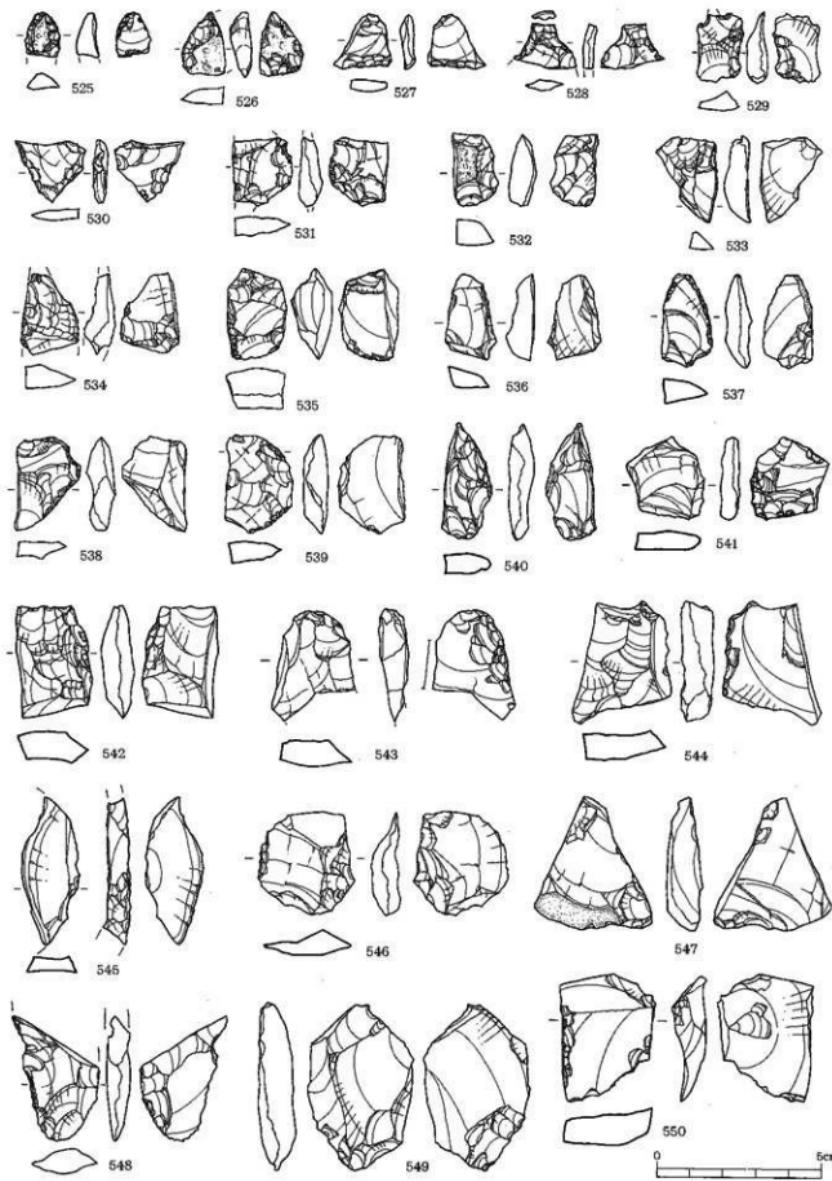
第30図 包含層出土石器実測図(6)



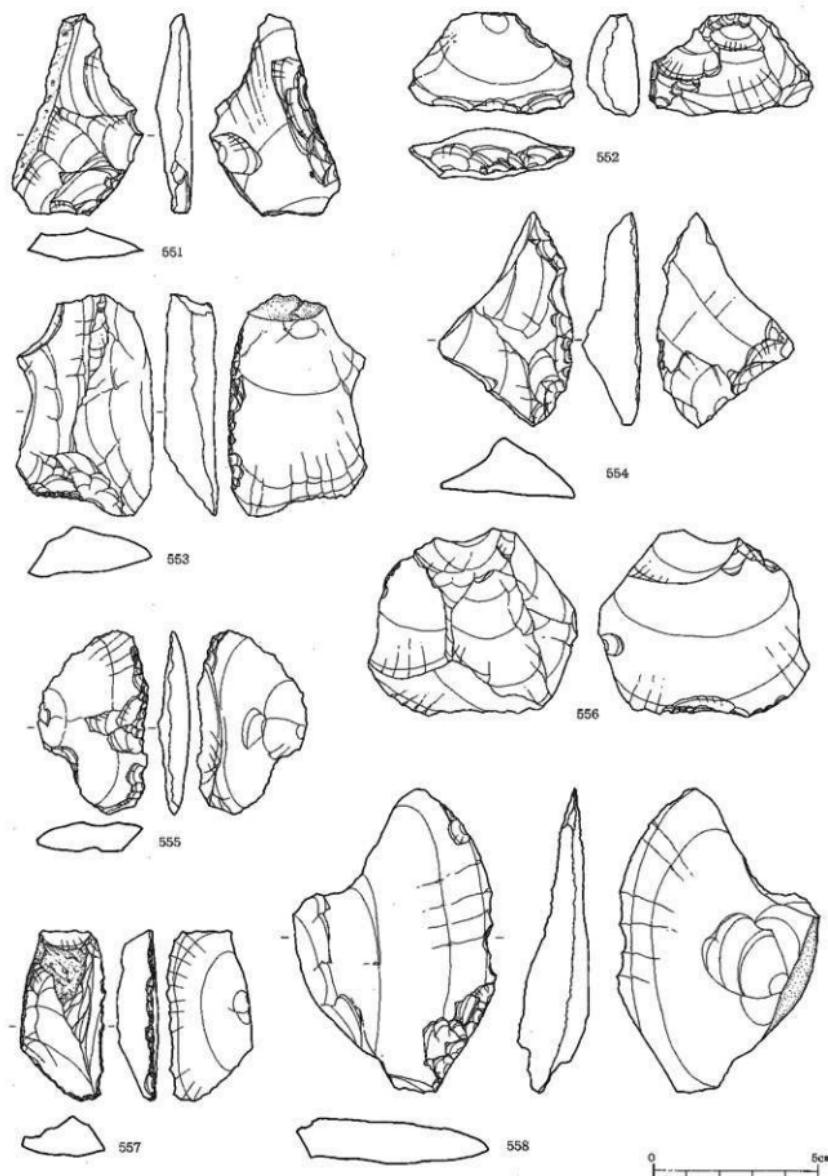
第31図 包含層出土石器実測図(7)



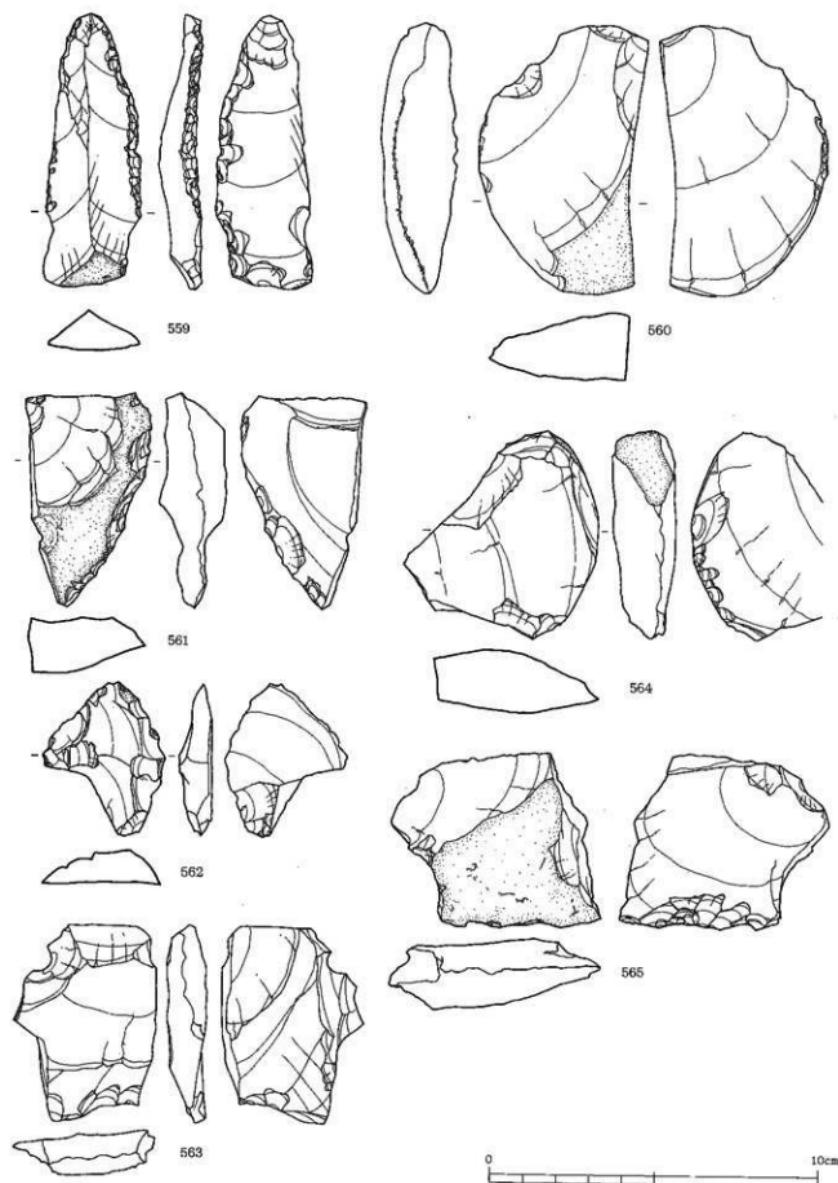
第32図 包含層出土石器実測図(8)



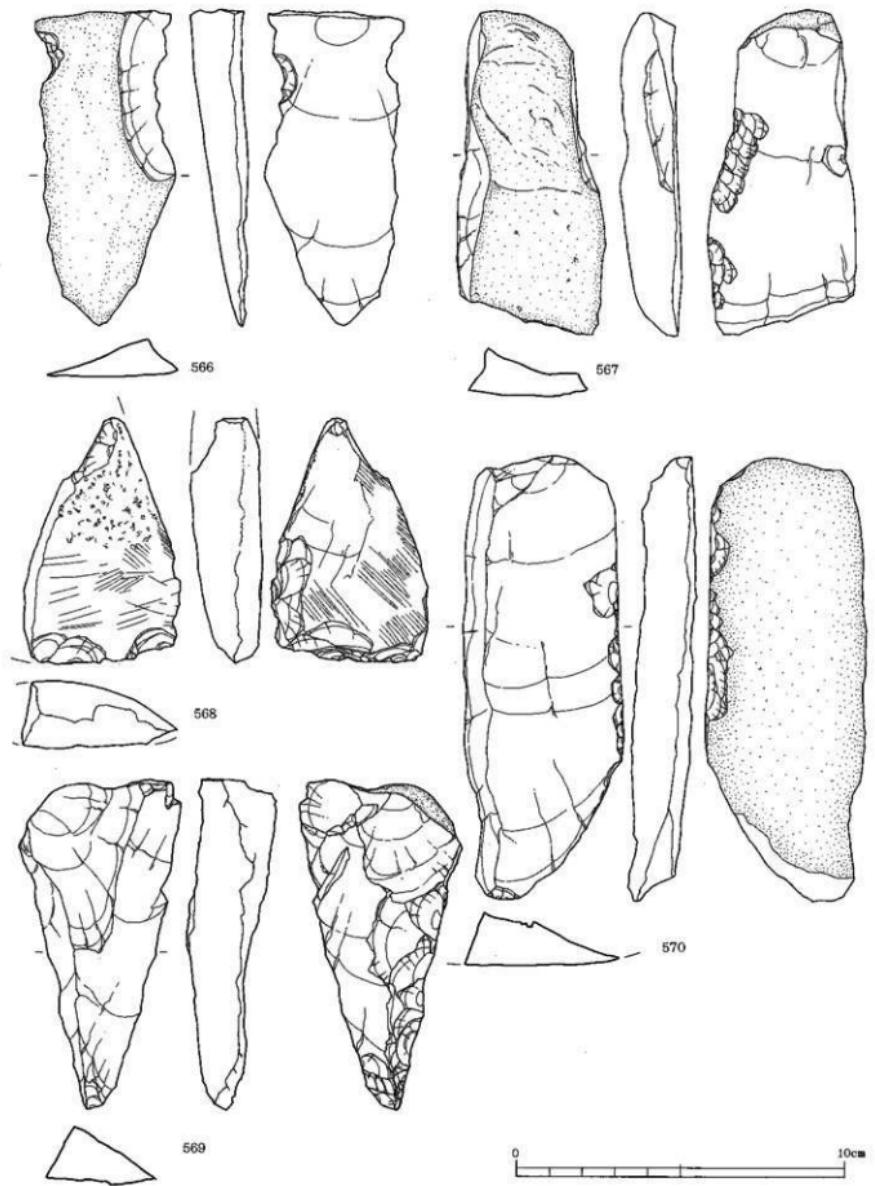
第33图 包含层出土石器实测图(9)



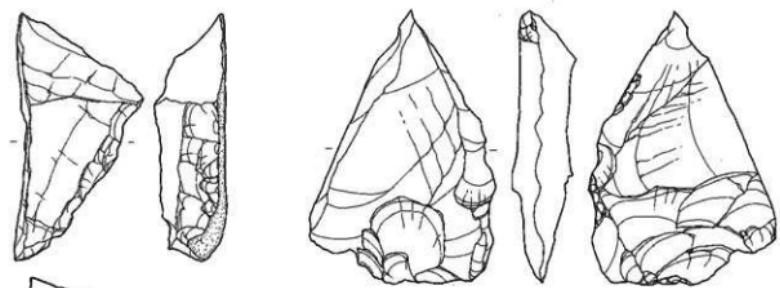
第34図 包含層出土石器実測図(10)



第35図 包含層出土石器実測図(11)



第36図 包含層出土石器実測図(12)

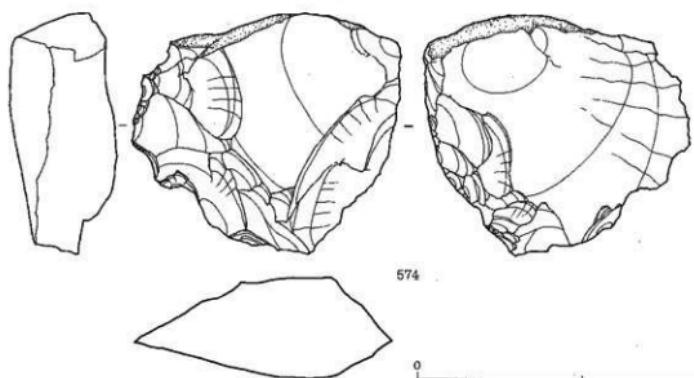


571

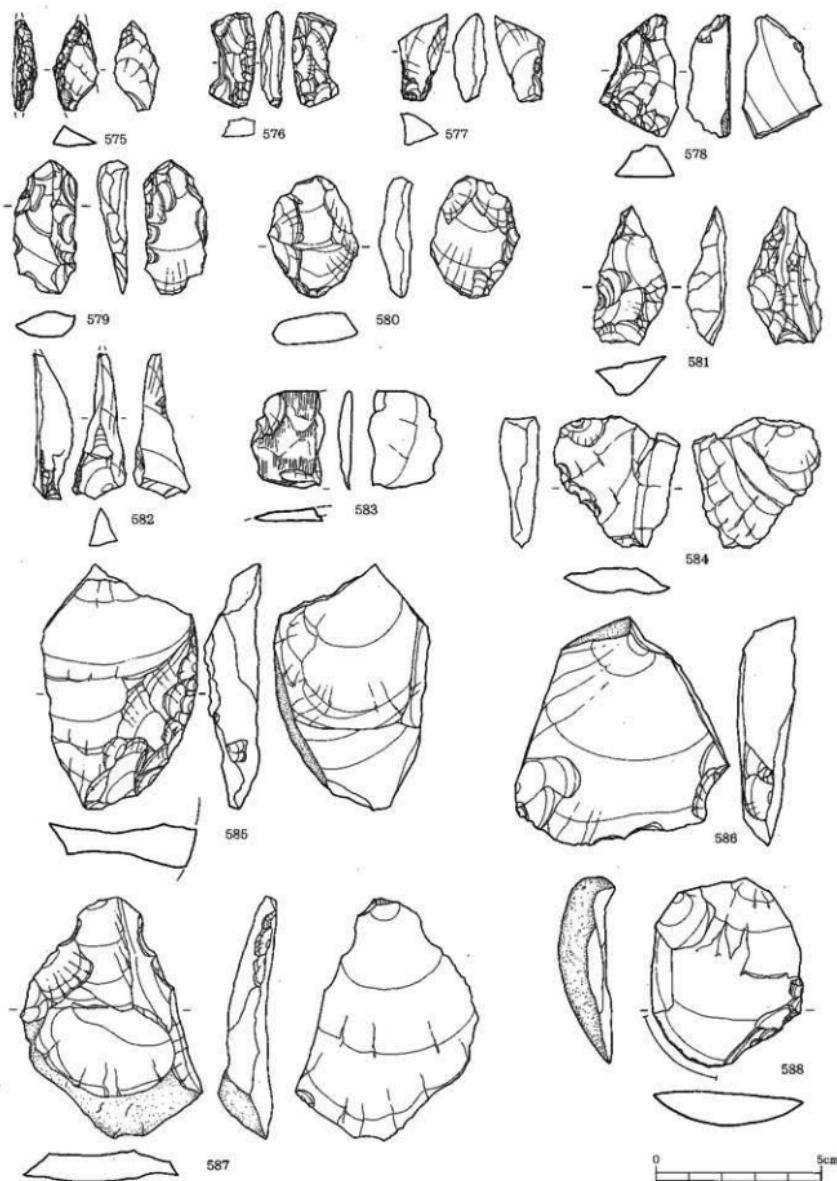
572

573

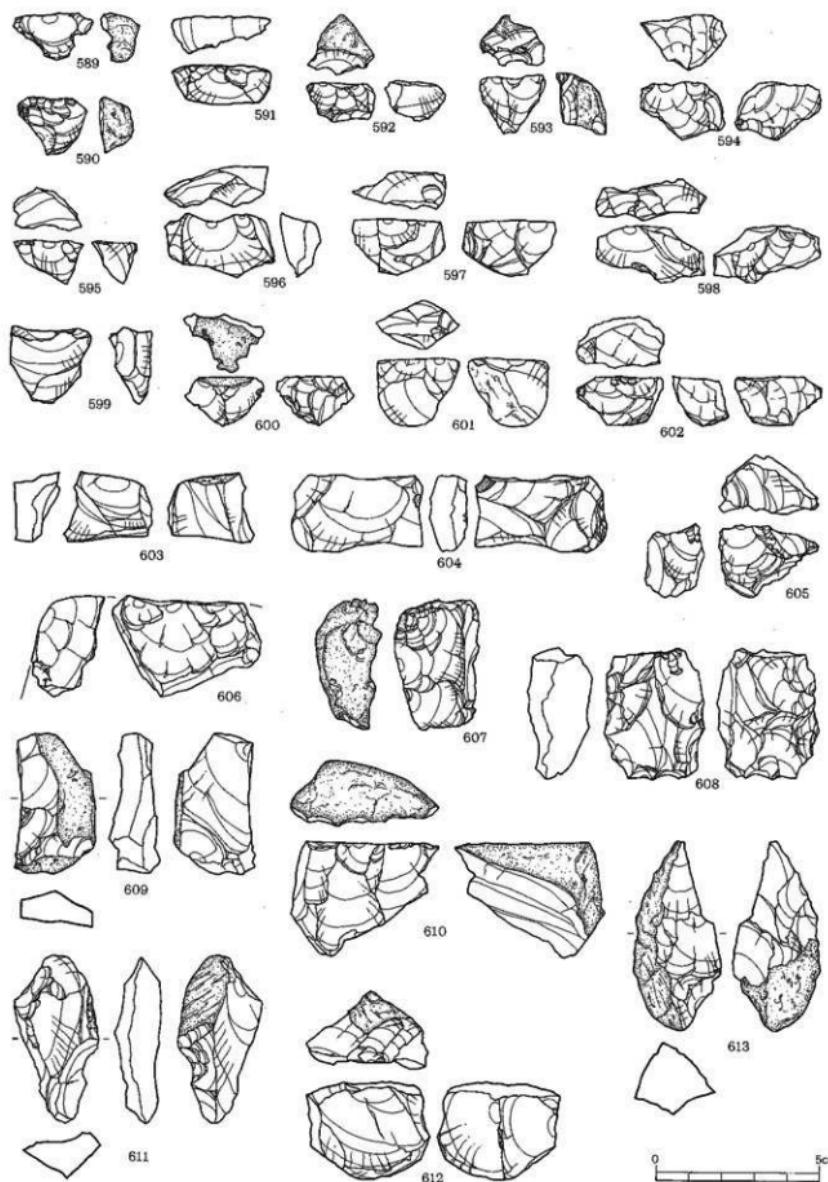
574



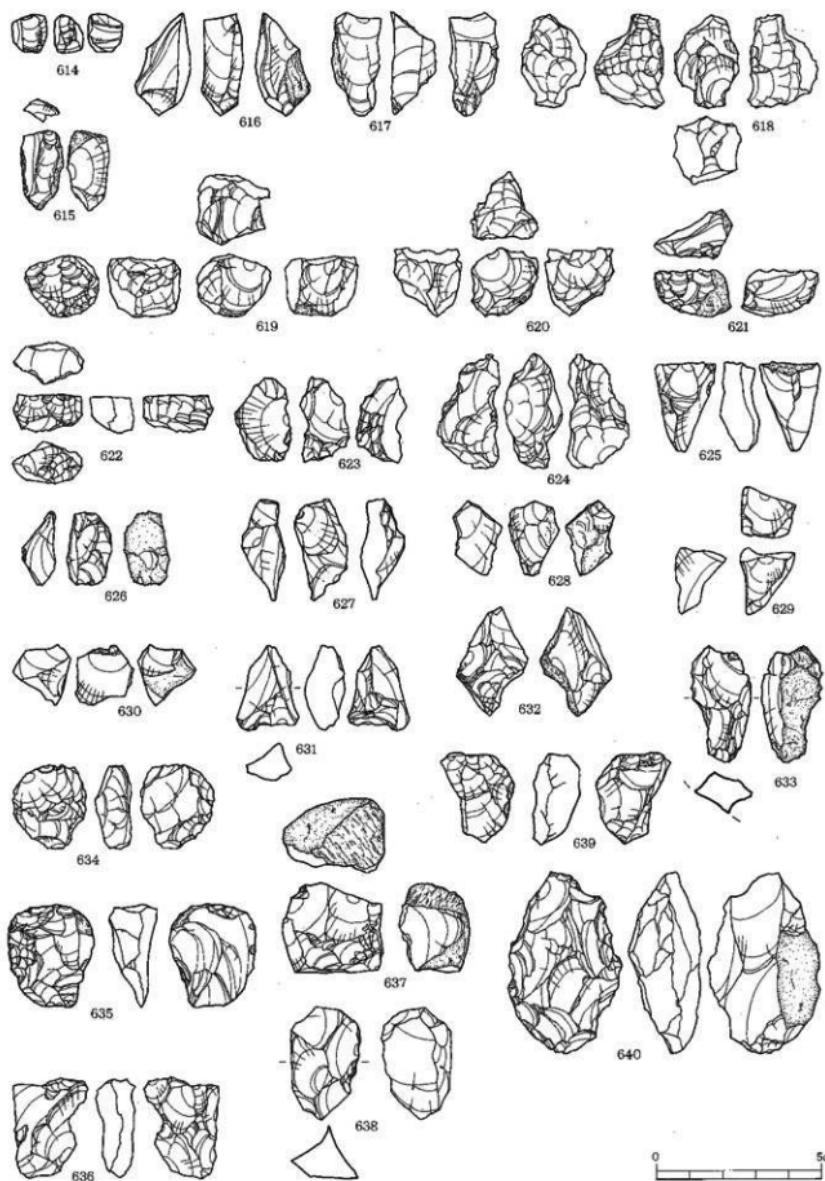
第37図 包含層出土石器実測図(13)



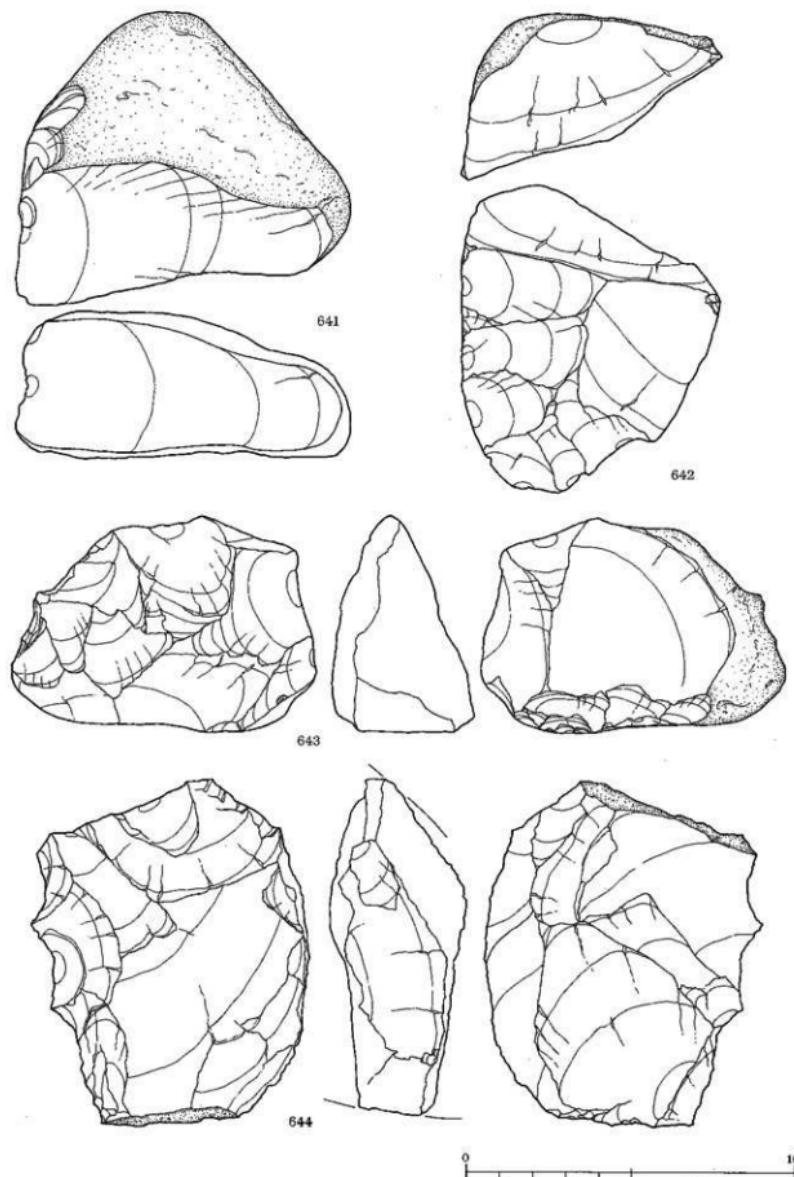
第38図 包含層出土石器実測図(14)



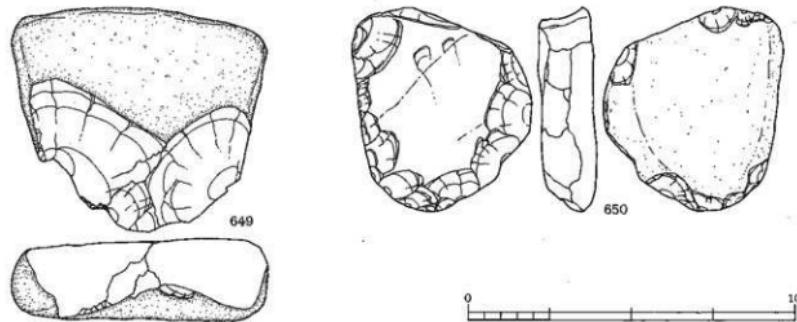
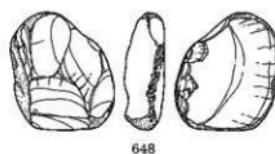
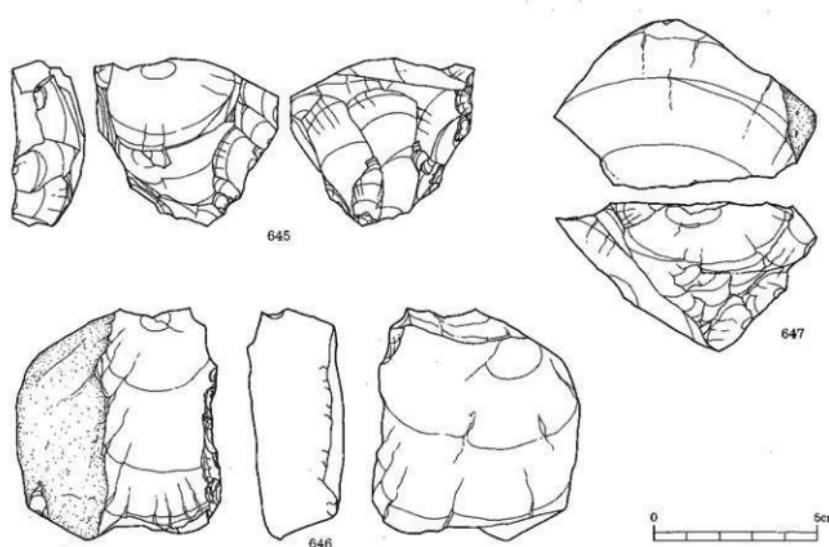
第39図 包含層出土石器実測図(15)



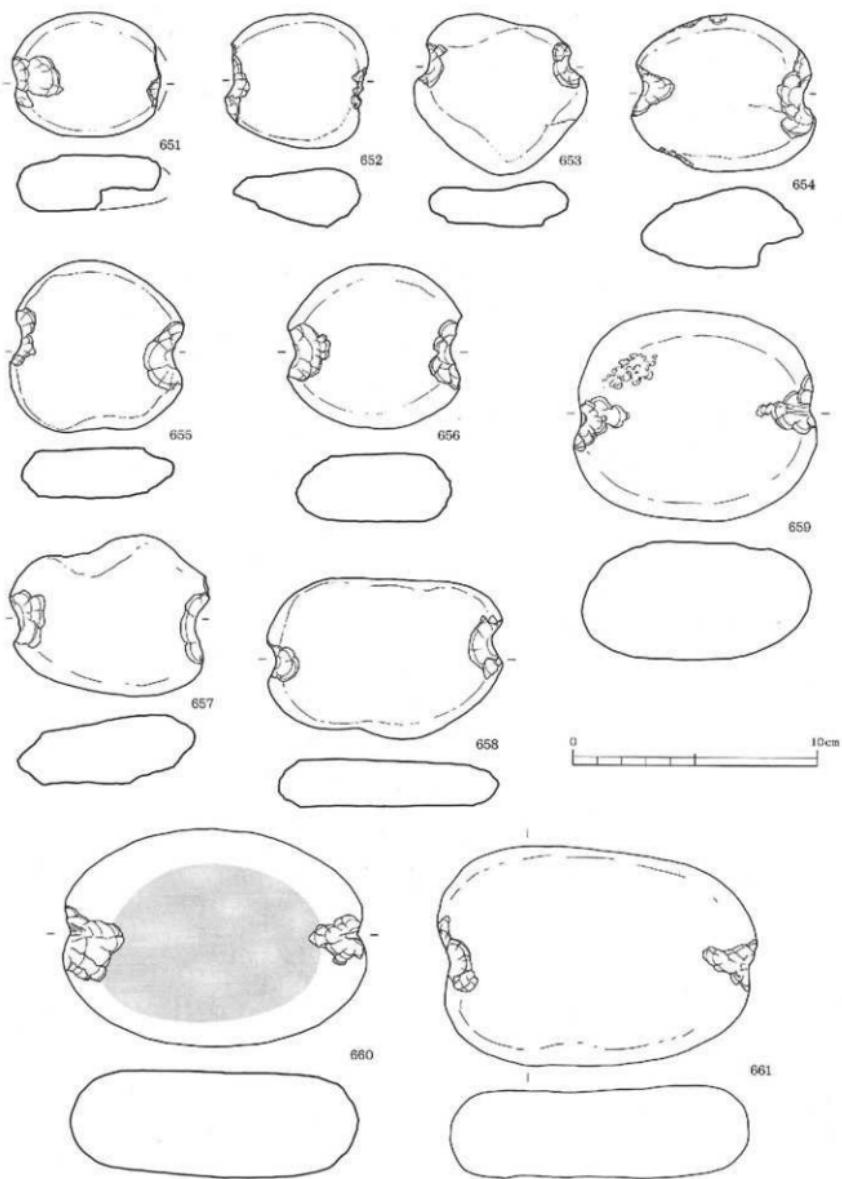
第40図 包含層出土石器実測図(16)



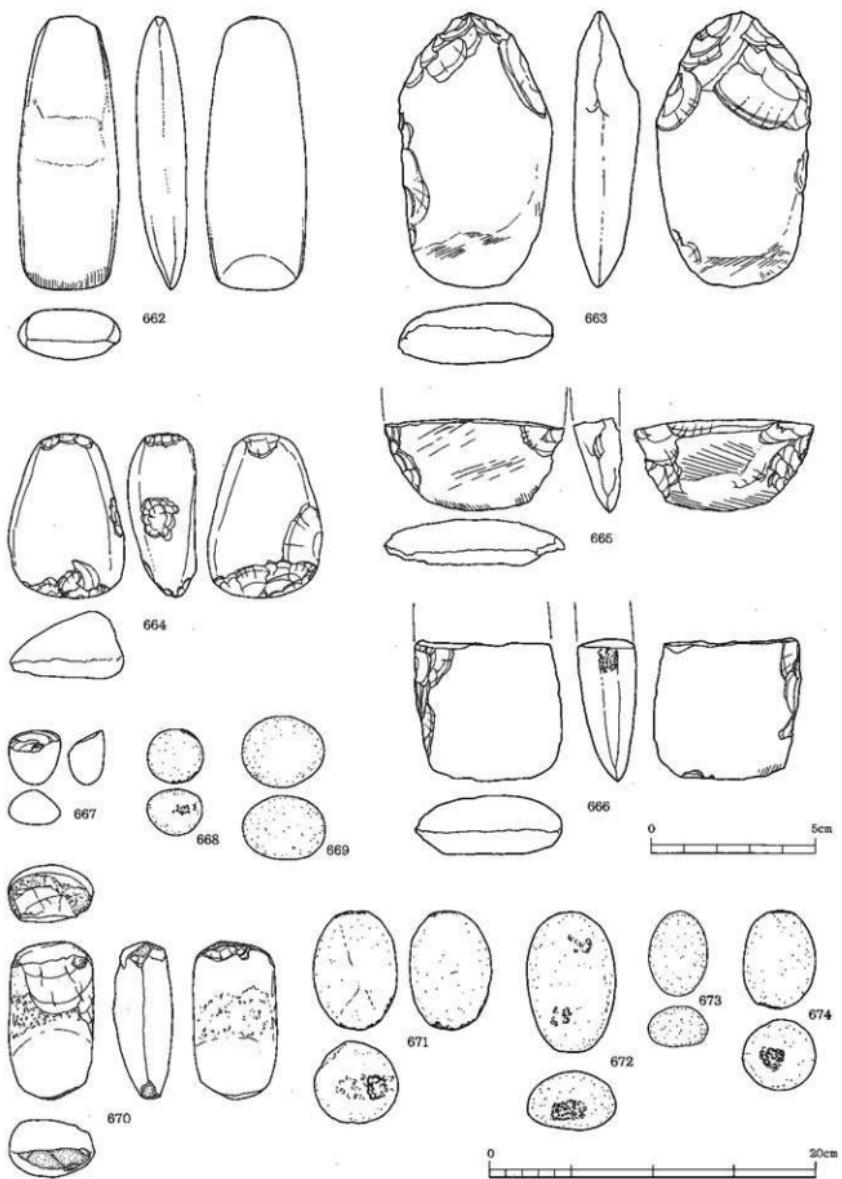
第41図 包含層出土石器実測図(17)



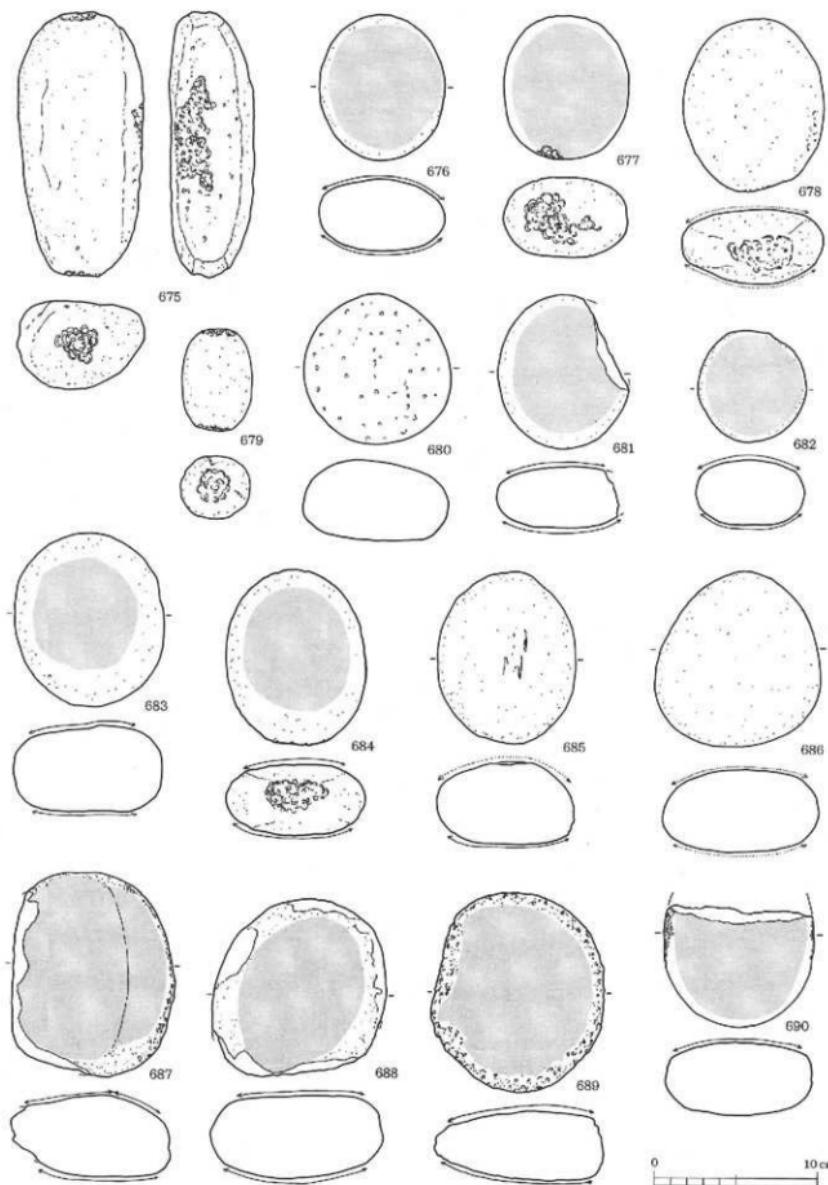
第42図 包含層出土石器実測図(18)



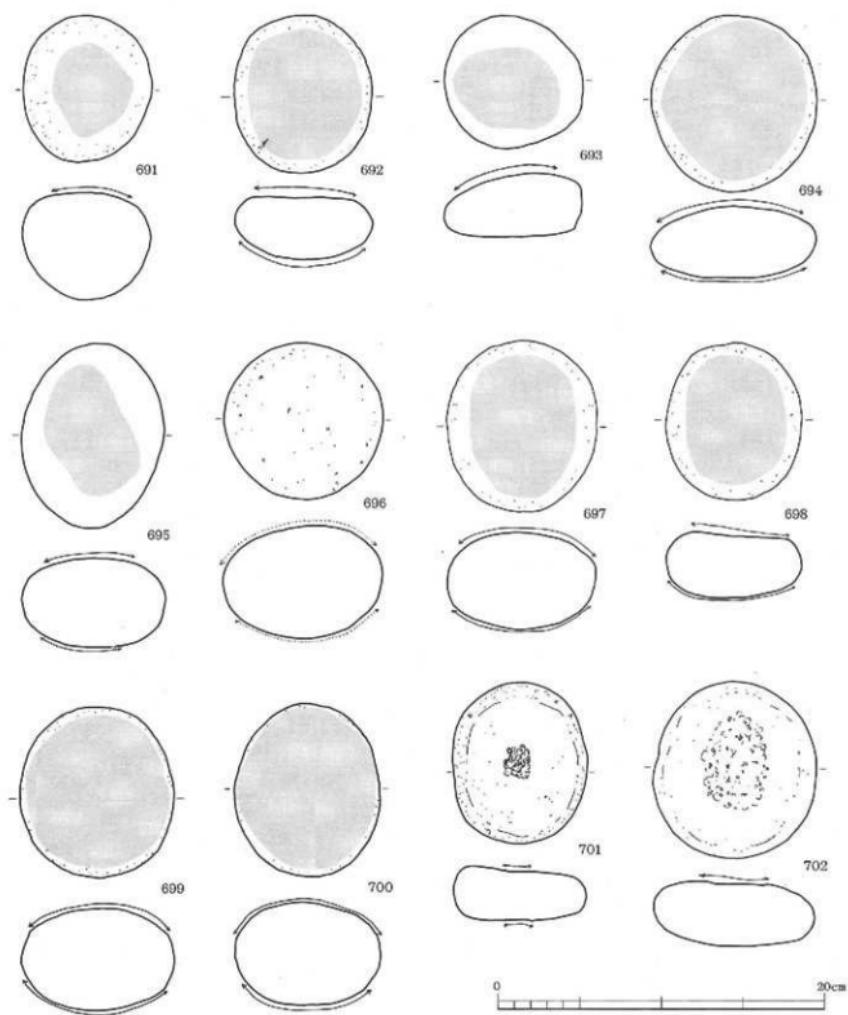
第43図 包含層出土石器実測図(19)



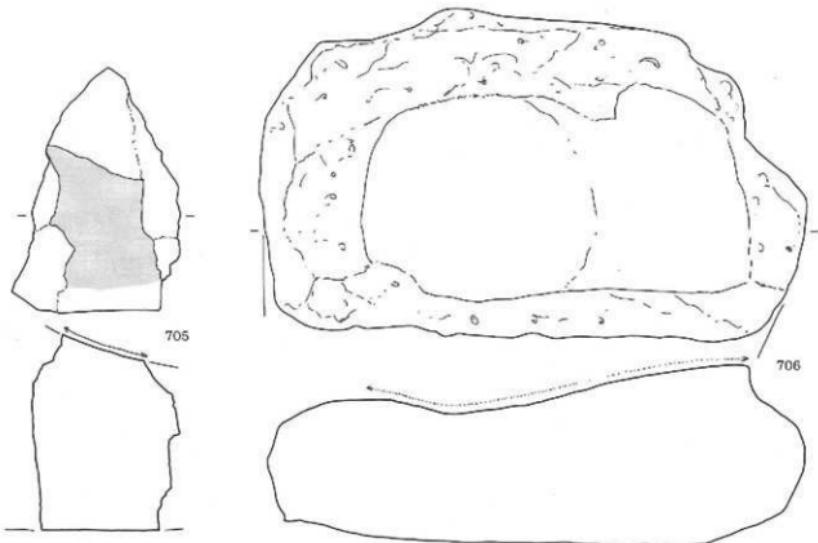
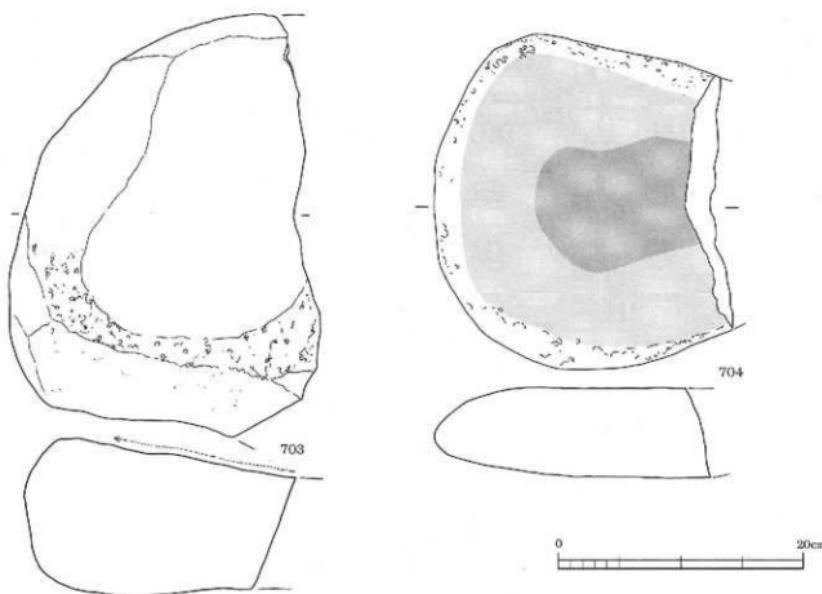
第44図 包含層出土石器実測図(20)



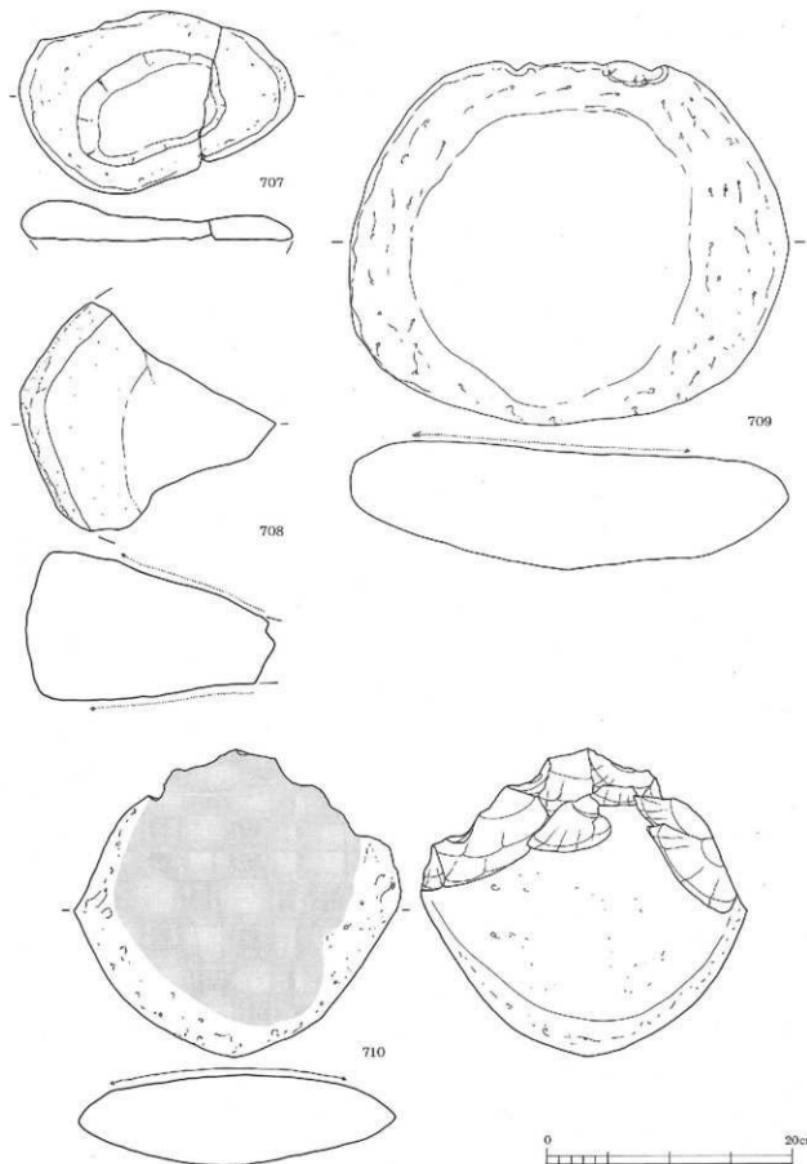
第45図 包含層出土石器実測図(21)



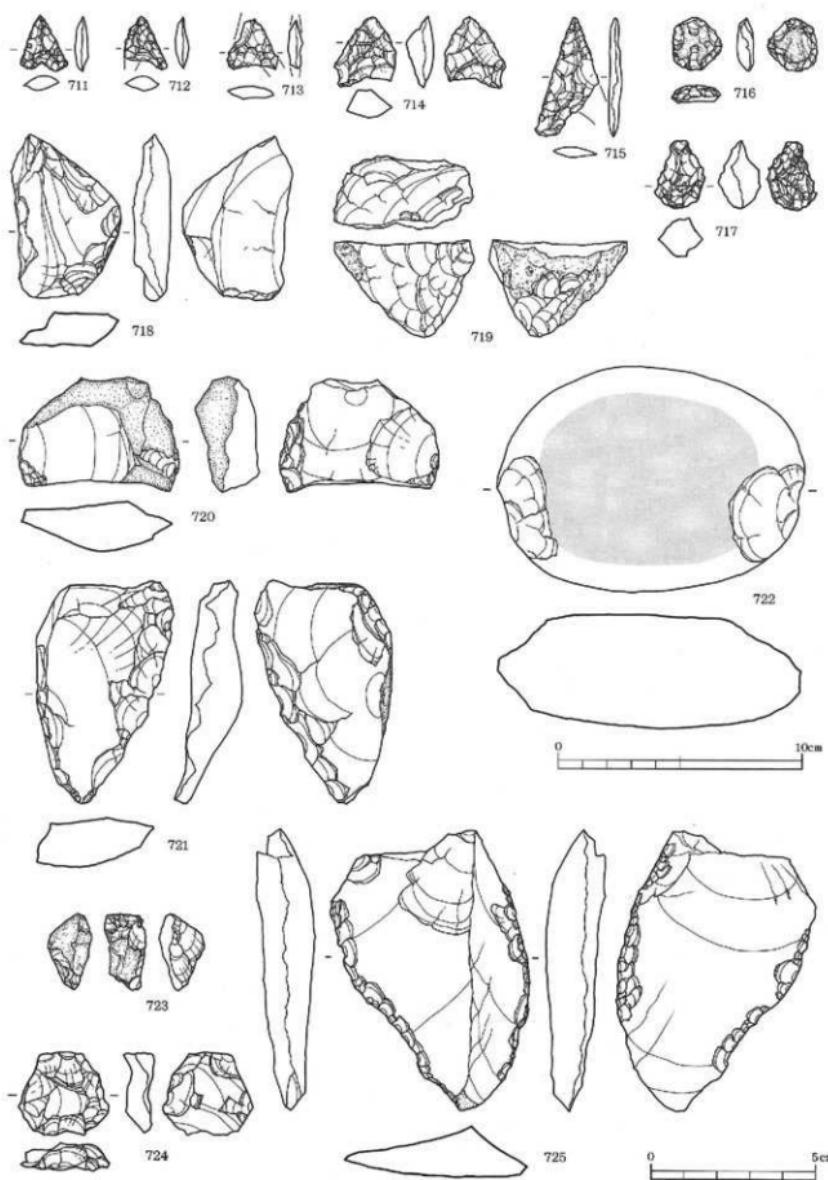
第46図 包含層出土石器実測図(22)



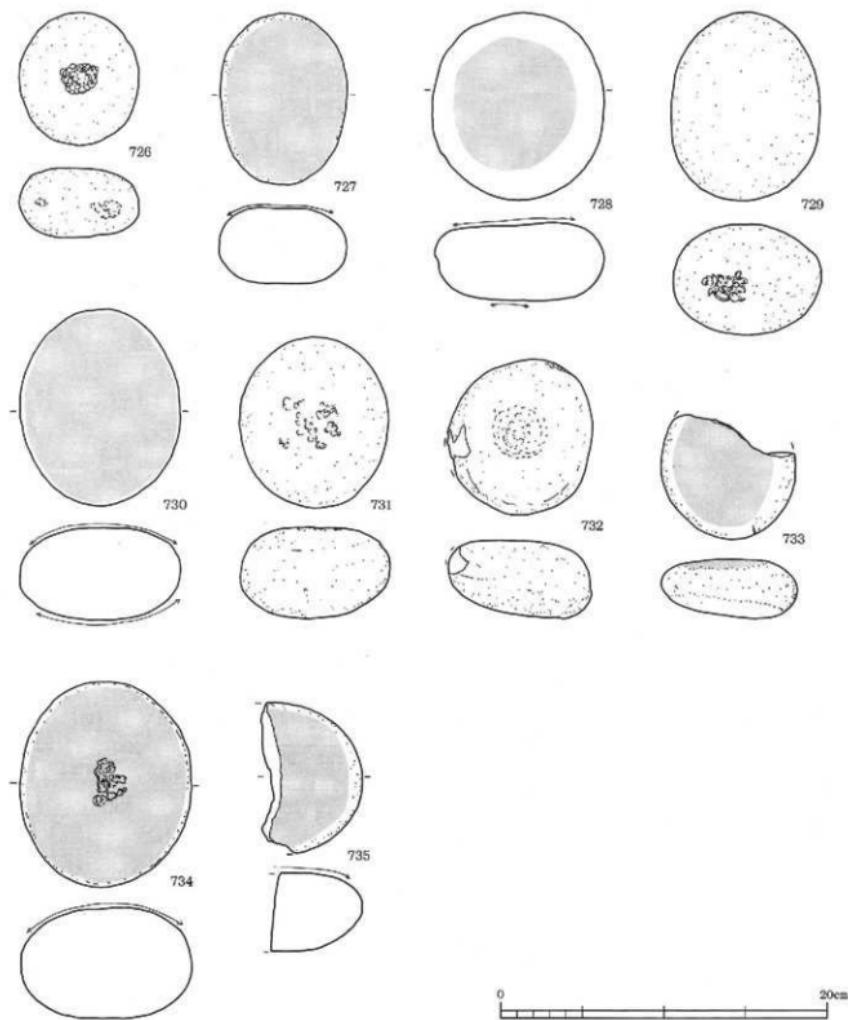
第47図 包含層出土石器実測図(23)



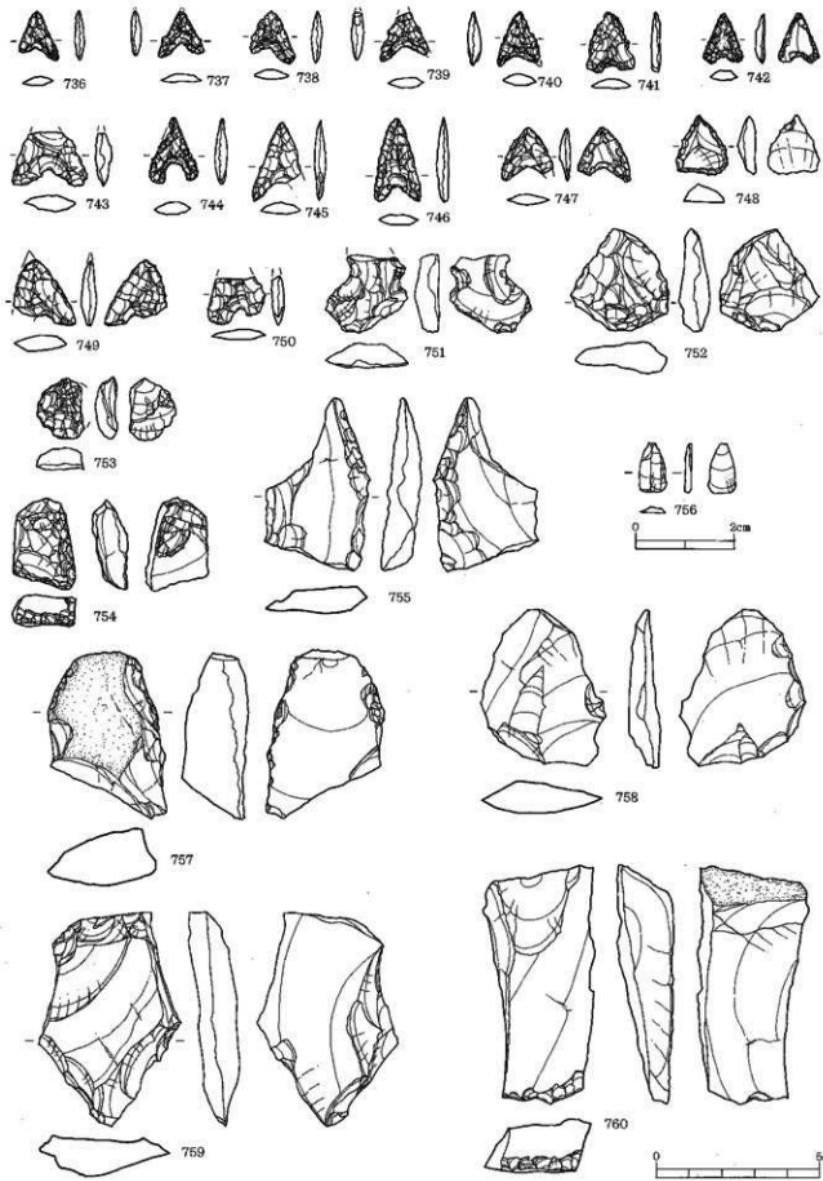
第48図 包含層出土石器実測図(24)



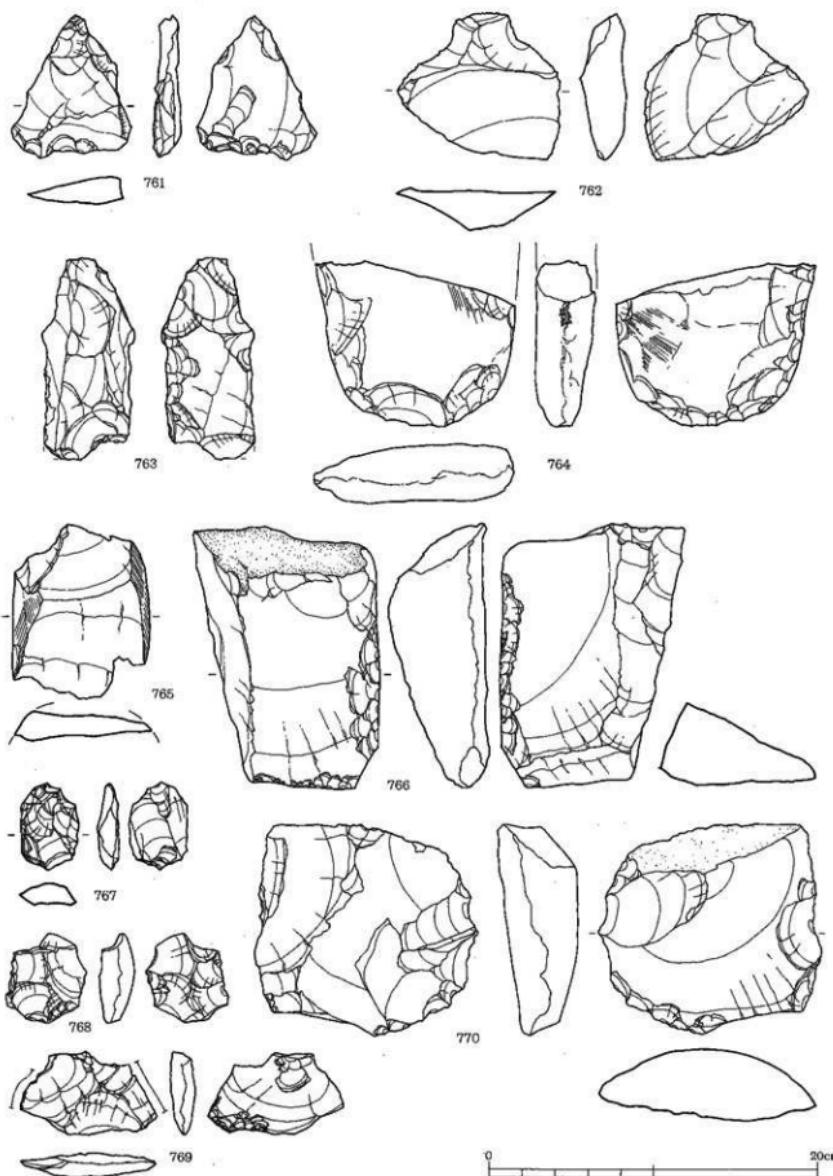
第49図 包含層出土石器実測図(25)



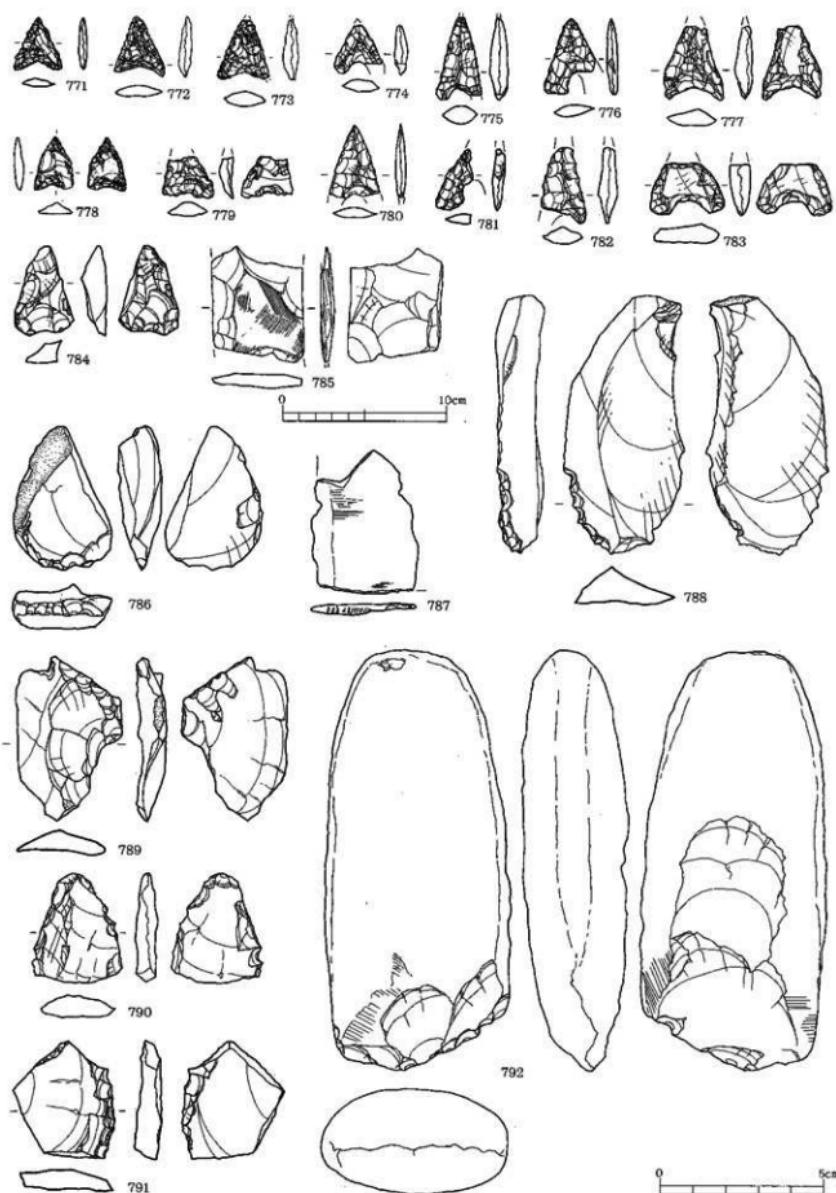
第50図 包含層出土石器実測図(26)



第51図 包含層出土石器実測図(27)



第52図 包含層出土石器実測図(28)



第53図 包含層出土石器実測図(29)

第3表 石器観察表(2)

図No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
258	c	65		石鏃	0.9	1.4	0.3	0.2	Ob	
259	b	14		石鏃	1.0	1.5	0.3	0.4	Ob	
260	a	A区	308	石鏃	0.9	1.6	0.5	0.4	Ch	
261	b	14		石鏃	1.3	1.3	0.5	0.4	Ob	左脚欠損。
262	b	H3		石鏃	1.2	1.3	0.5	0.4	Ob	先端より欠け。左脚欠損。
263	IV	A区	1378	石鏃	1.1	1.1	0.3	0.1	Ch	左脚欠損。
264	b	H2	55	石鏃	1.1	1.4	0.2	0.2	Ch	
265	IV		9	石鏃	1.3	1.2	0.3	0.3	Ob	左脚欠損。
266	b	H3	4	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.3	Ob	
267	b	J2		石鏃	1.6	1.3	0.4	0.5	Ob	
268	b	H3		石鏃	1.7	1.5	0.4	0.5	Ob	左脚欠損。
269	b	H3		石鏃	1.9	1.4	0.4	0.6	Ob	左脚欠損。
270	b	H4		石鏃	1.7	1.4	0.5	0.7	Ch	
271	b	H3		石鏃	1.7	1.5	0.5	0.8	Ob	先端欠損後、再加工。
272	c		21	石鏃	1.8	1.7	0.4	0.7	S1	
273	IV		298	石鏃	1.6	1.2	0.3	0.4	Ch	左脚欠損。
274	b	M2	51	石鏃	1.4	1.4	0.5	0.5	Ob	左脚欠損。
275		A	660	石鏃	1.4	1.3	0.4	0.5	Ob	
276	b	13		石鏃	1.8	1.2	0.3	0.4	Ob	
277	III		171	石鏃	1.8	1.5	0.4	0.4	S	
278	b	J2		石鏃	1.8	1.3	0.4	0.5	Ob	左脚欠損後、再加工。
279		A	436	石鏃	1.6	1.2	0.4	0.3	Ob	
280	b	H3		石鏃	1.8	1.4	0.4	0.5	Ob	両脚欠損。
281		A	54	石鏃	1.6	1.4	0.3	0.3	Ob	
282	b	H4		石鏃	1.5	1.6	0.5	0.6	Ob	
283		A	651	石鏃	1.7	1.4	0.3	0.5	Ob	
284	IV		268	石鏃	1.8	1.5	0.5	0.9	Ob	
285	b	H3		石鏃	2.0	1.6	0.4	0.7	Ob	先端欠損。
286	III			石鏃	2.1	1.6	0.5	1.0	Ch	
287	b	H3		石鏃	2.3	1.7	0.6	1.5	Ob	
288	b	H3		石鏃	2.1	1.6	0.5	1.0	Ob	
289	IV	A区	1331	石鏃	1.8	1.4	0.8	0.7	Ob	基部附近に齧り。
290	b		784	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.6	Ob	左脚欠損。
291	b	13		石鏃	1.7	1.3	0.3	0.5	S	不定形削片素材。
292	b	J2		石鏃	1.9	1.3	0.3	0.2	Ob	左脚・先端欠損。
293	b	H3		石鏃	2.1	1.5	0.5	0.8	Ch	
294	IV	A区	243	扇形剥製石鏃	2.1	1.6	0.4	1.0	Sh	背面に研磨あり。
295	IV	A区	1358	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.4	An	
296	b	H4		石鏃	1.6	1.3	0.4	0.5	Ob	
297	b	J2		石鏃	1.5	1.3	0.3	0.4	Ob	右脚欠損。
298	IV		35	石鏃	1.5	1.1	0.3	0.4	An	右脚欠損。
299	IV	A区	476	石鏃	1.7	1.4	0.2	0.5	Ob	
300	b	H5	35	石鏃	1.5	1.6	0.4	0.3	Ob	
301	b	G2	17	石鏃	1.5	1.4	0.4	0.4	Ob	
302	b	J2		石鏃	2.0	1.9	0.6	1.1	Ob	先端欠損。
303	IV		1318	石鏃	2.4	1.4	0.5	0.9	Ch	
304	b	H4		石鏃	2.5	1.9	0.3	0.9	Ob	
305	b	H4		石鏃	2.2	1.2	0.4	0.8	Ob	
306	b	F	13	石鏃	2.3	1.4	0.4	0.6	Ob	右脚欠損。
307	b		104	石鏃	2.1	1.5	0.4	1.2	Sh	
308	b	H3		石鏃	2.3	1.3	0.5	1.0	Ch	先端欠損。
309	III	A区	214	石鏃	1.8	1.3	0.4	0.4	Ob	右脚欠損。
310	b	H4		石鏃	2.4	1.4	0.4	0.7	Ob	
311	b	J2		石鏃	2.5	1.5	0.4	0.8	An	右脚欠損。
312				石鏃	2.4	1.8	0.5	0.9	An	
313	b	F	14	石鏃	2.2	1.6	0.6	1.8	Ch	先端欠損。
314		A	585	石鏃	2.4	1.7	0.4	1.1	H1	右脚欠損。
315	b	J2		石鏃	2.7	1.8	0.3	1.0	Ob	先端から欠損。
316	b		909	石鏃	1.7	1.5	0.4	0.6	Ch	右脚欠損。
317	IV	P21	カ	石鏃	1.8	1.3	0.4	0.5	Ob	
318	b	J2		石鏃	2.0	1.3	0.3	0.5	Ob	両脚欠損。
319	b		703	石鏃	2.1	1.5	0.4	0.9	Ob	先端・左脚欠損。
320	b	H4		石鏃	1.8	1.4	0.3	0.9	Ob	経擦縁。
321	b	F	15	石鏃	1.9	1.6	0.4	0.9	Ob	先端欠損。
322	III	A区	124	石鏃	2.0	1.1	0.3	0.5	Ch	左脚欠損。
323	b	H2	97	石鏃	1.7	1.4	0.4	0.7	Ob	
324	b			石鏃	3.2	1.7	0.6	1.9	An	
325	b	12		石鏃	3.5	1.8	0.6	2.2	An	
326	IV		1247	石鏃	1.4	1.4	0.3	0.3	Ob	
327	b	14		石鏃	1.5	1.3	0.3	0.3	Ob	

第3表 石器観察表(2)

図号	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
328	b	G4		石鏃	1.4	1.5	0.3	0.3	Ob	
329	b		1369	局部磨製石鏃	1.4	1.2	0.3	0.3	S	表面に研磨痕。
330	b	J2		石鏃	1.9	1.7	0.6	1.2	Ob	
331	b	I4		石鏃	2.0	1.6	0.4	0.9	Ob	
332	b	H4		石鏃	1.9	1.6	0.5	1.2	Ch	
333	b	H4		石鏃	2.1	1.9	0.5	1.6	Ch	
334	b		405	石鏃	2.4	1.9	0.7	2.4	KSh	
335	b		755	石鏃	2.0	1.8	0.3	1.0	An	
336	IV		456	石鏃	1.8	1.5	0.5	0.9	Ch	
337	A		414	石鏃	2.3	1.8	0.5	1.8	Ch	
338	b	H3		石鏃	2.6	1.6	0.6	2.2	Ch	
339	IV	E20	2	石鏃	1.8	1.6	0.2	0.5	Ch	
340	b		1052	石鏃	1.6	1.4	0.3	0.3	Ob	左脚欠損。
341	b		1044	石鏃	1.5	1.6	0.4	0.6	Ch	
342	VII	J5	148	石鏃	2.0	1.7	0.4	0.8	Ob	
343	b	H4		石鏃	1.9	1.4	0.4	0.6	Ob	
344	b	J2		石鏃	1.9	1.4	0.3	0.4	Ob	
345	b	AIK	704	石鏃	2.1	2.0	0.6	1.5	Ob	
346	a	AIK	74	石鏃	2.1	2.2	0.6	1.6	Ch	
347	b	H4		石鏃	1.6	1.7	0.3	0.5	Ch	
348	b	H4		石鏃	2.5	1.5	0.6	1.4	An	
349	b	H3		石鏃	3.1	1.5	0.5	1.3	Ob	腹面産黒曜石の可能性高い。
350	b	J2		石鏃	2.6	1.8	0.4	1.1	Ob	
351	b	H3		石鏃	2.5	1.4	0.5	1.1	Ch	
352	b	J2		石鏃	2.6	1.7	0.4	1.1	An	右脚を調査中に欠損。
353	c		163	石鏃	2.6	2.1	0.4	1.6	S	先端欠損。
354	b	F	14	石鏃	2.9	1.7	0.5	1.2	Hi	右脚欠損。
355	b	I3		石鏃	2.6	1.7	0.4	1.5	Ob	
356	b	I4		石鏃	2.8	1.6	0.6	1.7	An	
357	IV	CIS		局部磨製石鏃	2.9	1.6	0.4	1.9	KS	背面に研磨あり。
358	b		92	石鏃	2.4	1.5	0.5	1.1	Ob	右脚欠損。
359	IV		252	石鏃	2.1	1.5	0.6	1.0	An	
360	b	H2		石鏃	2.0	1.6	0.6	2.0	Ob	
361	b	65		石鏃	1.6	1.1	0.2	0.2	Ch	
362	b	J2		石鏃	1.2	1.2	0.3	0.3	Ob	
363	b	H3		石鏃	1.5	1.4	0.4	1.6	Ch	
364	b	H4		石鏃	3.2	1.9	0.5	1.3	Ch	
365	b	J2		石鏃	4.0	2.3	0.4	2.7	An	先端は調査中に欠損。
366	b	H3		石鏃	1.9	1.8	0.5	1.6	Ch	
367	b		916	石鏃	2.2	1.9	0.4	1.2	Ob	素材剥片の歯辺を石鏃先端としてそのまま利用
368	b	F	H3	石鏃	2.5	1.6	0.6	1.4	An	素材剥片の折断面に残す。
369	b			石鏃	2.6	2.3	0.7	2.8	S	
370	b	I4		石鏃	3.0	2.3	0.6	2.7	Ch	
371	b	65		石鏃	2.7	2.2	0.5	1.6	Ob	
372	b	I4		石鏃	2.1	1.7	0.6	1.3	Ob	素材剥片にはほとんど無調整で成形。
373	b	H3		石鏃	2.7	2.0	0.7	2.5	S	右側縁に、素材剥片の打面を残す。
374	b	I3		石鏃	1.8	1.4	0.3	0.4	Ob	素材剥片形状をほぼそのまま残す。
375	IV		1115	石鏃	1.8	1.5	0.5	1.0	Ob	
376	b	I4		石鏃	1.7	1.7	0.5	1.0	Ch	
377	b	H3		石鏃	1.8	1.7	0.7	1.6	Ob	
378	c		218	石鏃	2.1	1.2	0.6	1.1	Ob	
379	b	H3		石鏃	1.8	2.0	0.5	1.3	Ch	素材剥片形状をほぼそのまま残す。
380	b	J2		石鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	Ob	裏面は素材剥片の剥離面のまま
381	b			石鏃	2.2	1.8	0.5	1.3	Ob	右側縁は素材剥片の折断面。
382	b	H3		石鏃	1.7	1.5	0.6	1.1	Ch	右側面は素材剥片の折断面。
383	a	AIK	392	石鏃	2.2	0.9	0.2	0.4	Ob	完形品。欠損品の再加工か。
384	b	J2		石鏃	1.5	1.1	0.3	0.4	Ob	左脚欠損。
385	a		385	石鏃	1.7	0.9	0.3	0.5	An	左脚欠損。
386	b	I2		石鏃	1.5	1.0	0.4	0.4	Ob	両脚欠損。
387	b	J2		石鏃	1.5	1.2	0.3	0.3	Ob	両脚欠損。
388	b	G4		石鏃	1.5	1.2	0.4	0.5	Ob	両脚欠損。
389	b	H3		石鏃	1.9	1.1	0.3	0.5	Ob	両脚欠損。
390	b	I4		石鏃	1.8	1.9	0.5	0.7	Ob	両脚欠損。
391	b		788	石鏃	1.6	1.3	0.4	0.5	Ob	両脚欠損。
392	IV		1627	石鏃	1.6	1.5	0.4	0.6	Ob	両脚欠損。
393	b			石鏃	1.7	1.8	0.4	1.0	Ch	両脚欠損。
394	b		328	石鏃	4.3	3.2	1.2	11.5	S	他の石鏃に比べ、大形。
395	b	I3		石鏃	2.0	0.9	0.4	0.3	Ob	左脚のみ残存。
396	b	H4		石鏃	1.9	2.0	0.4	1.9	Ch	先端・右脚欠損。
397	IV	J1/2		石鏃	1.9	2.2	0.4	0.9	Ob	先端欠損。

第3表 石器観察表(2)

No	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
398	b	H3		石鏟	2.4	1.4	0.5	1.2	Ch	端面により破損。
399	b	H3		石鏟	2.2	1.8	0.6	1.3	Ob1	右脚のみ残存。
400	IV		150	石鏟	1.2	1.5	0.3	0.5	Ch	先端・両脚欠損。
401	b	H4		石鏟	1.4	1.3	0.4	0.5	Ob	先端・左脚欠損。
402	b	H4		石鏟	0.8	1.2	0.3	0.3	Ob	先端欠損。
403	b	J2		石鏟	2.5	1.4	0.5	1.2	Ob1	右側欠損。
404	IV		80	石鏟	2.6	1.6	0.4	1.2	Ch	右側欠損。
405	b	H3		石鏟	2.1	1.9	0.5	1.8	Ch	先端欠損。
406	b	H4		石鏟	2.9	1.0	0.6	1.3	Ob	右側欠損。
407	IV		459	石鏟	3.0	1.7	0.4	1.1	Ob1	右脚欠損。
408	b	AEx	775	石鏟	3.4	1.8	0.4	1.9	Ch	左脚欠損。
409	b			石鏟	1.5	1.4	0.4	0.4	Ob1	先端・右脚欠損。
410	b		270	石鏟	1.9	1.1	0.5	0.7	Ch	両脚欠損。
411	b	I3		石鏟	1.9	1.3	0.5	0.9	Ob1	先端・両脚欠損。
412	b	I3		石鏟	2.3	1.5	0.4	1.0	Ob1	先端・右脚欠損。
413	b	I3		石鏟	2.8	1.3	0.4	1.1	Ob1	右脚欠損。
414	III	AEx	161	石鏟	2.3	1.2	0.2	0.6	Ob2	右脚欠損。
415	a		104	石鏟	1.3	1.4	0.5	0.9	Ch	先端・左脚欠損。
416	b	I2		石鏟	1.6	1.5	0.4	0.7	Ob1	先端・両脚欠損。
417	b	H3		石鏟	1.7	1.4	0.3	0.6	Ch	先端・左脚欠損。
418	b	J2		石鏟	1.7	1.2	0.4	0.5	Ob1	右側欠損。
419	b	I4		石鏟	2.2	1.5	0.4	0.7	Ob1	左脚欠損。
420	b	H2	66	石鏟	2.0	1.4	0.5	0.7	Ch	左脚欠損。
421	b	J2		石鏟	1.6	1.4	0.4	0.6	Ob1	右脚欠損。
422	b	H3		石鏟	2.1	1.5	0.4	0.5	Ob1	左脚欠損。
423	b	F13		石鏟	2.0	1.2	0.4	1.0	Ch	先端・両脚欠損。
424	b	H2	1	石鏟	2.3	1.6	0.3	0.7	Ob1	右脚欠損。
425	b	J2		石鏟	2.0	1.6	0.3	0.6	Ob1	左脚欠損。
426	b	J2		石鏟	2.1	1.5	0.6	1.3	Ob	左脚欠損。
427	IV		394	石鏟	2.5	1.3	2.5	0.7	Ob1	右脚欠損。
428	b	J2		石鏟	2.7	1.3	0.4	1.1	Ob1	右脚欠損。
429	b	F13		石鏟	2.7	1.5	0.5	1.3	Ob	右脚欠損。
430	b	H4		石鏟	2.5	1.9	0.5	1.4	Ob1	先端・左脚欠損。
431	b		1316	石鏟	2.6	1.7	0.5	1.4	Ch	両脚欠損。
432	b	H3		石鏟	2.9	1.4	0.4	1.2	Ch	右側欠損。
433	b	AEx	801	石鏟	3.6	2.1	0.7	3.5	Ch	両脚欠損。
434	b			石鏟	1.3	1.4	0.4	0.4	Ob1	先端・左脚欠損。
435	b	J1/2		石鏟	2.0	1.6	0.4	0.8	Ob2	右脚欠損。
436	b	F13		石鏟	2.6	1.5	0.3	0.7	Ch	右脚欠損。
437	b	H3		石鏟	2.3	1.6	0.5	0.7	Ob	右脚欠損。
438	b	H4		石鏟	2.1	1.5	0.5	1.3	Ch	先端欠損。
439	b	J2		石鏟	2.9	2.0	0.6	1.9	Ob1	左脚欠損。
440	b	G2	15	石鏟	2.5	2.1	0.5	1.7	Ch	先端・左脚欠損。
441	III		306	石鏟未製品	1.7	1.5	0.8	1.4	Ch	厚みあり。
442	a		245	石鏟未製品	1.7	1.3	0.7	1.0	Ob	厚みあり。
443	b		221	石鏟未製品	2.6	2.1	0.5	2.1	Ob1	「尖頭状石器」。
444	b	F3		石鏟未製品	2.6	1.7	0.6	1.7	Ob1	先端部の調整に欠陥か。
445	III		434	石鏟未製品	2.2	1.8	0.9	3.0	Ob1	厚みあり。
446	b		721	石鏟未製品	2.2	1.8	0.4	2.2	Sh	厚みあり。
447	b	J3		石鏟未製品	2.2	2.1	0.6	2.1	Ob1	厚みあり。
448				石鏟未製品	2.1	2.0	1.1	4.1	Sh	ヒンジフラクチャ。
449	c		108	石鏟未製品	2.7	2.3	0.9	4.9	Ch	「尖頭状石器」。
450	b	I3		石鏟未製品	1.8	1.8	0.6	1.4	Ob1	厚みあり。
451	b	H4		石鏟未製品	2.4	1.8	1.1	2.8	Ob1	厚みあり。
452	b	H3		石鏟未製品	2.4	1.7	0.7	2.2	K	裏面は素材剥片のまま。
453	b		77	石鏟未製品	2.7	2.5	0.9	5.4	Ch	厚みあり。
454	b	H4		石鏟未製品	2.1	1.5	0.6	1.1	Ob1	先端に厚みあり。
455	b	H3		石鏟未製品	2.6	2.0	0.7	1.9	Ch	素材剥片?
456	b	J2		石鏟未製品	2.6	2.1	0.6	4.4	Sh	背面に研磨面あり。
457	IV	J1/2		石鏟未製品	2.6	2.3	0.9	4.3	Ch	ヒンジフラクチャ。
458	b	H3		石鏟未製品	2.4	1.4	0.5	0.8	Ob1	石鏟の可能性あり。
459	b		1365	石鏟未製品	2.5	1.8	0.7	2.9	Ch	
460	b	J1		石鏟未製品	2.2	2.1	0.9	3.4	Ch	素材剥片に近い。
461	b	I3		石鏟未製品	2.8	2.4	0.9	4.5	K	素材剥片に近い。
462	b	I4		石鏟未製品	2.4	1.4	0.7	1.1	Ob1	先端・左脚を欠く。
463	b	H4		石鏟未製品	2.2	2.0	0.8	2.5	Ob1	「尖頭状石器」基部は面をなす。
464	b	H4		石鏟未製品	2.0	2.2	0.7	2.4	Ch	先端の整形に失敗か。
465	b	G2	6	石鏟未製品	2.9	2.4	0.7	4.1	S	
466	b	H3		石鏟未製品	2.7	2.5	1.0	6.4	Ch	「尖頭状石器」。
467	b	H3		石鏟未製品	2.3	2.7	1.4	6.4	Ob	石核?

第3表 石器観察表(2)

品番	層	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
468	b	H4		石鏃木製品	2.4	1.8	0.9	3.2	Ob1	不定形剥片素材。
469	b	H1		石鏃木製品	2.7	2.4	0.9	4.4	Ob1	不定形剥片素材。
470	b			石鏃木製品	1.8	1.7	0.8	3.4	Ob1	裏面は礫面。
471	b	I3		石鏃木製品	2.5	2.5	0.5	2.5	Ob1	先端側に素材剥片の打面を残す。
472	a-		2	石鏃木製品	4.6	3.0	1.1	12.2	S	右側縁は折断により成形。
473	b	H3		石鏃木製品	3.1	2.3	1.0	5.4	Ch	綫長に近い不定形剥片素材。
474	b	I4		石鏃木製品	2.6	1.9	0.9	3.1	Ob1	先端部を先行して作成。
475	b	H3		石鏃木製品	3.3	3.1	1.0	8.3	Ch	基部周辺を先行して作成。
476	b-		922	石鏃木製品	3.0	2.2	1.2	5.7	E	厚みあり。
477	A	353		石鏃木製品	3.4	2.4	1.2	7.8	Ch	
478	b	H3		石鏃木製品	3.6	2.7	1.2	11.5	Ch	素材剥片を折断し、折断面から調整。
479	b	H4		石鏃木製品	3.3	2.1	1.2	6.2	Ob2	裏面に礫面を残す。
480	b-	H4		石鏃木製品	3.4	2.2	1.0	7.9	Ch	厚みあり。
481	b	I3		石鏃木製品	3.6	2.7	1.4	10.8	Sh	左側縁から先行して作成。
482	b	H3		石鏃木製品	3.6	2.4	0.7	4.5	S	素材剥片に近い。
483	b	H4		石鏃木製品	3.5	2.6	1.2	5.9	Ch	厚みあり。
484	b	H3		石鏃木製品	3.0	2.7	1.1	8.3	Ch	厚みあり。
485	A	566		石鏃木製品	3.5	2.4	0.7	6.3	Sh	先端から欠損。尖頭器様の石器として使用か。
486	b	I4		石鏃木製品	3.5	2.5	1.1	7.5	Ch	厚みあり。
487	b-F	H2		石鏃木製品	2.4	2.9	1.0	4.8	Ch	左脚厚みあり。
488	b	H2		石錐	2.1	1.2	0.6	0.8	Ch	錐部は欠損。
489	b-		463	石錐	2.2	1.5	0.8	1.9	Ch	錐部左側面は無調節。
490	b	H3		石錐	2.5	1.7	0.8	2.6	Ob	錐部は欠損。背面に礫面残す。
491	b		102	石路	2.4	1.1	0.6	1.1	Ob	「扶子石器」?
492	A	415		石匙	2.3	1.3	0.4	0.8	Ch	石器下端は素材剥片のまま。
493	b-F	H4		石匙	3.7	1.3	0.7	1.4	Ch	つまみ部の作出は明確。
494	V	I4		石匙	2.2	1.5	0.5	1.1	A	石器下端にむずかな加工。
495	b	H2	96	石匙	2.6	1.6	1.0	3.0	Ob	石器下端は礫面を残す。綫長剥片素材。
496	b	H4		石匙	3.6	1.6	0.5	1.9	Ch	両側縁に熱り。綫長剥片素材。
497	b	H2	103	石鏃木製品	3.1	2.8	0.7	5.2	Ch	錐部は折断によって成形したまま。
498	b			楔形石器	3.0	2.0	1.0	6.9	Ch	横長に近い厚手の不定形剥片素材。
499	b	H3		石匙	3.6	4.6	0.9	14.1	Ch	
500	c		1149	石路	2.6	4.1	1.0	7.2	An	両端は欠損。
501	VlB	M6	83	石匙	4.2	5.7	1.0	13.6	Ch	右側は欠損。
502	b-F	H4		石路	4.2	6.3	0.9	19.3	Ch	
503	V	L8	68	石匙	9.7	3.8	0.9	29.2	KS1	つまみ部は、左側縁は折断、右側縁は抉りで整形。
504	b	H4		異形石器	1.6	2.3	0.4	1.0	Ob	石鏃等。
505	b	I3		異形石器	2.6	1.0	0.6	1.1	Ch	
506	b	H4		異形石器	2.7	4.1	0.8	6.3	Rh	
507				異形局部腰型石鏃	3.3	2.4	0.6	5.8	Ch	顎著に摩滅(研磨?)。「トロトロ石器」。
508	b	H2	109	異形石器	3.2	1.7	0.6	3.2	Sh	X字形?
509	b	H3		異形石器	4.4	3.8	0.8	4.4	Ch	
510	b	J2		異形局部腰型石鏃	4.9	3.1	0.8	6.3	Ch	背面に研磨あり。
511	b	H4		尖頭器	3.5	1.6	0.6	3.7	KSh	基部を欠損。芯裏面に素材剥片面を残す。
512	b	H3		尖頭器	3.5	2.7	0.6	5.1	S	不定形で反り返った剥片素材。尖頭器か?
513	b	I3		尖頭器	5.0	2.1	0.7	8.1	Sh	縦に近い不定形剥片素材。背面に礫面を残す。
514	c		322	尖頭器	3.6	2.8	1.0	7.8	An	下端は欠損。
515	b	H5		尖頭器	6.9	2.8	1.2	21.9	K	調整は粗い。上下端を欠く。
516	V	APK	1079	尖頭器	4.1	2.7	0.9	8.6	H1	先端から欠け。
517	b	J2		孫器	2.5	2.6	1.0	5.1	Ob	素材剥片打削周辺の厚みを刃部の厚みとして利用か。
518	b	J2		孫器	3.2	2.3	0.9	4.7	Ob	裏面に側縁にも調整あり。
519	b-		475	孫器	2.4	2.7	1.0	5.3	Ob	不定形剥片打削部に刃部を設定。
520	b	J2		孫器	2.7	2.4	1.5	5.0	Ob	不定形剥片打削部に刃部を設定。
521	n-		307	削器	4.6	3.5	1.0	14.4	S	両側縁に粗い加工。
522	b	H5	12	削器	4.0	3.9	1.4	22.1	KS1	裏面を中心加工。
523	b-		805	削器	5.2	4.0	1.6	26.9	Sh	茂右側縁下方が刃部。
524	V	APK	189	削器	4.6	4.2	1.6	26.1	Sh	両側縁に刃部。
525	b	G5		削器	1.4	1.1	0.7	0.9	Ob	尖頭部を意識? 厚手の綫長剥片素材。
526	b	J2		削器	2.0	1.4	0.7	1.3	Ob	裏面に礫面を残す。右側縁は折断により成形。
527	b-F	I4	40	削器	1.7	1.8	0.5	0.9	Ob1	不定形剥片の木端に刃部。
528	V		32	削器	1.4	1.9	0.5	0.9	KSh	下端を欠損。
529	b	I4		削器	2.1	1.5	0.7	1.4	Ob2	右側縁が刃部。
530	b	J2		削器	1.9	2.1	0.5	1.5	Ch	両側縁が刃部。上面は折断面で、わずかに加工あり。
531	Vn	J6		削器	2.1	1.9	0.7	2.7	KS1	右側縁から右端部が刃部。
532	b-F	H4		削器	2.2	1.4	0.8	2.5	S1	周縁が刃部。
533	b	H3		削器	2.7	1.9	0.8	2.7	Ch	下端は尖頭部を意識か。右側縁に細かい加工。
534	b-		6	削器	2.5	1.8	1.0	3.0	Ch	右側縁が刃部。
535	a-		310	削器	2.8	1.8	1.3	6.5	Ch	下端部が刃部。
536	b			削器	2.6	1.6	0.8	2.4	Ob1	右側縁が刃部。
537	V	B21	4	削器	2.9	1.5	0.8	3.0	Ob1	尖頭部を意識?

第3表 石器観察表(2)

品番	グリッド	番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考
538 b	H3		削器	2.9	2.0	0.9	3.5	An	素材剥片末端を折断し、そこに刃部を設定。
539 b	H3		削器	3.0	2.1	0.8	5.1	Ch	右側縁が刃部、左側縁は欠損か。
540 c		113	削器	3.6	1.0	0.9	4.5	Ch	右側縁が刃部、左側縁は欠損か。
541 b		881	削器	2.6	2.3	0.6	4.1	Ch	右側縁・下端の裏面に加工。
542 b	J2		削器	3.5	2.4	1.0	8.9	Sh	上縁・右側面に刃部。
543 A		159	削器	3.4	2.5	0.9	6.3	KSh	左側縁に刃部、右側面には微細刻離あり。
544 c		123	削器	3.7	3.0	1.0	12.0	Ob2	右側縁裏面に加工あり。
545 IV	J1/J2		削器	4.5	1.8	0.8	6.1	S	大形の石器の一部か。
546 A		449	削器	3.2	2.9	0.9	9.0	KSh	右側縁に加工あり、刃部か。
547 b	I3		削器	4.1	3.5	1.0	14.9	Sh	下端に無い加工あり、刃部か。
548 b	J2		削器	3.8	2.7	0.8	5.4	Sh	下端を削出させる意識ありか、平坦面で整形。
549 IV		322	削器	5.1	3.3	1.2	18.0	Sh	下端部が刃部。
550 c	G5		削器	4.6	2.9	1.0	10.8	Sh	縦長剥片を折断し、刃断面から細かい加工を入れる。
551 III		463	削器	6.3	4.0	1.1	20.9	Sh	右側縁は側面で、裏面から右側表面に加工あり。
552 b	H4		削器	3.2	5.0	1.5	25.7	Sh	厚手の不定形剥片末端に、裏面に刃部を設定。
553 IV	Ak	74	削器	6.8	4.1	1.6	46.7	S	縦長剥片右側縁と下端に刃部、下端は微細刻離か。
554 IVa	J4	284	削器	6.5	4.2	1.9	29.6	S	右側縁にゆるく外溝した刃部。
555 b		122	削器	5.7	3.4	1.0	16.2	Sh	両面ボジの不定形剥片素材。素材剥片末端に直線的な刃部を設定。
556 A		17	削器	5.8	6.5	1.8	59.5	S	不定形剥片末端に直線的な刃部を設定。裏面の加工は整然と作るもの。
557 bF	H3		削器	5.2	2.6	1.2	14.8	Ob1	横長に近い厚手の不定形剥片素材。右側縁・左側縁下に直線刻離が連続。加工か。
558 III		403	削器	9.5	6.2	2.2	81.2	S	不定形剥片素材。右側縁左側縁下に刃部？刃部周辺の複数や厚壁。
559 IV		385	削器	8.5	3.0	1.4	26.3	Sh	厚手の剥片素材。右側縁は折断面、左側縁は下端を中心後に押出彫刻。
560 IV	I4		削器	8.4	5.2	2.1	103.7	S	厚手の剥片素材。右側縁は折断面、左側縁は下端を中心後に押出彫刻。
561 b	H4		削器	6.6	3.9	2.1	46.0	Sh	素材剥片は剥片剥離の衝撃で縦裂けか。
562 b		229	削器	4.8	3.8	1.0	12.8	Sh	木の棒の石器であったか。下端を欠損。粗い加工。
563 A		228	削器	6.1	4.4	1.3	35.9	S	素材剥片折断後、右器末端に刃部を設定。
564 III	H1	34	削器	6.4	6.0	1.9	73.4	S	左側の三端は折断、右側縁は外溝し。複数は厚溝する。
565 IV		400	削器	5.4	6.5	2.3	46.4	Sh	不定形剥片末端に刃部、背面には剥面残る。
566 b		1328	削器	9.7	4.2	1.8	51.1	S	
567 IV	Ak	19	削器	9.9	4.5	1.8	82.6	S	背面は鏡面。右側縁に加工あり。
568 IV	Ak	220	削器	7.5	4.8	2.2	90.0	S	磨製石器の転用。下端の刃部正面鏡面は波打つ。
569 b		1057	削器	10.1	5.0	2.8	82.8	S	先細りの縦長剥片素材。剥片末端に抉りて、加工。
570 IV	Ak	193	削器	13.6	4.9	1.8	118.2	S	縦長剥片素材。右側縁は折断面か、左側縁に刃部を設定。石器下部は表裏面ともに変容。
571 IV	Ak	405	削器	7.7	3.9	2.3	51.9	S	裏面は鏡面。右側縁は折断面、左側縁に粗い加工。
572 b	J2		削器	8.5	5.7	1.9	69.7	Sh	右側縁に刃部とするものか。
573 A		683	削器	9.7	7.4	2.2	129.7	S	表裏面上面に抉り？
574 b	I3		削器	7.5	8.1	3.2	200.2	Sh	石核の転用か、左側縁裏面に平坦剥離。刃部か。
575 IV		102	二次加工剥片	2.8	1.5	0.8	Ob		
576 b	J2		二次加工剥片	2.9	1.4	0.7	2.5	Ob1	右側面は折面、折面から、裏面に加工あり。
577 b	H3		二次加工剥片	2.7	1.5	1.1	2.7	Ob1	左側面に加工あり。上縁は素材剥片末端を残し、直線で鋸り。
578 bF	H3		二次加工剥片	3.7	2.4	1.3	8.3	Ob1	尖頭部？を意識？
579 b F	I4		二次加工剥片	4.1	1.9	0.8	6.0	Sh	両側縁に粗い加工。
580			二次加工剥片	3.7	2.8	1.0	9.7	Ch	周縁から中心に向かって加工。石器全体に、疲が消耗。
581 b	A	319	二次加工剥片	4.2	2.2	1.2	8.9	Ch	尖頭部分。
582 b	H3		二次加工剥片	4.4	1.7	0.7	4.4	Ob1	石器基部？に加工。先端(圓の上側)は素材剥片の形状を残す。尖頭部を意識？
583 b	I4		研摩ある石器	3.0	2.2	0.4	2.9	S	背面に研磨あり。何らかの磨製石器の剥落したものであろう。
584 b		249	二次加工剥片	4.0	3.9	1.1	15.3	S	不定形剥片素材、左側縁に粗い加工あり。
585 J2			二次加工剥片	8.0	4.8	1.7	51.4	S	右側縁(裏面)から加工。
586 A		29	二次加工剥片	7.1	6.5	2.0	89.3	S	素材剥片裏面の末端に刃部？加工は粗い。機器的な機能か？
587 b	I2		二次加工剥片	7.5	5.6	5.6	48.2	S	不定形剥片の打点近くの両側縁に、抉りか。
588 III	Ak	218	二次加工剥片	5.8	4.6	1.7	43.1	S	円錐から剥離された円形の剥片素材。裏面は鏡面。剥片末端に加工あり。
589 IV		1322	石核	1.5	2.5	1.2	2.1	Ob	單一切面、打面調整あり。複数の不定形剥片剥離。
590 IV		1319	石核	1.8	2.1	1.1	3.4	Ob	單一切面、疎打面、横広の不定形剥片剥離。
591 b	I2		石核	1.2	3.1	1.2	3.6	Ob1	單一切面、疎打面、横広の不定形剥片剥離。
592 a		209	石核	1.3	2.1	1.9	3.5	Ob	單一切面、疎打面、横広の不定形剥片剥離。
593 a	J3		石核	1.3	2.0	1.5	3.4	Ob	疎打面、寸詰まりの縦長剥片剥離。
594 IV		1366	石核	1.8	2.6	1.7	6.5	Ob	不定形剥片剥離。
595 b	J2		石核	1.4	2.1	1.4	1.8	Ob1	剥離面打面、不定形剥片剥離。
596 b	H2		石核	2.0	3.4	1.2	5.5	Ob1	剥離面打面、不定形剥片剥離。

第3表 石器観察表(2)

器No	層	グリッド番号	器種	長	幅	厚	重量	石材	備考	
597	b	J2	石核	1.7	3.8	1.2	4.7	(Ob)	剥離面打面、不定形剥片剥離。	
598	"	88	石核	1.8	3.4	1.3	4.4	(Ob)	剥離面打面、不定形剥片剥離。	
599	b	J2	石核	2.5	2.5	1.4	6.0	(Ob)	剥離面打面、不定形剥片剥離。	
600	b	I4	石核	1.6	2.4	1.8	3.7	(Ob)	裏面は先行剥離面、打面転移後、剥打面より不定形剥片剥離。	
601	b	J2	石核	2.0	2.4	1.4	5.5	(Ob)	剥離面打面、不定形剥片剥離。	
602	b	I4	石核	1.5	2.7	1.7	6.2	(Ob)	剥離面打面、裏面は右側面を打面とする先行剥離、不定形剥片剥離。	
603	b	H4	石核	2.2	2.7	1.4	5.5	(Ob)	剥打面、不定形剥片剥離。	
604	b	J2	石核	2.4	4.0	1.2	10.2	S1	剥離面打面、不定形剥片剥離。	
605	b	I4	石核	2.2	3.1	1.8	9.4	(Ob)	左面を打面に剥片剥離(上層)の後、その剥離面を打面と不定形剥片剥離。	
606	c	319	石核	3.1	4.5	2.2	35.7	珪岩	剥打面、不定形剥片剥離。	
607	A	593	石核	2.6	4.1	2.0	19.9	(Ob)	剥打面、不定形剥片剥離。	
608	b	J2	石核	4.1	3.2	1.9	26.3	K	石核周縁から中央に向かって不定形剥片剥離。	
609	b	H3	石核	4.4	2.5	1.5	13.5	(Ob)	不定形剥片剥離。	
610	a	370	石核	3.6	4.6	2.1	23.8	S1	剥打面、最も近い不定形剥片剥離。	
611	b	J2	石核	5.2	2.6	1.3	10.6	(Ob)	不定形剥片剥離、裏面の抉りは意図的か?	
612	b	J2	石核	3.0	3.8	2.4	20.9	S1	打面調整あり、不定形剥片剥離。	
613	b	I4	石核	5.9	2.7	2.2	2.1	(Ob)	良質でない石材、不定形剥片剥離。	
614	"	I2	石核	1.2	1.1	0.9	1.1	(Ob)	打面は急傾斜、超小形の剥片剥離。	
615	IV	1057	石核	2.5	1.3	0.7	2.1	(Ob)	不定形剥片と緩長剥片を剥離。	
616	b	J2	石核	3.2	3.1	1.7	5.1	(Ob)	打面は急傾斜、緩長剥片剥離。	
617	b	I2	石核	3.2	1.5	1.4	4.2	(Ob)	打面は急傾斜、緩長剥片剥離。	
618	"	436	石核	2.9	2.0	2.2	9.8	(Ob)	斑晶のため剥離困難、不定形剥片剥離。	
619	a	18	石核	1.9	2.3	2.2	9.0	(Ob)	斑晶のため剥離困難、不定形剥片剥離。	
620	A	556	石核	2.1	2.1	2.1	6.2	(Ob)	斑晶のため剥離困難、不定形剥片剥離。	
621	b	G4	石核	1.5	2.4	1.5	3.7	(Ob)	打面調整あり、不定形剥片剥離。	
622	A	98	石核	1.2	2.1	1.4	2.8	(Ob)	打面調整あり、不定形剥片剥離。	
623	b	H4	石核	2.7	1.5	1.8	4.6	(Ob)	規則的な打面転移、不定形剥片剥離。	
624	A	562	石核	3.6	1.9	1.8	8.3	(Ob)	斑晶のため剥離困難、不定形剥片剥離。	
625	b	J2	石核	2.7	1.8	1.2	4.2	(Ob)	剥打面、最も近い不定形剥片剥離。	
626	b	G4	石核	2.3	1.4	1.0	2.7	(Ob)	下側と右側より不定形剥片剥離。	
627	b	J2	石核	3.1	1.6	1.3	4.3	(Ob)	剥離面打面、不定形剥片剥離。	
628	b	J2	石核	2.3	1.5	1.5	3.8	(Ob)	不定形剥片剥離。	
629	b	J2	石核	2.0	1.7	1.6	3.3	(Ob)	剥離面打面、複数に近い不定形剥片剥離。	
630	b	J2	石核	1.8	1.8	1.8	3.4	(Ob)	頻繁な打面転移、不定形剥片剥離。	
631	A	109	石核	2.6	1.9	1.3	3.6	(Ob)	不定形剥片剥離。	
632	b	I2	石核	3.4	2.2	1.5	6.0	(Ob)		
633	A	602	石核	3.6	1.9	1.3	7.0	(Ob)	打面調整あり、不定形剥片剥離。	
634	A	167	石核	2.6	2.3	1.2	6.1	(Ob)	斑晶のため剥離困難、不定形剥片剥離。	
635	b	H4	石核	3.1	2.6	1.4	10.1	(Ob)	上面は磨面、石核周縁から不定形剥片剥離。	
636	a	273	石核	3.1	2.3	1.2	5.8	(Ob)	斑晶のため剥離困難、不定形剥片剥離。	
637	b	J2	石核	2.8	3.1	2.3	20.5	(Ob)	小形の凹進素材、剥打面より、不定形剥片剥離。	
638	b	H5	I	石核	3.6	2.1	1.5	10.8	S1	不定形剥片剥離。
639	b	H4	石核	2.8	2.3	1.5	8.9	S1	剥離面打面、複数に近い不定形剥片剥離。	
640	b	J2	石核	5.6	3.5	2.2	34.4	S1	剥離面打面、不定形剥片剥離。	
641	b	I2	石核	10.2	9.0	4.5	370.0	(Ob)	表面は石核周縁から中央に向かって不定形剥片剥離。頭部などの未製作の可能性あり。	
642	b	1132	石核	7.9	9.5	5.2	320.0	S	亜円錐素材、緩長剥片剥離。	
643	A	114	石核	6.7	9.3	4.3	282.2	S	亜円錐素材、緩長剥片剥離。	
644	"	A区	457	石核	10.7	8.5	4.1	331.6	S	不定形剥片剥離。
645	b	J2	石核	5.1	5.6	2.2	69.5	S1	縦長・不定形剥片剥離。	
646	A	1189	石核	7.2	6.3	3.0	137.4	S	削割として板用	
647	A	1183	石核	8.0	5.1	4.6	130.3	S	打面は磨面、不定形剥片剥離。	
648	IV	A区	66	磨跡	7.3	6.4	2.5	143.9	S	石核の転用。側面は顎者に磨耗。磨耗部は面をなす。
649	IV	A区	356	磨跡	13.9	15.7	5.2	1410.0	S	石核か? 表面のみ粗い加工。亜円錐素材。
650	b	1218	磨跡	12.4	11.1	2.0	650.0	S	右側面は磨者に磨耗する。石材は粗粒の砂岩。	
651	b	65	石鍬	5.1	6.0	2.3	90.3	S	裏面右は整理に沿って剥離。	
652	"	127	石鍬	5.6	5.9	2.4	98.5	S		
653	IV	100	石鍬	6.7	7.1	1.9	125.7	S		
654	"	121	石鍬	6.6	7.5	3.4	191.1	S	表面上下に剥れ。	
655	"	48	石鍬	7.1	7.0	2.1	159.2	S		
656	"	405	石鍬	6.7	7.0	2.8	206.7	S		
657	"	224	石鍬	8.2	6.6	2.9	206.6	S		
658	b	I3	石鍬	6.6	9.6	2.0	199.6	S		
659	IV	A区	1504	石鍬	8.6	9.8	4.8	608.0	S	
660	b	H5	石鍬	8.9	12.5	4.4	686.0	S	トーン部分は磨面。磨面は、使用痕? 潜石の転用品?	
661	b	H2	79	石鍬	9.0	12.9	3.7	677.1	S	
662	b	3	磨製石斧	8.4	3.1	1.6	58.6	S	全面研摩、基部面に面あり。	